

「昭島市地域福祉計画」策定のための 市民アンケート調査報告書

令和 5 年 3 月

昭島市

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査方法と回収状況	3
3. 調査項目	4
4. 調査結果を見る上での注意事項	4
第2章 調査結果の詳細	5
1. 回答者の属性	7
2. 日常生活や地域との関わり合いについて	10
（1）市内を移動する時によく利用する交通手段	10
（2）困り事があるために外出を諦めた経験の有無	12
（3）外出を諦めた理由	14
（4）ご近所（歩いて行ける程度の範囲）での付き合いのある人	16
（5）ご近所との付き合いの意向	18
（6）ご近所との関わりを深める意向	20
（7）地域の人との関わりにより支えられていると感じることがあるか	22
（8）地域の中で安心して生活できていると感じるか	24
（9）支援が必要な人にとって、安心して生活できる環境か	26
（10）ご近所で手助けが必要な人がいた場合の対応	28
（11）ご近所との付き合いや関わりで大切になると思うこと	29
（12）居住地域で問題や課題と感じていること	30
（13）地域の問題や課題の解決方法	33
3. 地域での活動（自治会やボランティア、市民活動等）について	35
（1）自治会への加入状況	35
（2）自治会に加入したことがない理由	37
（3）ボランティア、NPO活動への関心度	39
（4）ボランティア、NPO活動に対するイメージ	41
（5）ボランティア、NPOの活動状況	43
（6）ボランティア、NPO活動の内容	45
4. 福祉に関してご自身やご近所の方が困ったときの対応について	47
（1）福祉的な支援が必要となる困り事に直面しているか	47
（2）福祉的な支援が必要となる困り事の内容	49
（3）福祉的な支援が必要となる困り事が起きたときの相談先	51
（4）市内の福祉的な支援に関する相談窓口の認知度等	53
（5）福祉的な支援に関する相談をする際の懸念	59
（6）福祉的な支援に関する相談窓口に対する要望	61

(7) ご近所の方の困りごとへの気づき	62
(8) ご近所の方の困りごとに気づいたきっかけ	63
(9) ご近所の方の困りごとへの対応	64
(10) ご近所の方から手伝いをお願いされた場合の手伝える範囲	66
(11) ご近所の方から手伝いをお願いされた場合の手伝える頻度	67
5. 福祉に関する制度や事業等について	69
(1) 福祉サービスに関する情報の入手状況	69
(2) 福祉サービスに関する情報の入手先	71
(3) 民生委員・児童委員の役割の認知度	73
(4) 居住地区を担当している民生委員・児童委員の認知度	75
(5) 困った時の民生委員・児童委員への相談意向	77
(6) 昭島市社会福祉協議会の認知度	78
(7) 成年後見制度の認知度	80
(8) 成年後見制度について知っていること	82
(9) 成年後見制度についての考え	83
(10) 成年後見制度の利用意向	84
(11) ヤングケアラーの認知度	85
(12) あなたの世帯、周囲で「ヤングケアラー」と思われる人がいるか	87
6. 災害時の対策について	88
(1) 地域の防災訓練の参加状況	88
(2) 災害が起こったときの避難場所の把握状況	90
(3) 1人での避難能力	91
(4) 災害時に支援を必要とするご近所の方のためにできること	92
(5) 災害時に支援を必要とする人への地域で備えるべき支援策	93
(6) 自宅以外の場所へ避難しなければならない事態に備えた対策	94
7. 地域福祉について	95
(1) 今後の地域づくりと住民との関わりについての考え	95
(2) 地域福祉に対する印象	96
(3) 地域福祉に関する施策を効果的に進めていくために市が取り組むべきこと	97
8. 昭島市の福祉に関する取組について	98
(1) 市の福祉に関する施策の認知度及び関心度	98

第3章 調査票	103
---------------	-----

第 1 章 調査の概要

1. 調査実施の目的

本調査は、「第2期昭島市地域福祉計画」を策定するに当たり、地域福祉に関する市民の意識、地域活動の実態や課題を把握し、計画策定の基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査方法と回収状況

調査地域：昭島市全域

調査対象者：昭島市内在住の満18歳以上の男女個人3,000名

抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出

調査方法：郵送配布、郵送・WEB回収

調査期間：令和4年10月25日（火）～11月11日（金）

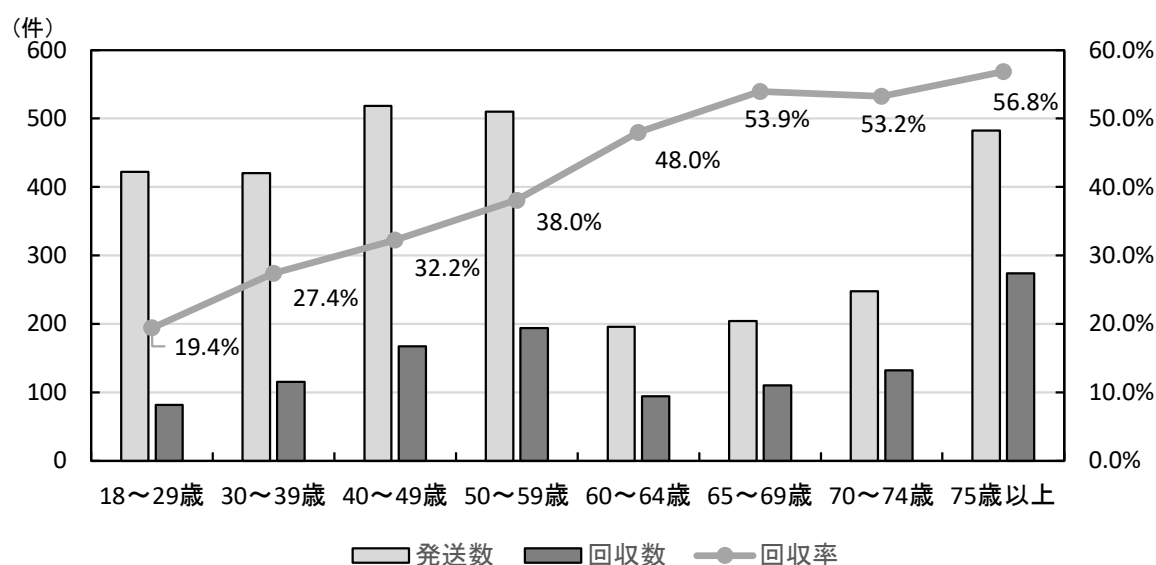
<回収状況>

配布数：3,000票

有効回収数：1,169票（郵送：956件、WEB：213件）

有効回収率：39.0%（郵送：31.9%、WEB：7.1%）

【参考】年齢階級別にみた回収率



3. 調査項目

1. 回答者の属性
2. 日常生活や地域との関わり合いについて
3. 地域での活動（自治会やボランティア、市民活動等）について
4. 福祉に関してご自身やご近所の方が困ったときの対応について
5. 福祉に関する制度や事業等について
6. 災害時の対策について
7. 地域福祉について
8. 昭島市の福祉に関する取組について

4. 調査結果を見る上での注意事項

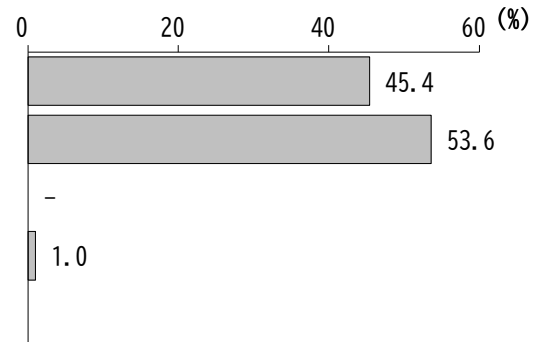
- ・ 本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・ 百分率（％）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。従って、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100％にならない場合がある。
- ・ 複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100％を超える場合がある。
- ・ 本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・ 回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

第2章 調査結果の詳細

1. 回答者の属性

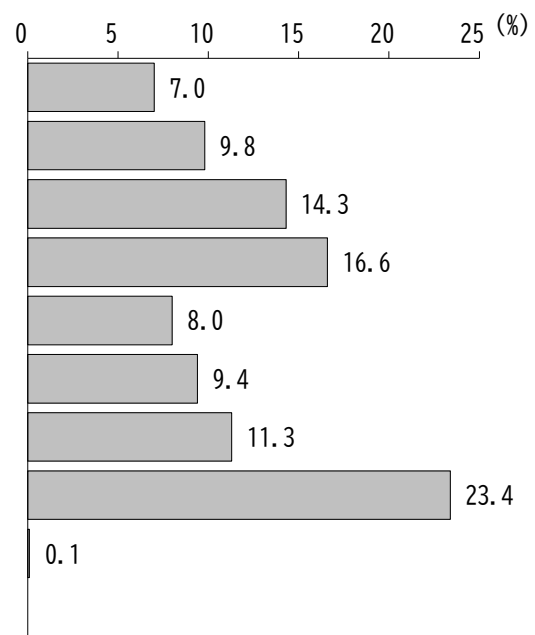
【性別（問1）】

	基数	構成比
男性	531	45.4%
女性	626	53.6%
その他	-	-
無回答	12	1.0%
全 体	1,169	100.0%



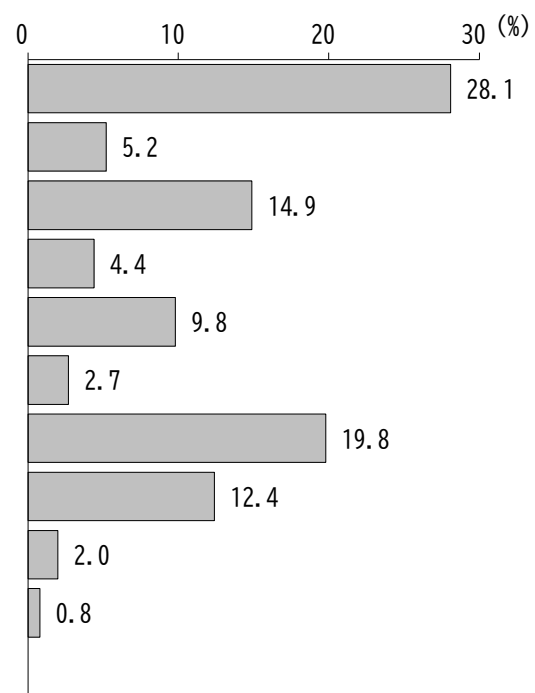
【年齢（問2）】

	基数	構成比
18～29歳	82	7.0%
30～39歳	115	9.8%
40～49歳	167	14.3%
50～59歳	194	16.6%
60～64歳	94	8.0%
65～69歳	110	9.4%
70～74歳	132	11.3%
75歳以上	274	23.4%
無回答	1	0.1%
全 体	1,169	100.0%



【職業（問3）】

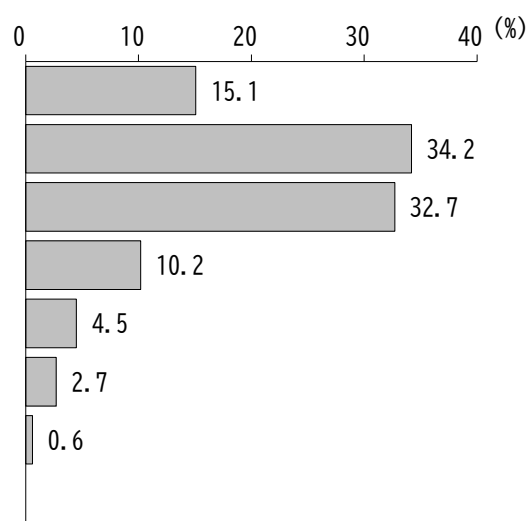
	基数	構成比
会社員・公務員・団体職員（正規雇用）	328	28.1%
派遣社員・契約社員・嘱託社員	61	5.2%
パート・アルバイト・内職	174	14.9%
自営業及びその家族従業員	51	4.4%
専業主婦・主夫	115	9.8%
学生	31	2.7%
年金生活者	232	19.8%
無職	145	12.4%
その他	23	2.0%
無回答	9	0.8%
全 体	1,169	100.0%



第2章 調査結果の詳細

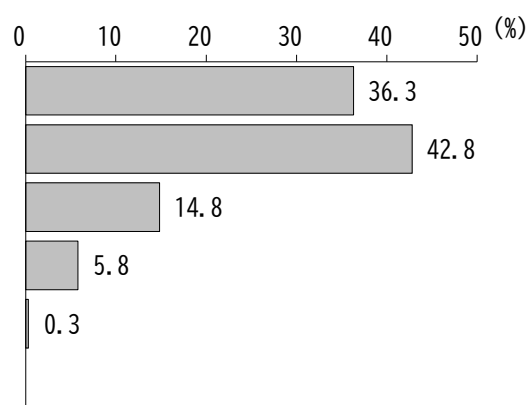
【世帯構成（問4）】

	基数	構成比
単身世帯（1人で住んでいる世帯）	177	15.1%
一世代世帯（夫婦（事実婚を含む）、または兄弟姉妹で住んでいる世帯）	400	34.2%
二世代世帯（夫婦（事実婚を含む）と子どもで住んでいる世帯）	382	32.7%
二世代世帯（ひとり親と子どもで住んでいる世帯）	119	10.2%
三世代世帯（親と子どもと孫で住んでいる世帯）	53	4.5%
その他の世帯	31	2.7%
無回答	7	0.6%
全 体	1,169	100.0%



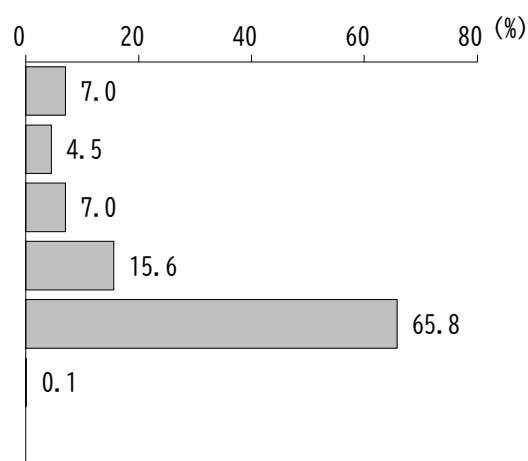
【健康状態（問5）】

	基数	構成比
健康だと思う	424	36.3%
どちらかといえば健康だと思う	500	42.8%
あまり健康ではないと思う	173	14.8%
健康ではないと思う	68	5.8%
無回答	4	0.3%
全 体	1,169	100.0%



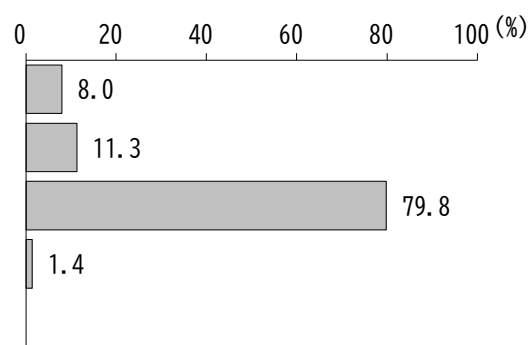
【居住年数（問6）】

	基数	構成比
3年未満	82	7.0%
3年～5年未満	53	4.5%
5年～10年未満	82	7.0%
10年～20年未満	182	15.6%
20年以上	769	65.8%
無回答	1	0.1%
全 体	1,169	100.0%



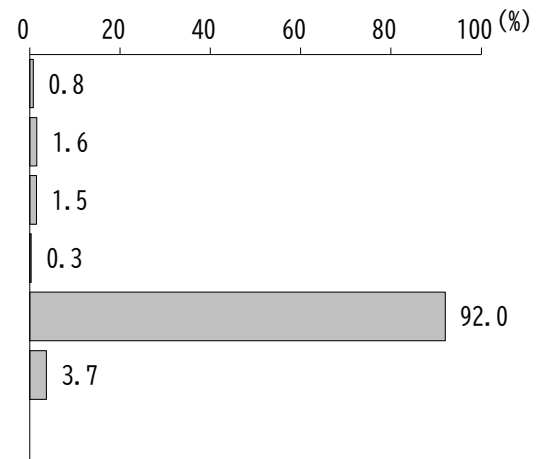
【就学前の子育て、介護・介助の状況（問7）】（複数回答）

	基数	構成比
就学前の子育てをしている	93	8.0%
家族の介護・介助をしている	132	11.3%
していない	933	79.8%
無回答	16	1.4%
全 体	1,169	100.0%



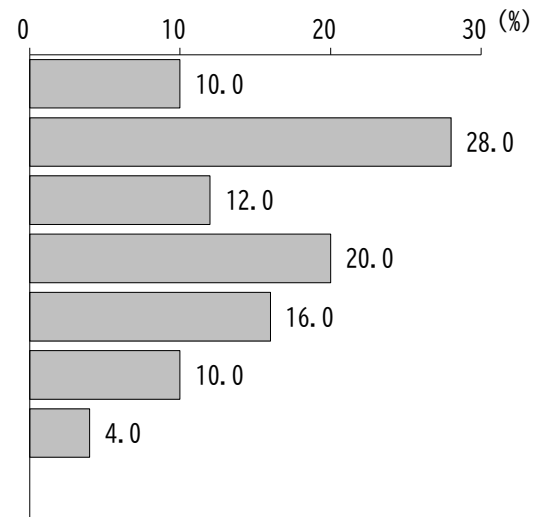
【ひきこもりの状態の人の有無（問8）】（複数回答）

	基数	構成比
いる（20歳未満）	9	0.8%
いる（20歳以上40歳未満）	19	1.6%
いる（40歳以上60歳未満）	18	1.5%
いる（60歳以上）	4	0.3%
いない	1,076	92.0%
無回答	43	3.7%
全 体	1,169	100.0%



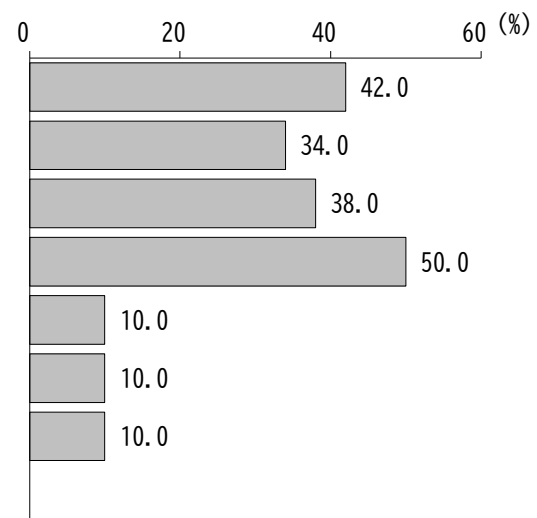
【ひきこもりの状態になってからの経過期間（問9 ※問8で「いる」と答えた方）】（複数回答）

	基数	構成比
6か月以上1年未満	5	10.0%
1年以上3年未満	14	28.0%
3年以上5年未満	6	12.0%
5年以上10年未満	10	20.0%
10年以上20年未満	8	16.0%
20年以上	5	10.0%
無回答	2	4.0%
全 体	50	100.0%



【ひきこもりの状態の人や家族に対して必要な支援（問10 ※問8で「いる」と答えた方）】（複数回答）

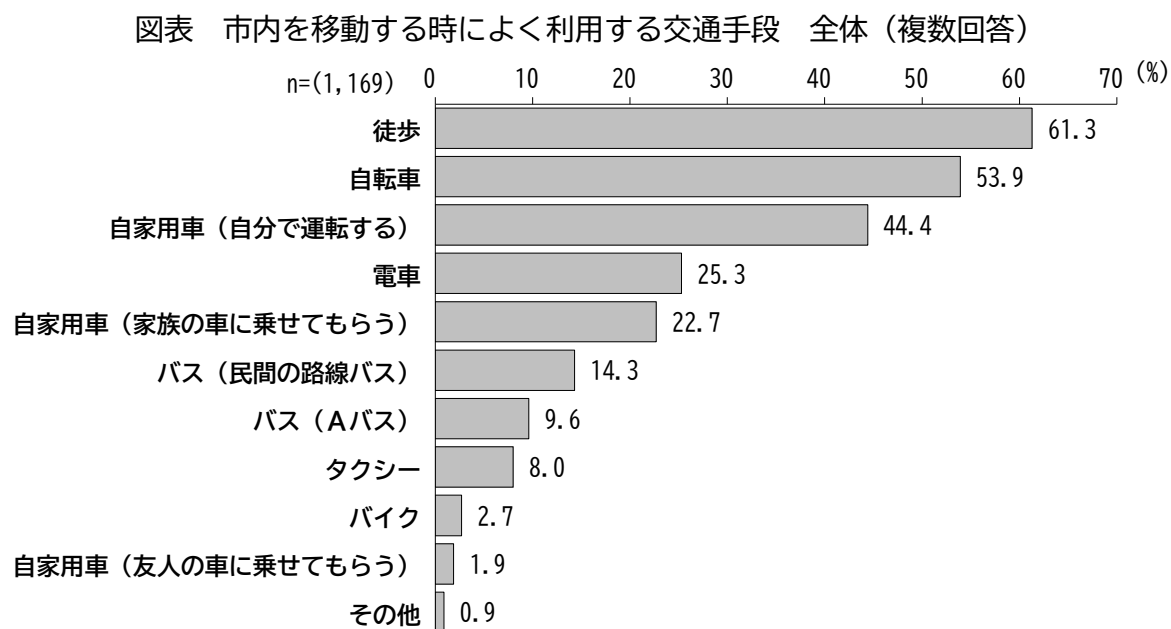
	基数	構成比
当事者・家族の相談先	21	42.0%
相談窓口・家族会等の情報提供	17	34.0%
当事者の居場所づくり	19	38.0%
社会参加への支援や就労支援	25	50.0%
その他	5	10.0%
わからない	5	10.0%
無回答	5	10.0%
全 体	50	100.0%



2. 日常生活や地域との関わり合いについて

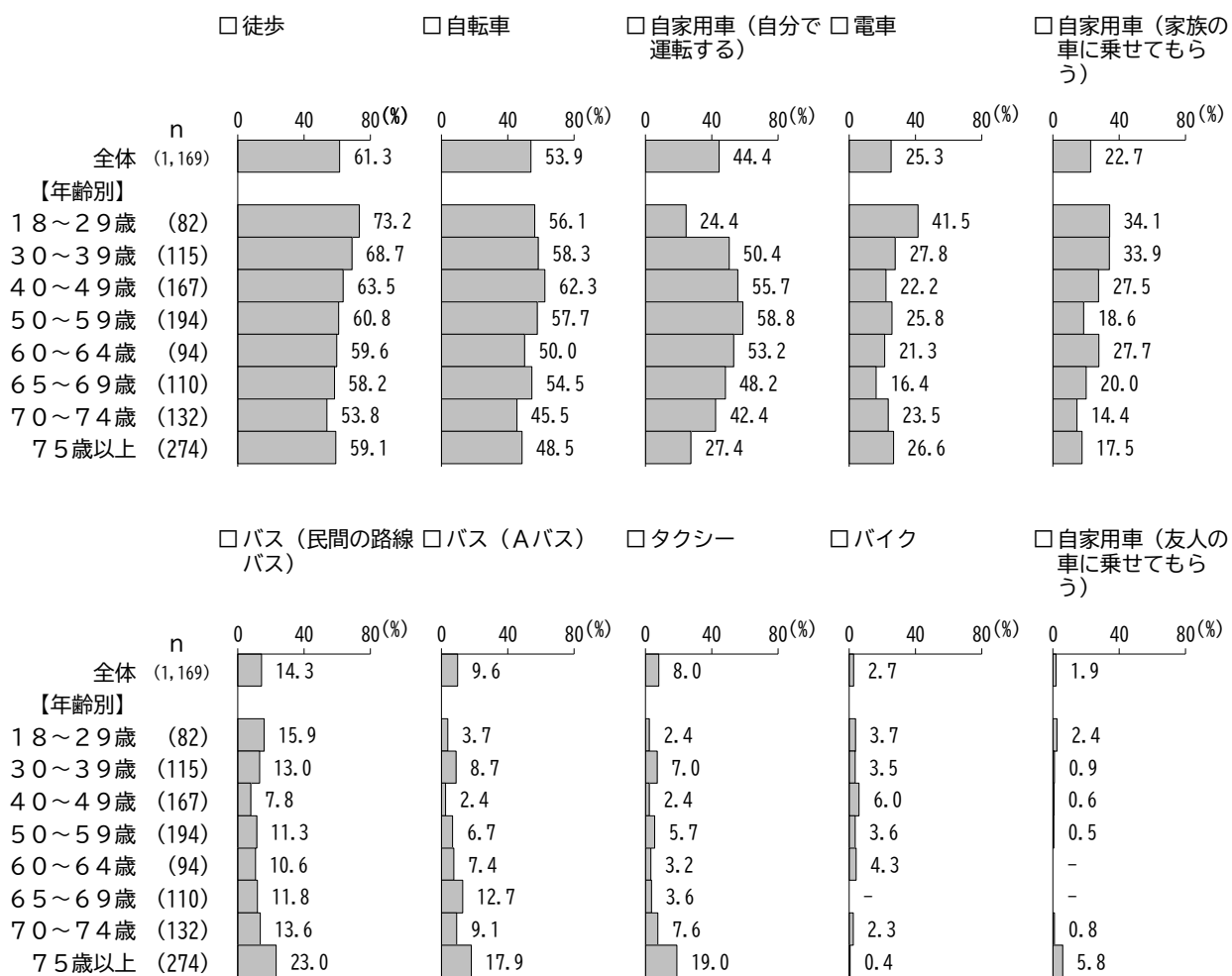
(1) 市内を移動する時によく利用する交通手段

問11 あなたが市内を移動する時に、よく利用する交通手段は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



市内を移動する時によく利用する交通手段について聞いたところ、「徒歩」が61.3%と最も高かった。以下、「自転車」(53.9%)、「自家用車（自分で運転する）」(44.4%)、「電車」(25.3%)となっている。

図表 市内を移動する時によく利用する交通手段 年齢別（複数回答）

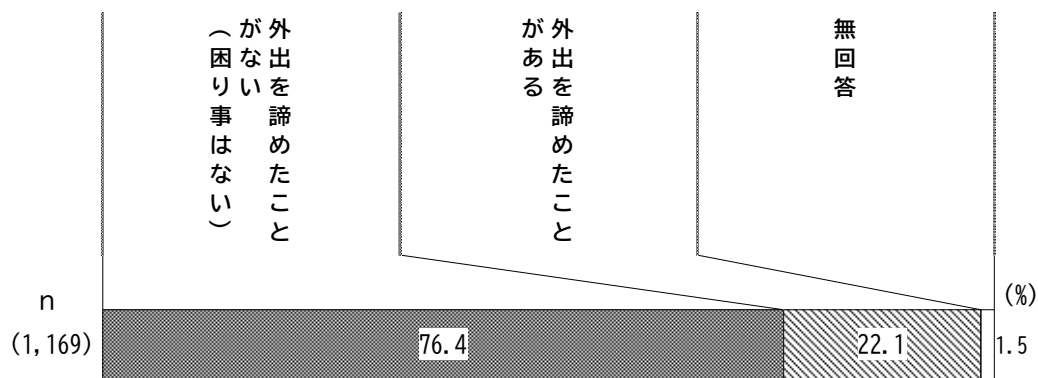


年齢別でみると、「徒歩」は、年代が下がるにつれておおむね高くなっている。「自転車」は、『40～49歳』（62.3%）が他の年代より高くなっている。「電車」は、『18～29歳』（41.5%）が他の年代より高くなっている。

(2) 困り事があるために外出を諦めた経験の有無

問12 あなたは、外出したいと思っても、困り事があるために外出を諦めたことがありますか。(1つだけに○)

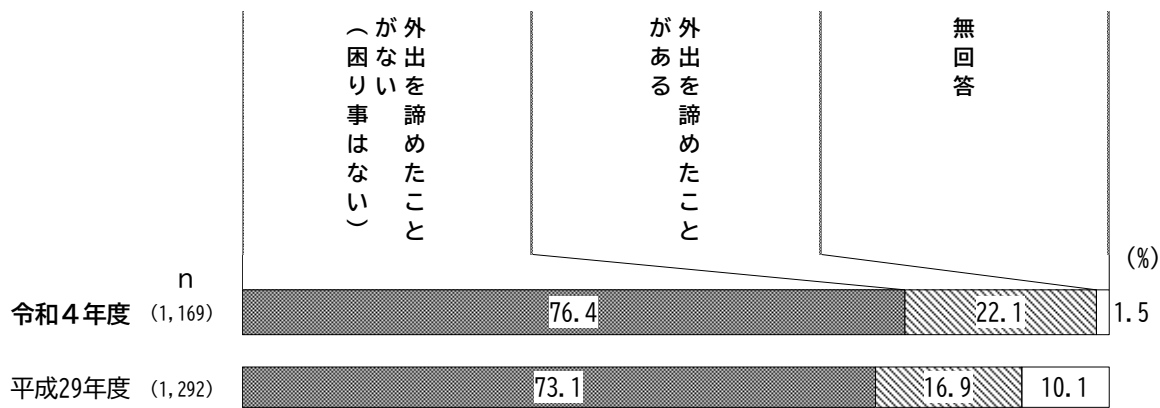
図表 困り事があるために外出を諦めた経験の有無 全体



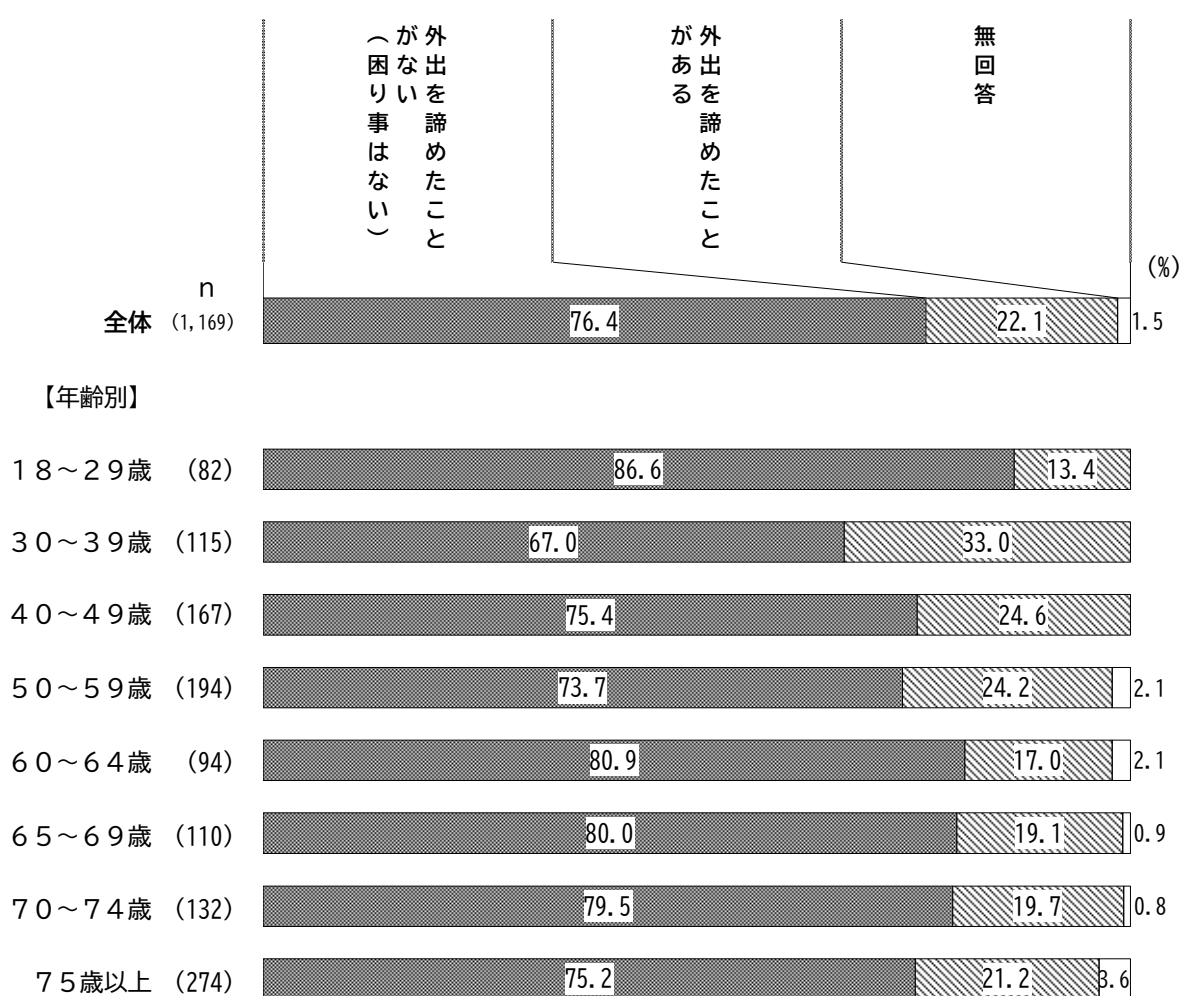
困り事があるために外出を諦めた経験の有無について聞いたところ、「外出を諦めたことがない(困り事はない)」が76.4%、「外出を諦めたことがある」が22.1%となっている。

平成29年度と比較すると、外出を諦めた経験の有無は「外出を諦めたことがある」は5.2ポイント増加している。

図表 困り事があるために外出を諦めた経験の有無 全体※前回比較



図表 困り事があるために外出を諦めた経験の有無 年齢別

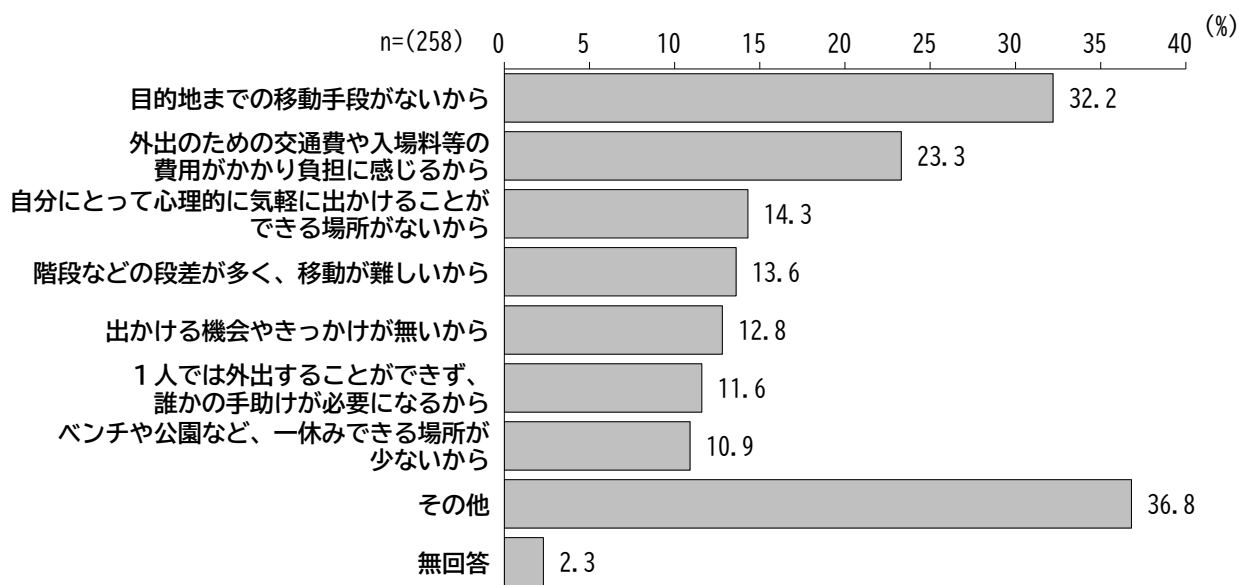


年齢別でみると、「外出を諦めたことがない（困り事はない）」は、『18～29歳』（86.6%）が他の年代より高くなっている。「外出を諦めたことがある」は、『30～39歳』（33.0%）が他の年代より高くなっている。

(3) 外出を諦めた理由

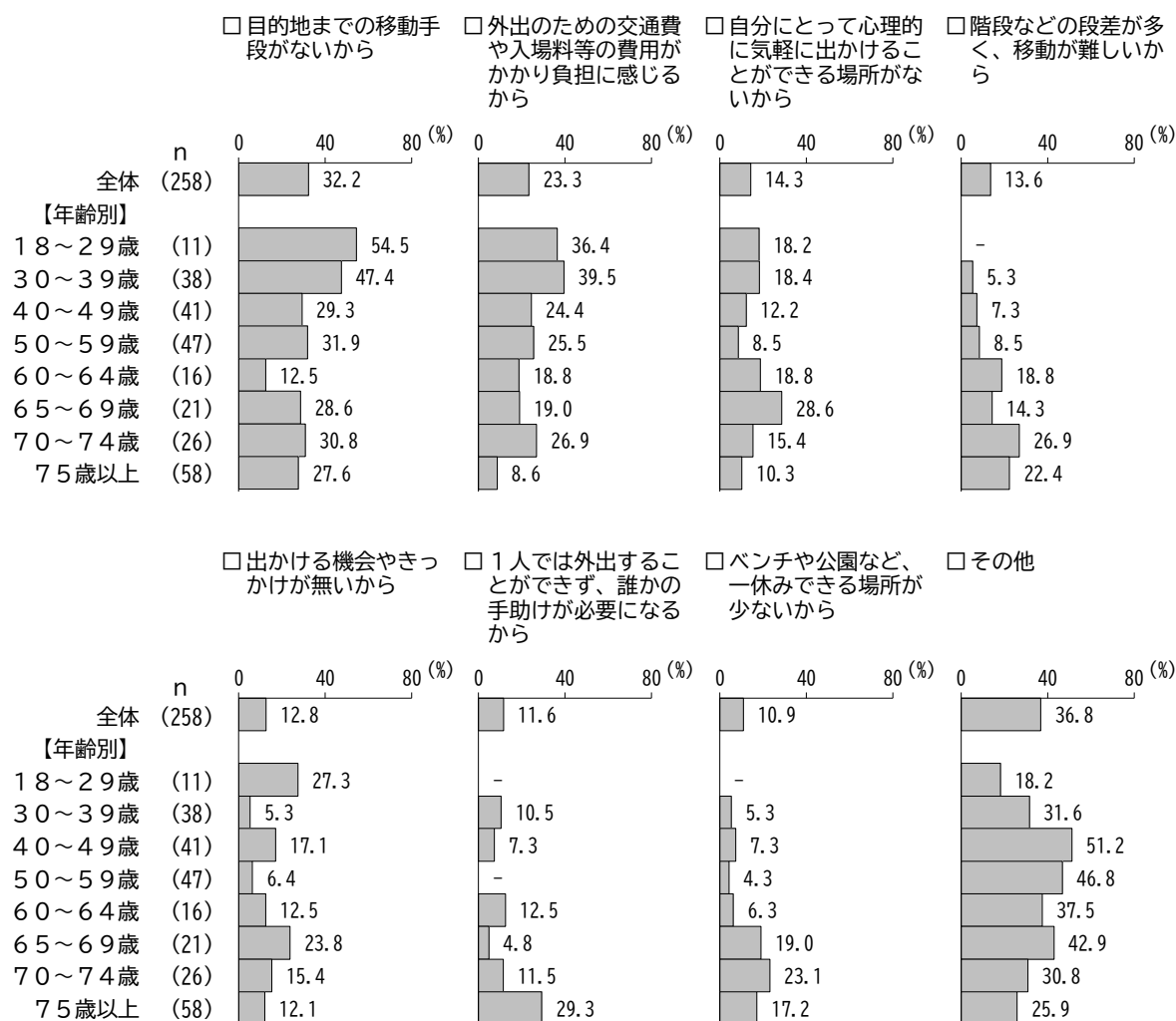
問13 問12で「2 外出を諦めたことがある」と答えた方にお聞きします。
あなたが、外出を諦めたのはどのような理由ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 外出を諦めた理由 全体（複数回答）



外出を諦めたことがある方に外出を諦めた理由について聞いたところ、「目的地までの移動手段がないから」が32.2%と最も高かった。以下、「外出のための交通費や入場料等の費用がかかり負担に感じるから」（23.3%）、「自分にとって心理的に気軽に出かけることができる場所がないから」（14.3%）、「階段などの段差が多く、移動が難しいから」（13.6%）となっている。一方、「その他」は36.8%であった。「その他」の主な内容は、「介護・介助」、「子どもがいるから」、「体調」、「天候」などが挙げられている。

図表 外出を諦めた理由 年齢別（複数回答）

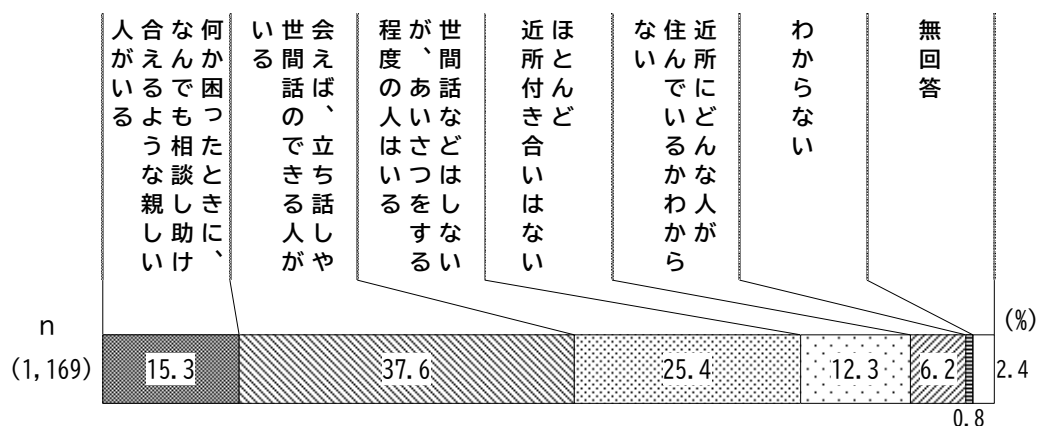


年齢別でみると、「自分にとって心理的に気軽に出かけることができる場所がないから」は、『65～69歳』（28.6%）が他の年代より高くなっている。「階段などの段差が多く、移動が難しいから」は、『70～74歳』（26.9%）が他の年代より高くなっている。「1人では外出することができず、誰かの手助けが必要になるから」は、『75歳以上』（29.3%）が他の年代より高くなっている。

(4) ご近所（歩いて行ける程度の範囲）での付き合いのある人

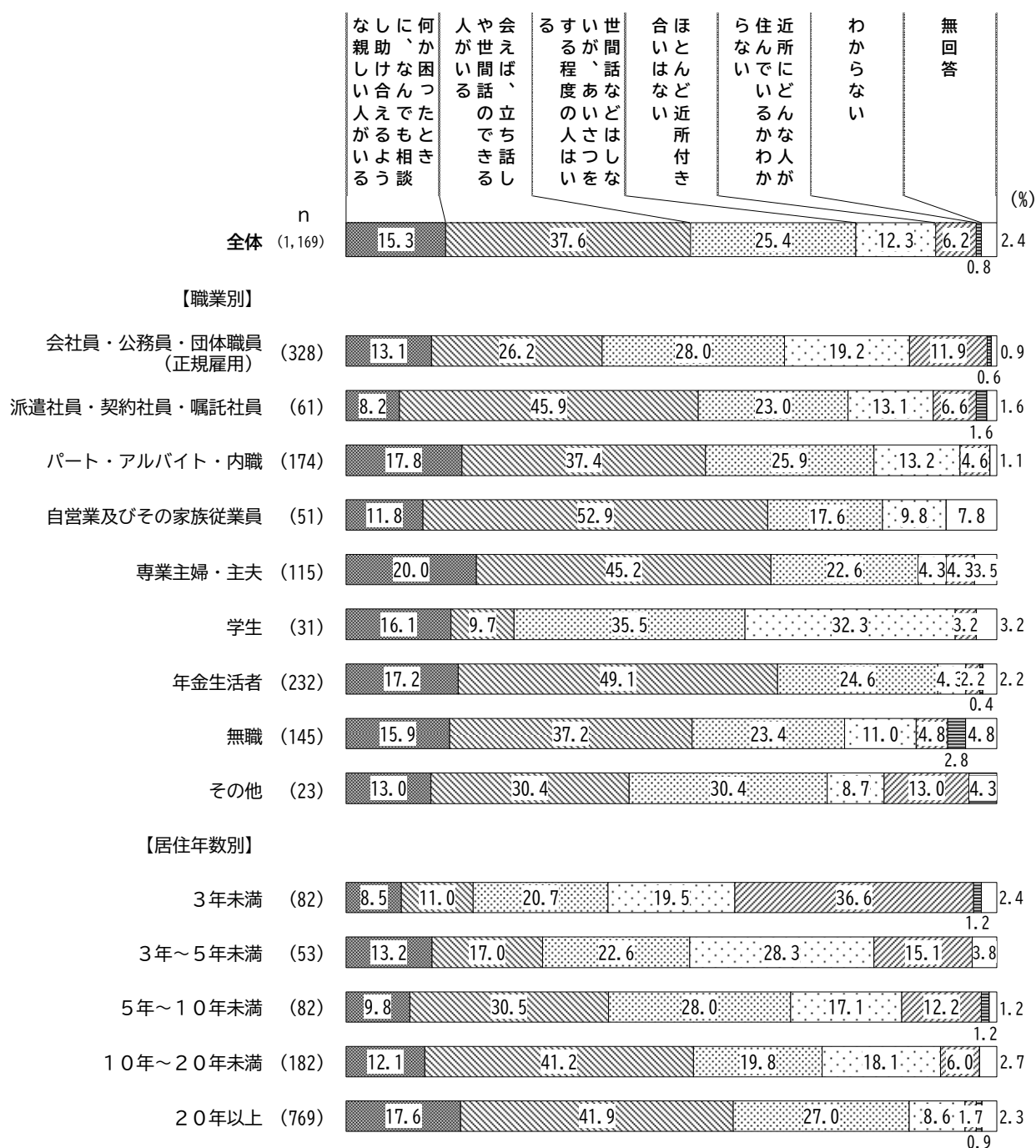
問14 あなたは、ご近所（歩いて行ける程度の範囲）にどの程度の付き合いの人がいますか。
（1つだけに○）

図表 ご近所（歩いて行ける程度の範囲）での付き合いのある人 全体



ご近所（歩いて行ける程度の範囲）での付き合いのある人について聞いたところ、「何か困ったときに、なんでも相談し助け合えるような親しい人がいる」は15.3%、「会えば、立ち話しや世間話のできる人がいる」は37.6%、「世間話などはないが、あいさつをする程度の人」は25.4%、「ほとんど近所付き合いはない」12.3%、「近所にどんな人が住んでいるかわからない」は6.2%となっている。一方、「わからない」は0.8%であった。

図表 ご近所（歩いて行ける程度の範囲）での付き合いのある人 職業別、居住年数別



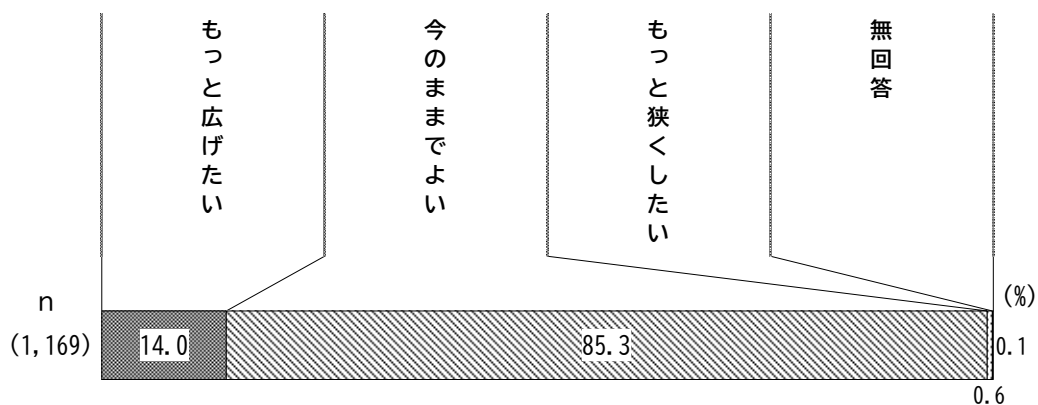
職業別でみると、「何か困ったときに、なんでも相談し助け合えるような親しい人がいる」は、『専業主婦・専業主夫』（20.0%）が他の職業より高くなっている。「会えば、立ち話しや世間話のできる人がいる」は、『自営業及びその家族従業員』（52.9%）が他の職業より高くなっている。

居住年数別でみると、「会えば、立ち話しや世間話のできる人がいる」は、居住年数が長くなるにつれて高くなっている。「近所にどんな人が住んでいるかわからない」は、『3年未満』（36.6%）が最も高くなっている。

(5) ご近所との付き合いの意向

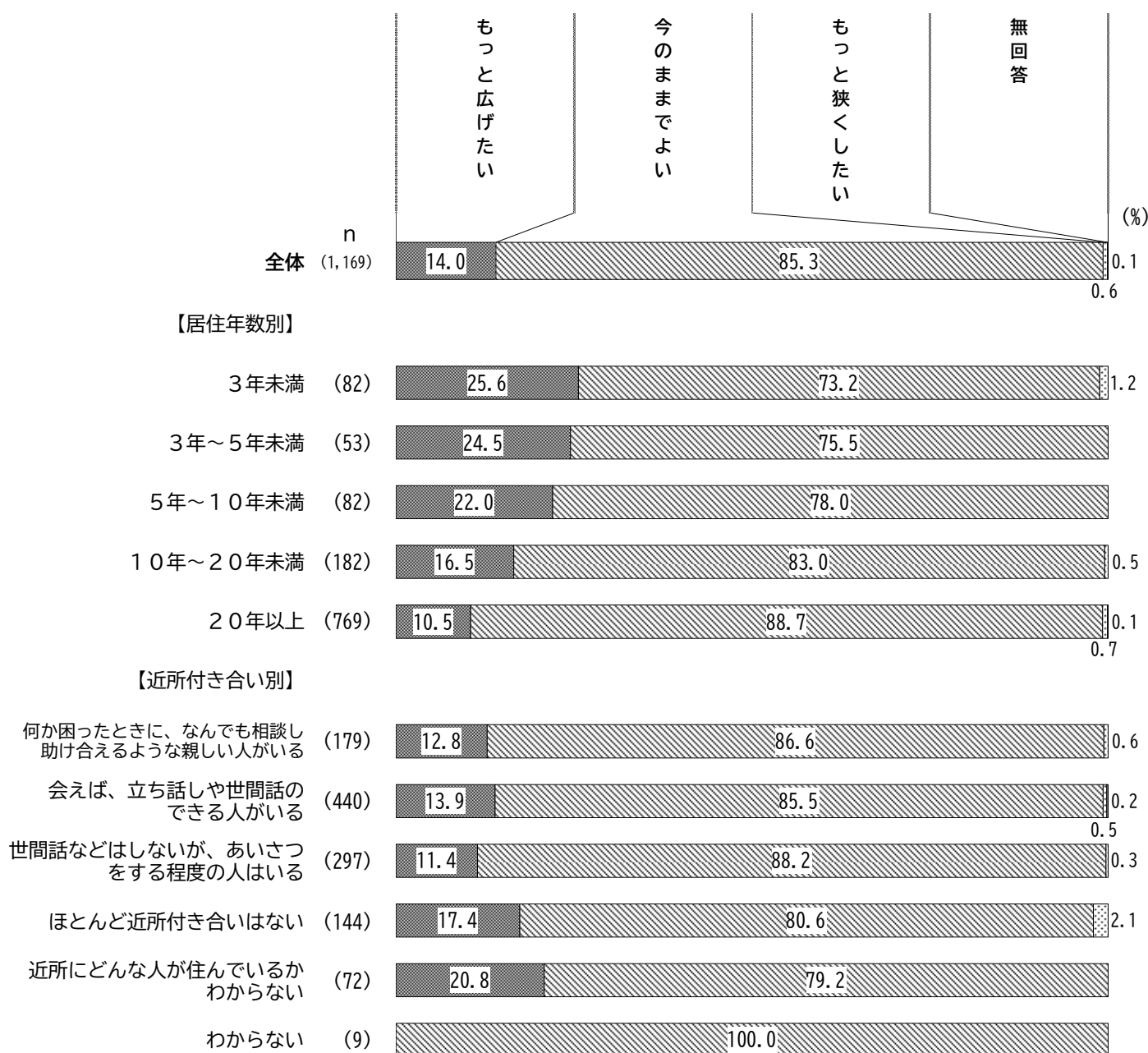
問15 あなたは、ご近所との付き合いをどのようにしたいと思いますか。(1つだけに○)

図表 ご近所との付き合いの意向 全体



ご近所との付き合いの意向について聞いたところ、「もっと広げたい」は14.0%、「今のままでよい」は85.3%、「もっと狭くしたい」は0.6%となっている。

図表 ご近所との付き合いの意向 居住年数別、近所付き合い別



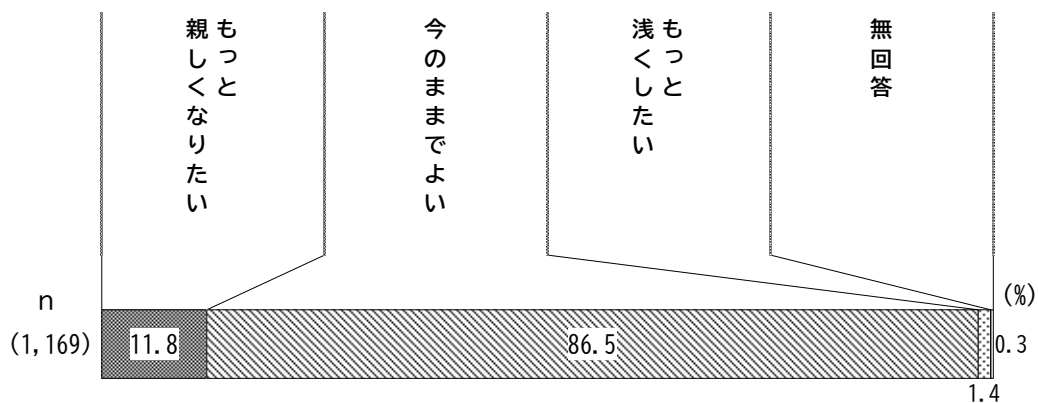
居住年数別でみると、「もっと広げたい」は、居住年数が短くなるにつれて高くなっている。
「今のままでよい」は、居住年数が長くなるにつれて高くなっている。

近所付き合い別でみると、「もっと広げたい」は、『近所にどんな人が住んでいるかわからない』
(20.8%) が最も高くなっている。

(6) ご近所との関わりを深める意向

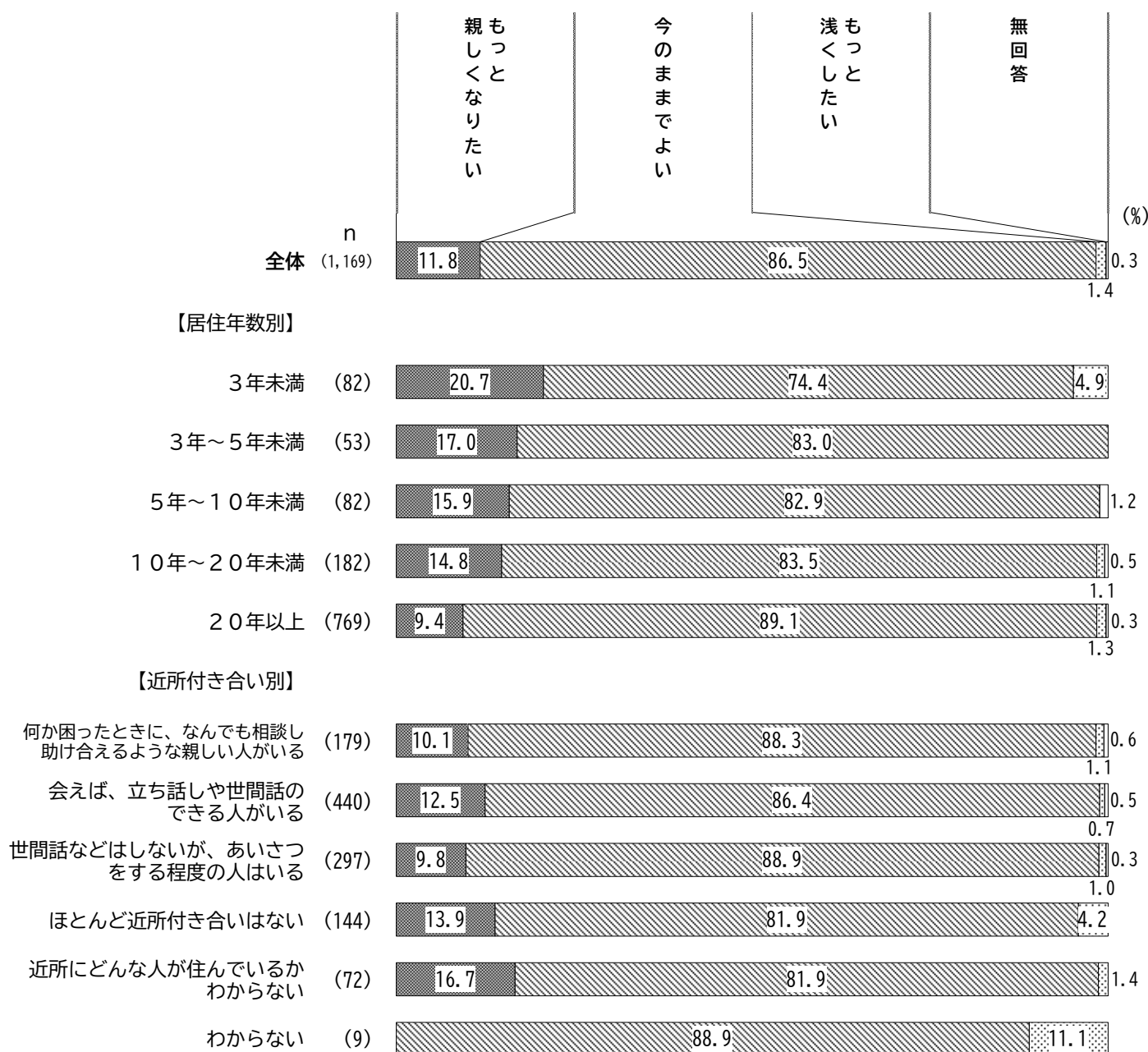
問16 あなたは、ご近所との関わりを深めたいと思いますか。(1つだけに○)

図表 ご近所との関わりを深める意向 全体



ご近所との関わりを深める意向について聞いたところ、「もっと親しくなりたい」は11.8%、「今のままでよい」は86.5%、「もっと浅くしたい」は1.4%となっている。

図表 ご近所との関わりを深める意向 居住年数別、近所付き合い別



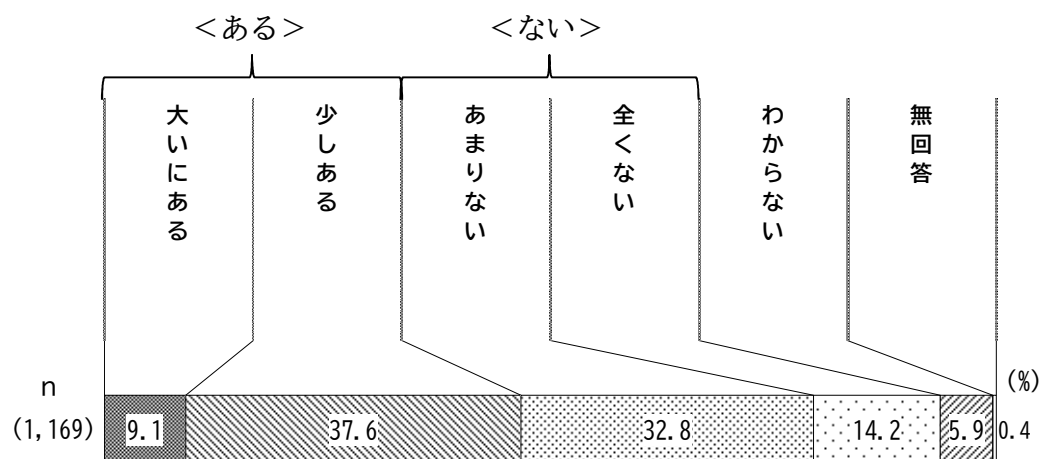
居住年数別でみると、「もっと親しくなりたい」は、居住年数が短くなるにつれて高くなっている。「今のままでよい」は、居住年数が長くなるにつれて高くなっている。

近所付き合い別でみると、「もっと親しくなりたい」は、『近所にどんな人が住んでいるかわからない』(16.7%)が最も高くなっている。

(7) 地域の人との関わりにより支えられていると感じることがあるか

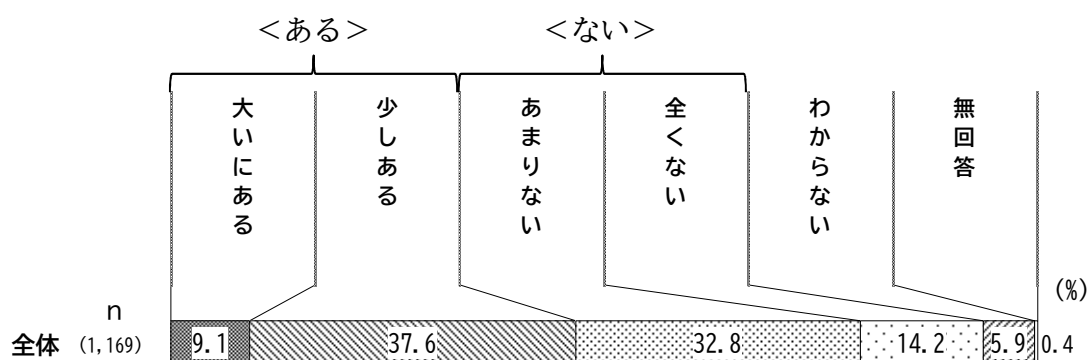
問17 あなたは、日頃、生活をしている中で、地域の人との関わりにより支えられていると感じることはありますか。(1つだけに○)

図表 地域の人との関わりにより支えられていると感じることがあるか 全体

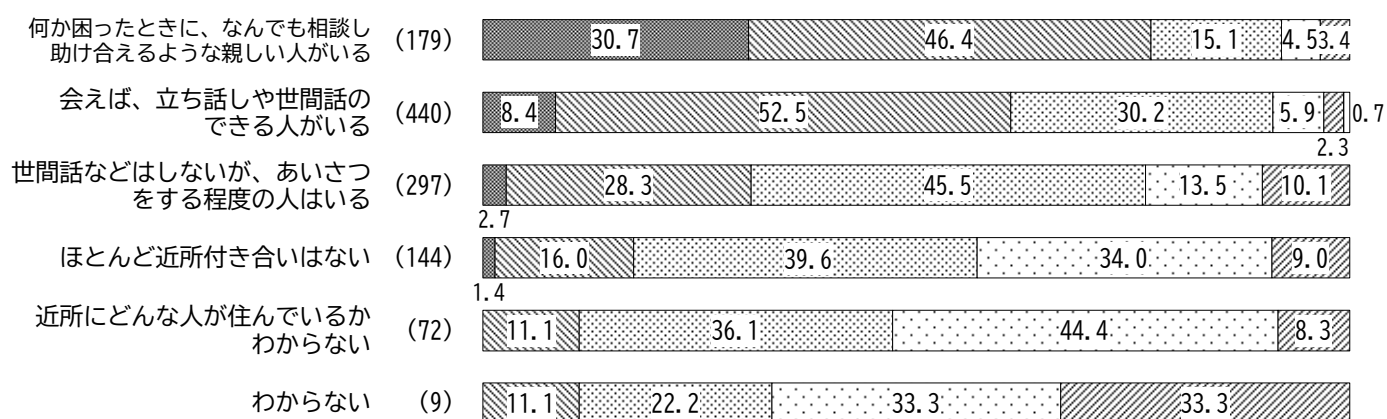


地域の人との関わりにより支えられていると感じることがあるかについて聞いたところ、「大いにある」は9.1%、「少しある」は37.6%で、両者を合わせた<ある>の割合は46.7%となっている。「あまりない」は32.8%、「全くない」は14.2%で、両者を合わせた<ない>の割合は47.0%となっている。一方、「わからない」は5.9%であった。

図表 地域の人との関わりにより支えられていると感じることがあるか 近所付き合い別



【近所付き合い別】

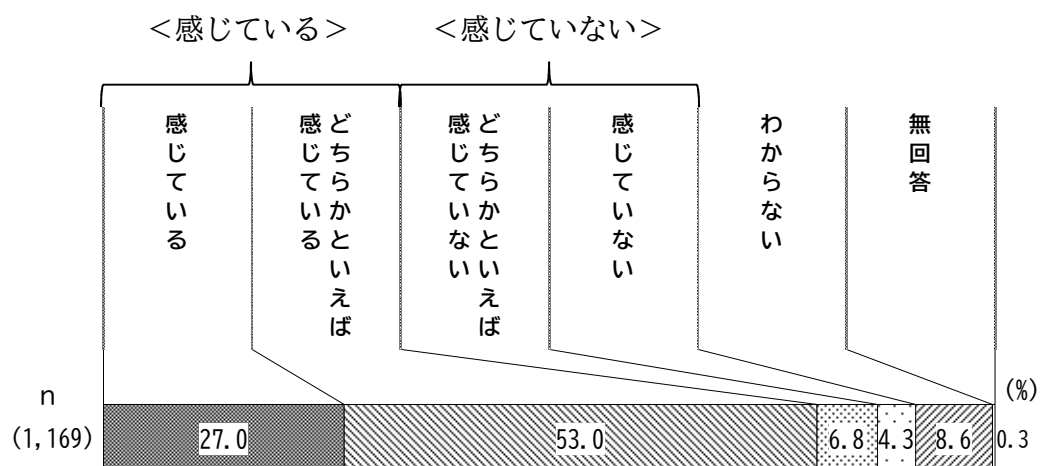


近所付き合い別でみると、「大いにある」と「少しある」を合わせた＜ある＞の割合は、近所付き合いが多くなるにつれて高くなっており、『何か困ったときに、なんでも相談し助け合えるような親しい人がいる』（77.1%）が最も高くなっている。「あまりない」と「全くない」を合わせた＜ない＞の割合は、近所付き合いが少なくなるにつれて高くなっており、『近所にどんな人が住んでいるかわからない』（80.5%）が最も高くなっている。

(8) 地域の中で安心して生活できていると感じるか

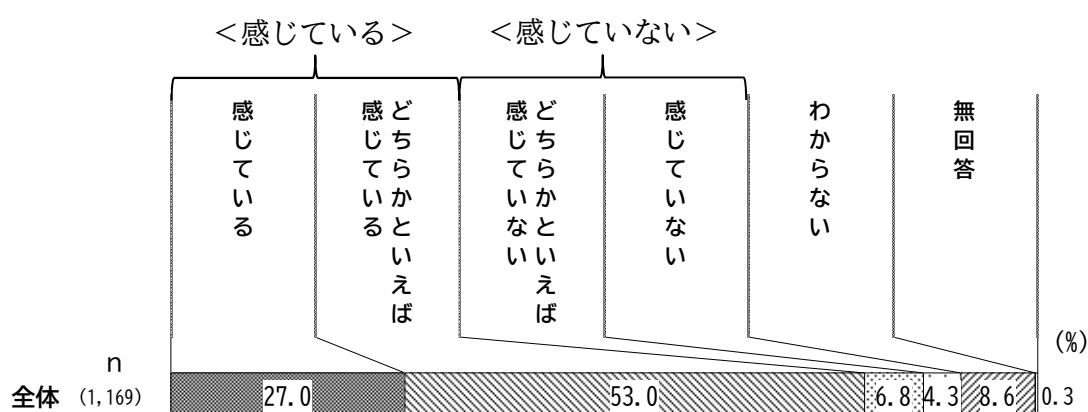
問18 あなたは、地域の中で安心して生活できていると感じますか。(1つだけに○)

図表 地域の中で安心して生活できていると感じるか 全体

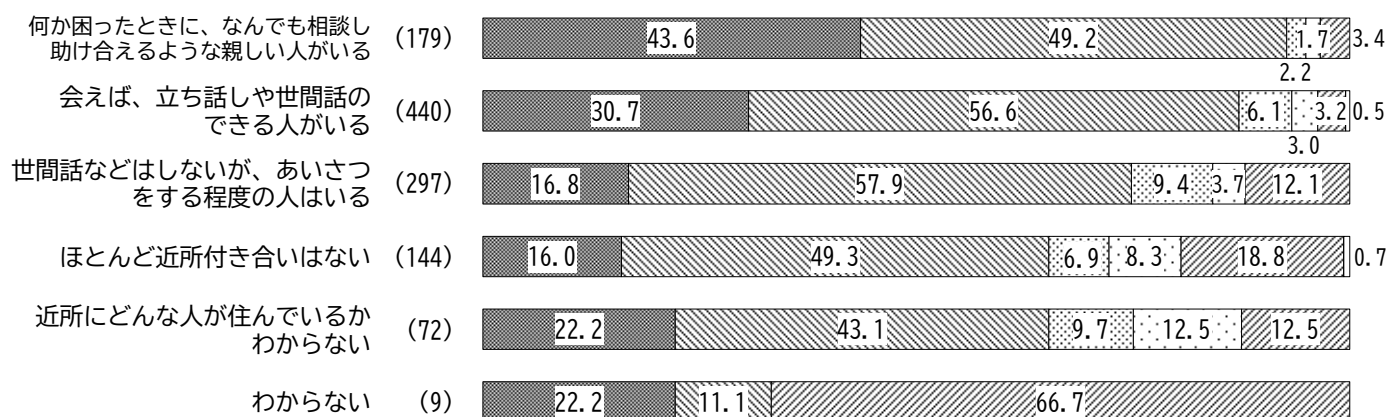


地域の中で安心して生活できていると感じるかについて聞いたところ、「どちらかといえば感じている」が53.0%と最も高く、「感じている」は27.0%で、両者を合わせた<感じている>の割合は80.0%となっている。「どちらかといえば感じていない」は6.8%、「感じていない」は4.3%で、両者を合わせた<感じていない>の割合は11.1%と、<感じている>が<感じていない>を上回っている。一方、「わからない」は8.6%であった。

図表 地域の中で安心して生活できていると感じるか 近所付き合い別



【近所付き合い別】

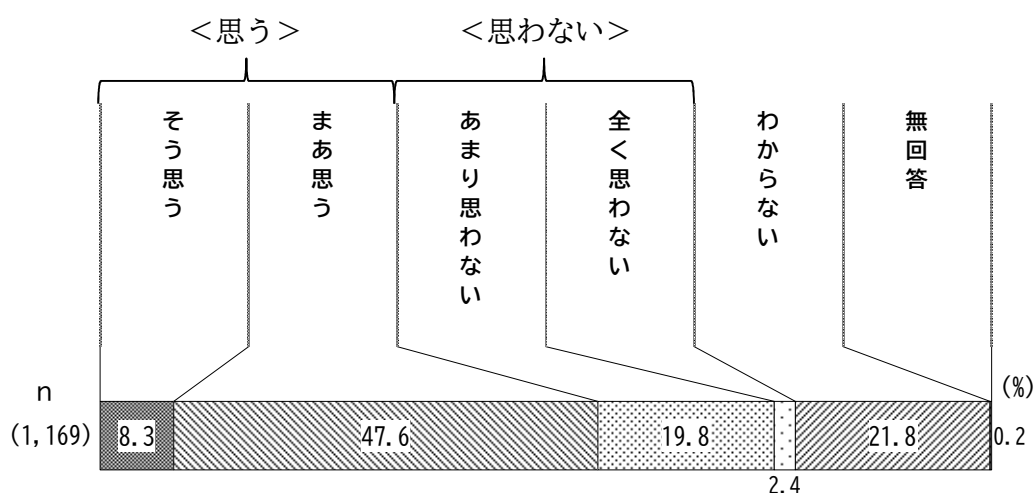


近所付き合い別でみると、「どちらかといえば感じている」と「感じている」を合わせた＜感じている＞の割合は、近所付き合いが多くなるにつれて高くなっており、「感じている」は、『何か困ったときに、なんでも相談し助け合えるような親しい人がいる』（43.6%）が最も高くなっている。

(9) 支援が必要な人にとって、安心して生活できる環境か

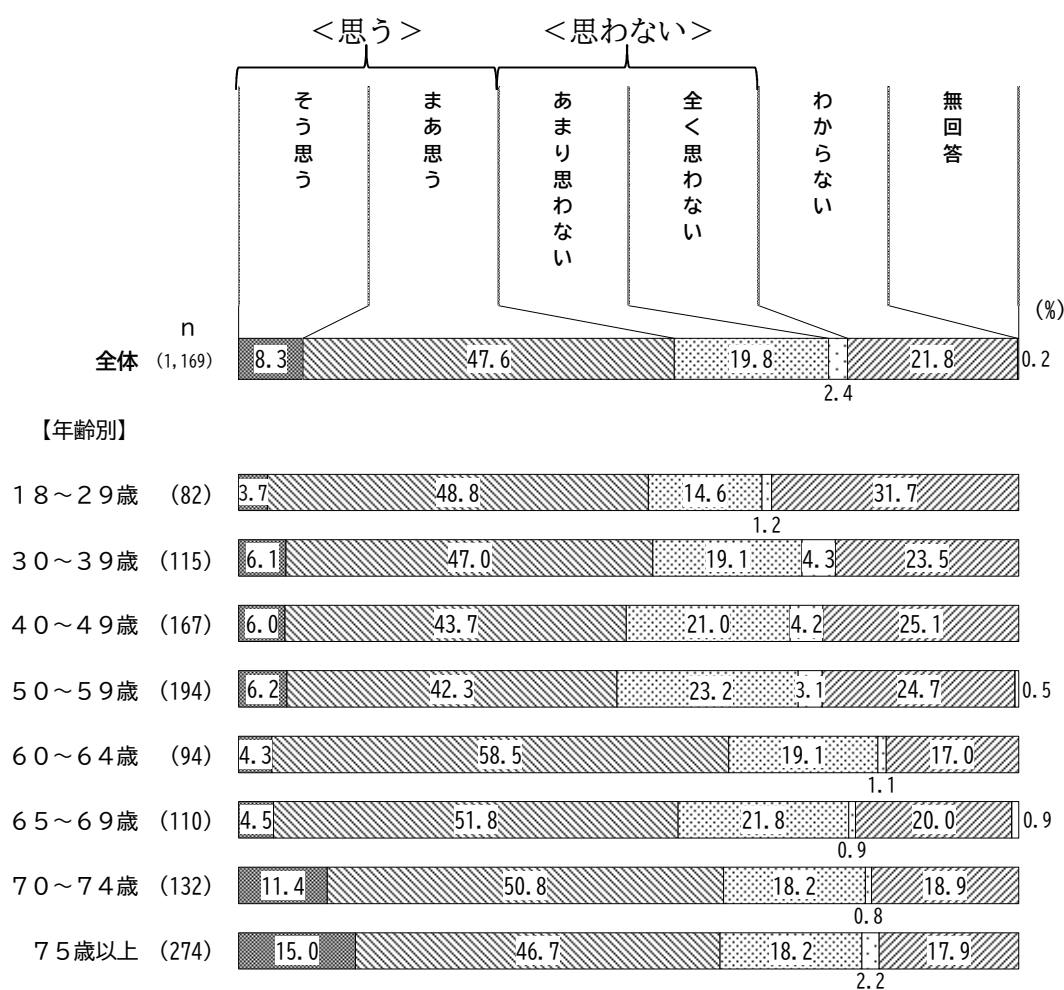
問19 あなたが住んでいる地域は、支援が必要な方（高齢者や障害のある人、子育てをしている人）にとって、安心して生活できる環境だと思いますか。（1つだけに○）

図表 支援が必要な人にとって、安心して生活できる環境か 全体



支援が必要な人にとって、安心して生活できる環境かについて聞いたところ、「まあ思う」が47.6%と最も高く、「そう思う」が8.3%で、両者を合わせた＜思う＞の割合は55.9%となっている。「あまり思わない」は19.8%、「全く思わない」は2.4%で、両者を合わせた＜思わない＞の割合は22.2%で、＜思う＞が＜思わない＞を上回っている。一方、「わからない」（21.8%）であった。

図表 支援が必要な人にとって、安心して生活できる環境か 年齢別

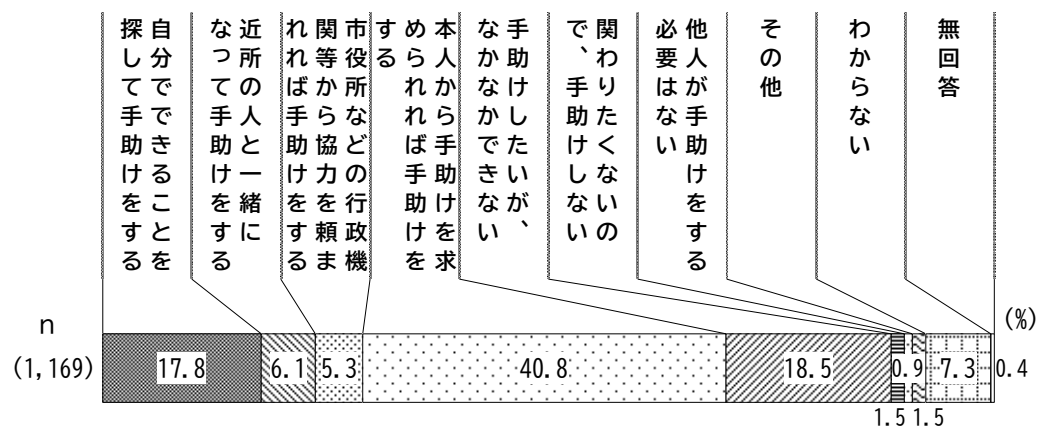


年齢別でみると、「そう思う」と「まあ思う」を合わせた＜思いう＞の割合は、『60～64歳』（62.8%）が最も高くなっている。

(10) ご近所で手助けが必要な人がいた場合の対応

問20 あなたは、ご近所で高齢者や子ども、障害のある人、子育て等で手助けが必要な人がいたらどうしますか。(1つだけに○)

図表 ご近所で手助けが必要な人がいた場合の対応 全体

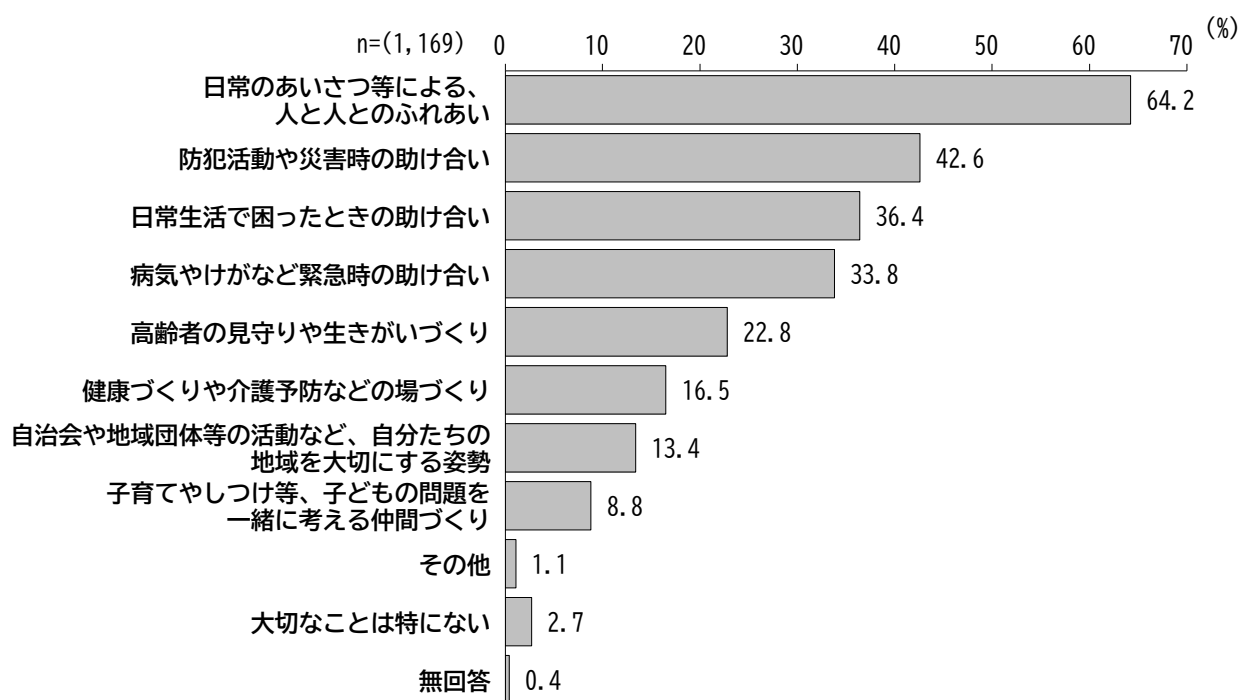


ご近所で手助けが必要な人がいた場合の対応について聞いたところ、「本人から手助けを求められれば手助けをする」が40.8%と最も高かった。以下、「手助けしたいが、なかなかできない」(18.5%)、「自分でできることを探して手助けをする」(17.8%)となっている。一方、「わからない」は7.3%であった。

(11) ご近所との付き合いや関わりで大切になると思うこと

問21 あなたは、ご近所との付き合いや関わりで、これからどんなことが大切になると思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)

図表 ご近所との付き合いや関わりで大切になると思うこと 全体（複数回答）

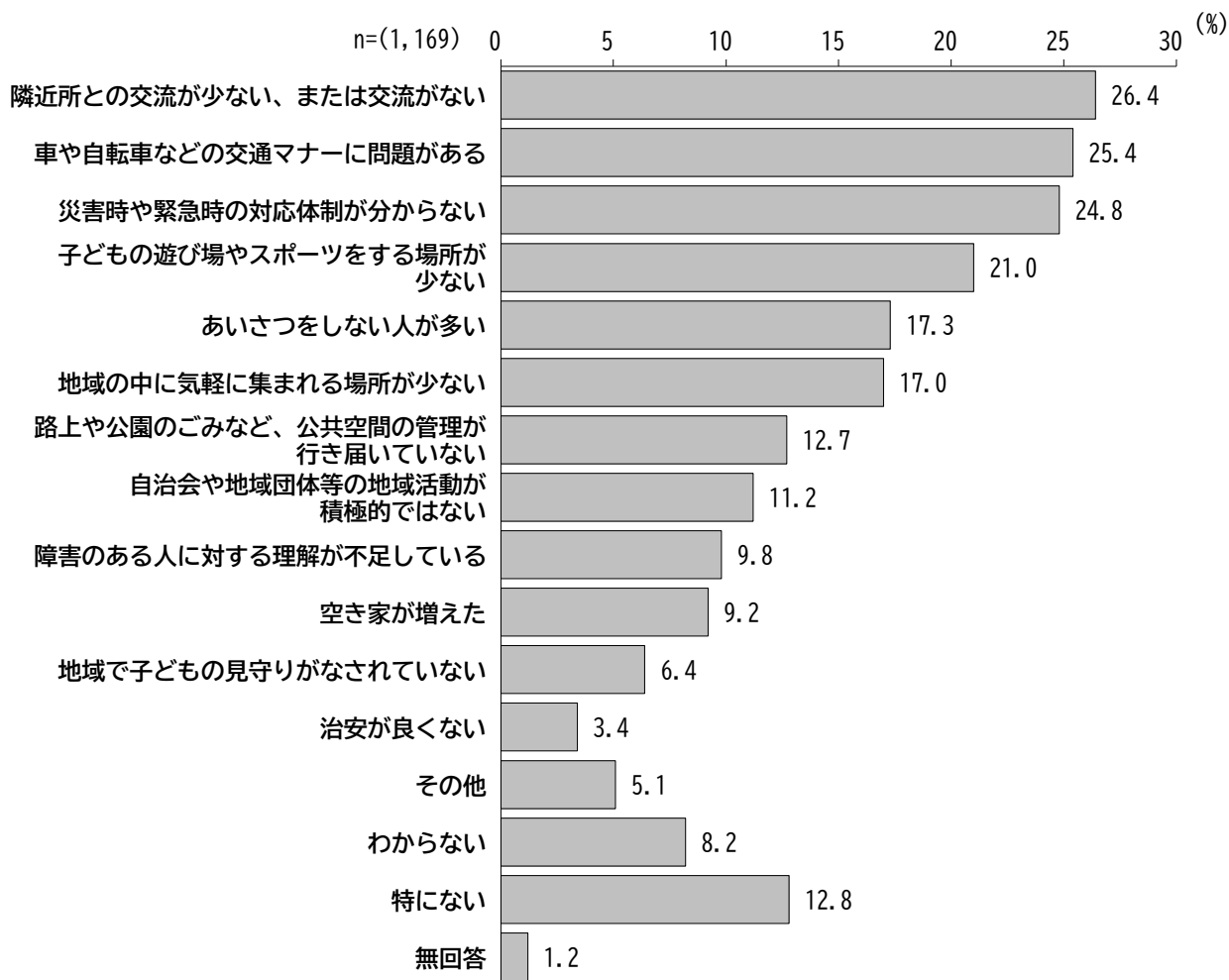


ご近所との付き合いや関わりで大切になると思うことについて聞いたところ、「日常のあいさつ等による、人と人とのふれあい」が64.2%と最も高かった。以下、「防犯活動や災害時の助け合い」(42.6%)、「日常生活で困ったときの助け合い」(36.4%)、「病気やけがなど緊急時の助け合い」(33.8%)となっている。一方、「大切なことは特にない」は2.7%であった。

(12) 居住地域で問題や課題と感じていること

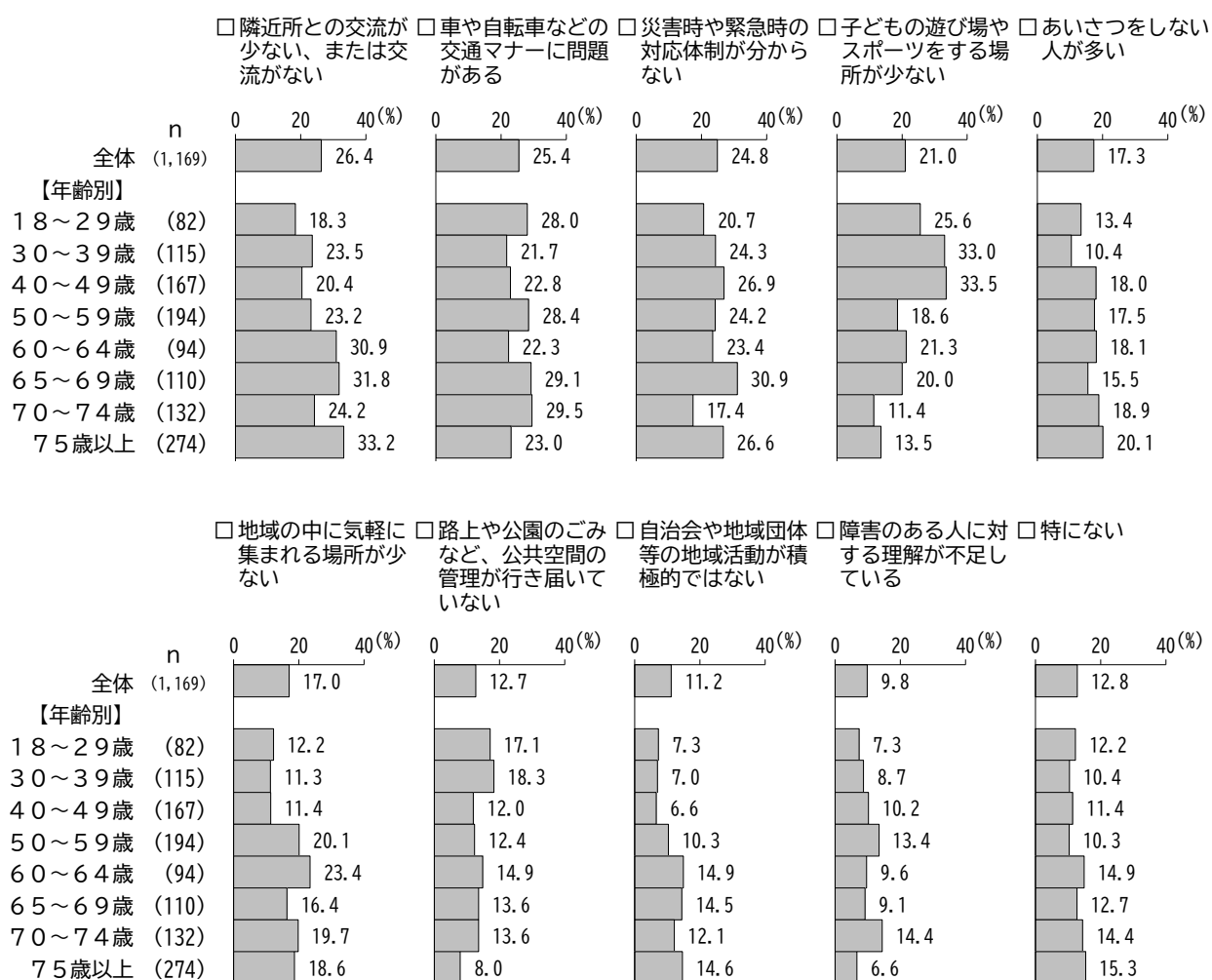
問22 あなたが住んでいる地域には、どのような問題や課題があると感じていますか。（あてはまるものすべてに○）

図表 居住地域で問題や課題と感じていること 全体（複数回答）



居住地域で問題や課題と感じていることについて聞いたところ、「隣近所との交流が少ない、または交流がない」は26.4%、以下、「車や自転車などの交通マナーに問題がある」（25.4%）、「災害時や緊急時の対応体制が分からない」（24.8%）となっている。一方、「わからない」は8.2%、「特にない」は12.8%であった。

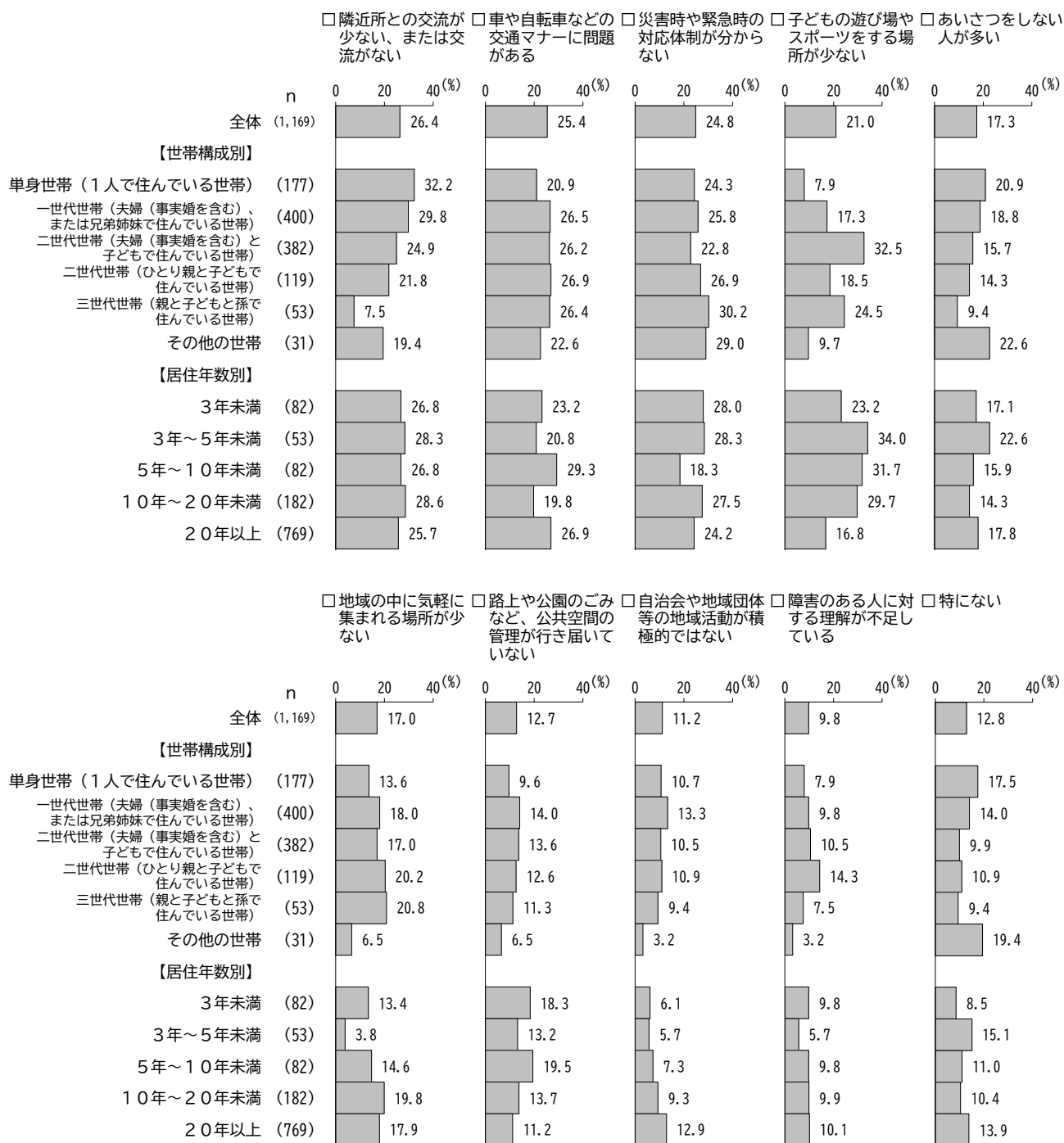
図表 居住地域で問題や課題と感じていること 年齢別（複数回答）



※上位9項目と「特にない」

年齢別でみると、「災害時や緊急時の対応体制が分からない」は、『65～69歳』（30.9%）が他の年代より高くなっている。「子どもの遊び場やスポーツをする場所が少ない」は、『40～49歳』（33.5%）、『30～39歳』（33.0%）が他の年代より高くなっている。

図表 居住地域で問題や課題と感じていること 世帯構成別、居住年数別（複数回答）



※上位9項目と「特にない」

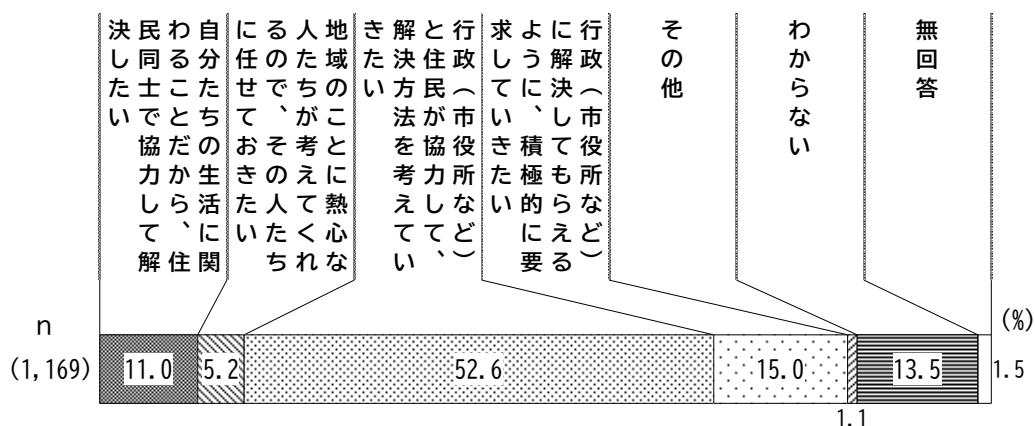
世帯構成別でみると、「子どもの遊び場やスポーツをする場所が少ない」は、『二世帯世帯（夫婦（事実婚を含む）と子どもで住んでいる世帯）』（32.5%）が他の世帯より高くなっている。

居住年数別でみると、「車や自転車などの交通マナーに問題がある」は、『5年～10年未満』（29.3%）が他の居住年数より高くなっている。

(13) 地域の問題や課題の解決方法

問23 あなたは、今後、地域の中で起こる問題や課題に対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますか。（1つだけに○）

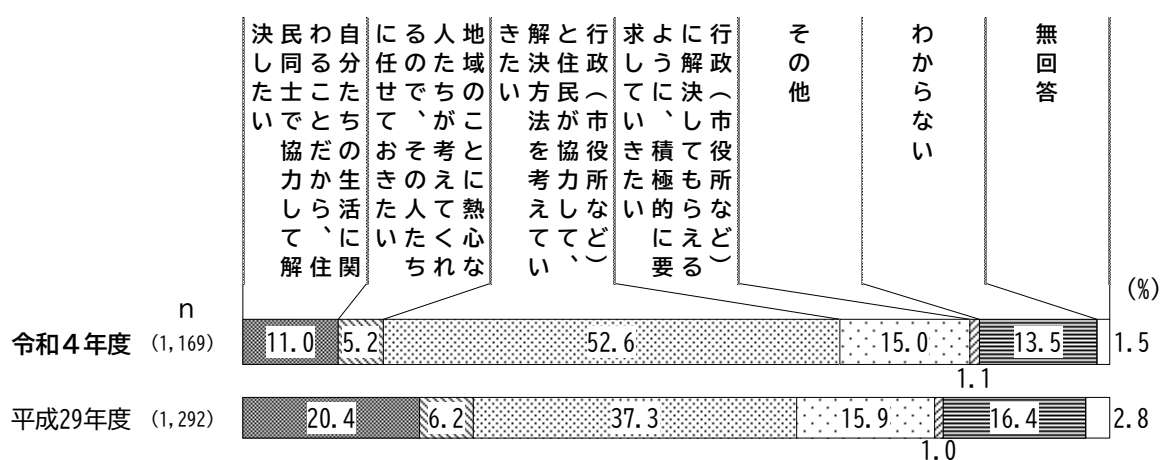
図表 地域の問題や課題の解決方法 全体



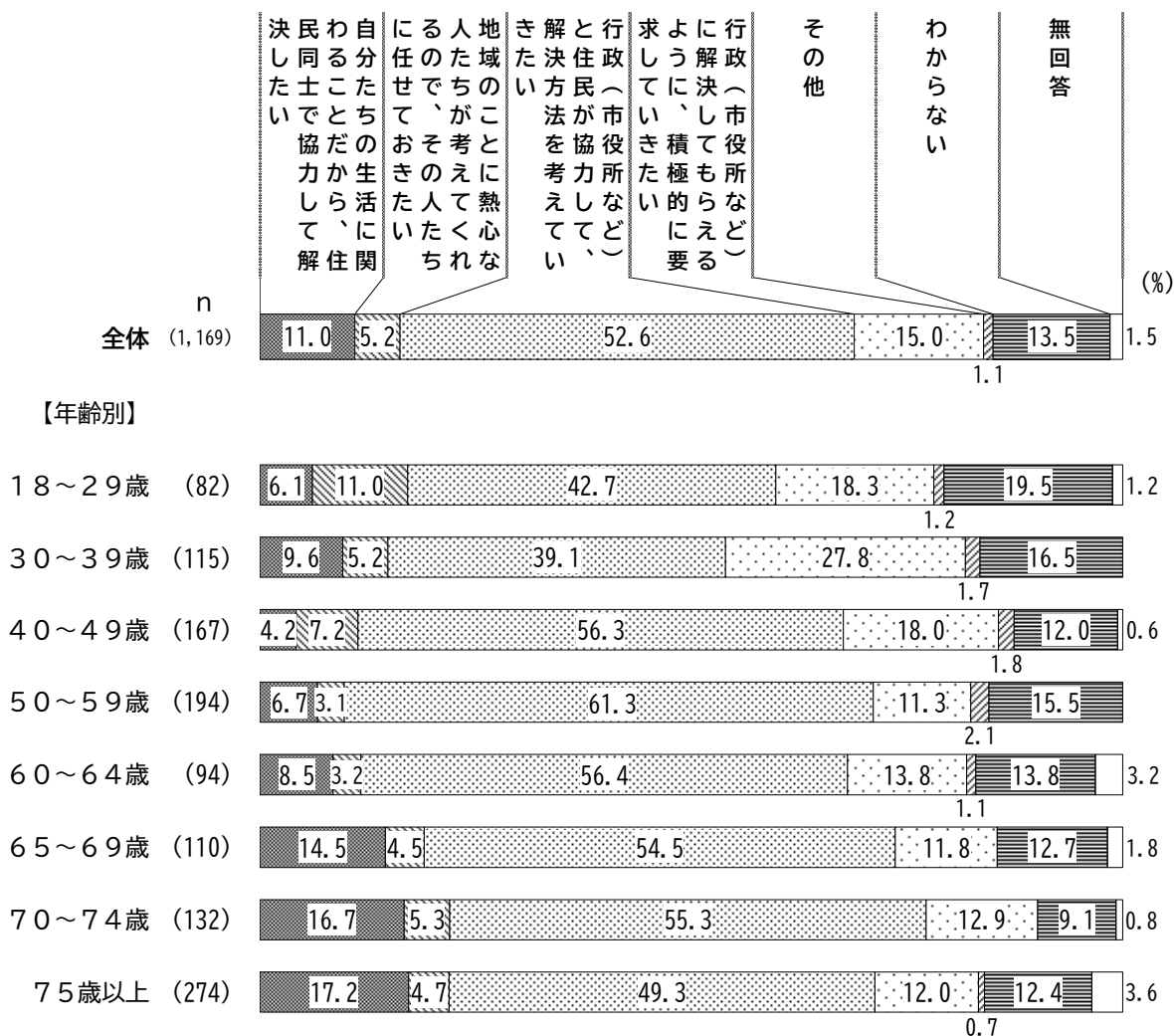
地域の問題や課題の解決方法について聞いたところ、「行政（市役所など）と住民が協力して、解決方法を考えていきたい」が52.6%と最も高かった。以下、「行政（市役所など）に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい」（15.0%）、「自分たちの生活に関わることから、住民同士で協力して解決したい」（11.0%）となっている。一方、「わからない」は13.5%であった。

平成29年度と比較すると、地域の問題や課題の解決方法は、「行政（市役所など）と住民が協力して、解決方法を考えていきたい」は、15.3ポイント増加している。

図表 地域の問題や課題の解決方法 全体※前回比較



図表 地域の問題や課題の解決方法 年齢別



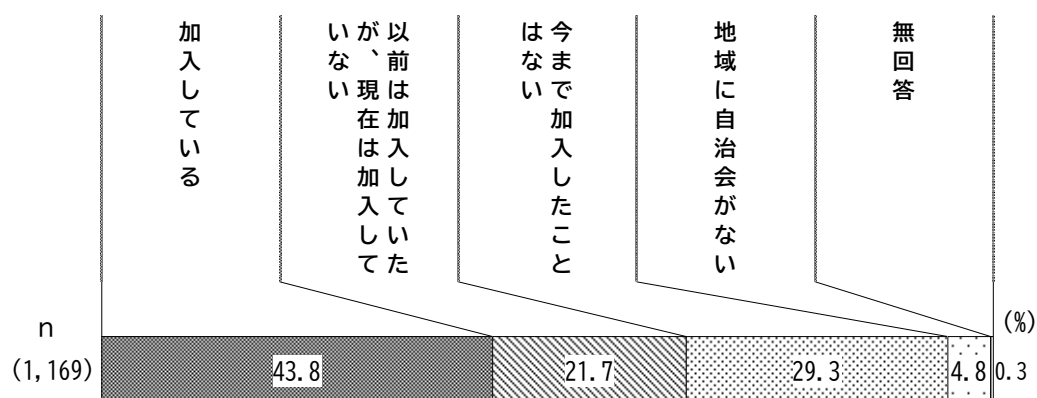
年齢別でみると、「自分たちの生活に関わることだから、住民同士で協力して解決したい」は、おおむね年代が上がるにつれて高くなっており、『75歳以上』（17.2%）、次いで『70～74歳』（16.7%）、『65～69歳』（14.5%）となっている。「行政（市役所など）と住民が協力して、解決方法を考えていきたい」は『50～59歳』（61.3%）が他の年代より高くなっている。「行政（市役所など）に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい」は、『30～39歳』（27.8%）が他の年代より高くなっている。

3. 地域での活動（自治会やボランティア、市民活動等）について

（1）自治会への加入状況

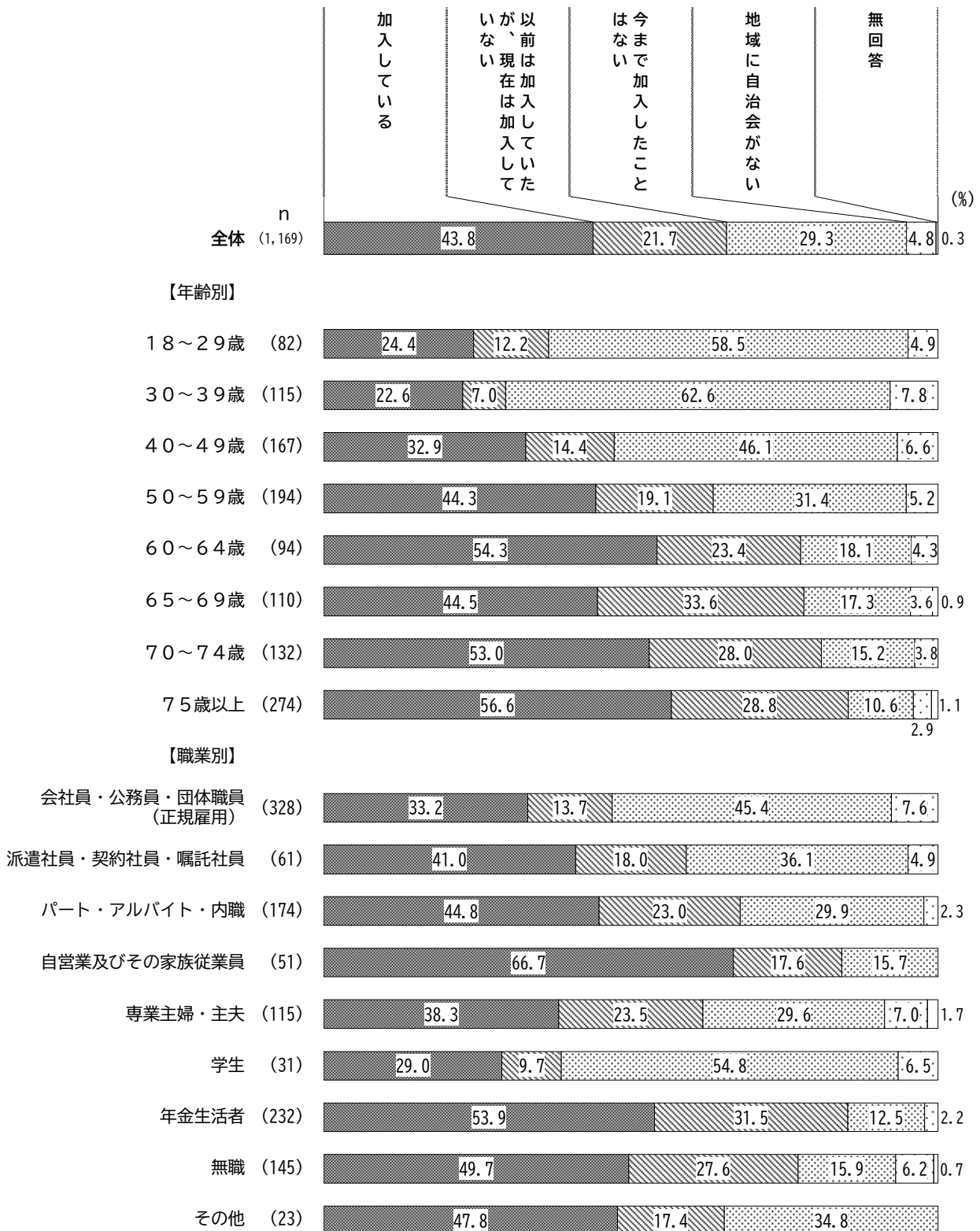
問24 あなたは、現在、自治会に加入していますか。または加入したことがありますか。（1つだけに○）

図表 自治会への加入状況 全体



自治会への加入状況について聞いたところ、「加入している」は43.8%、「以前は加入していたが、現在は加入していない」は21.7%、「今まで加入したことはない」は29.3%、「地域に自治会がない」は4.8%となっている。

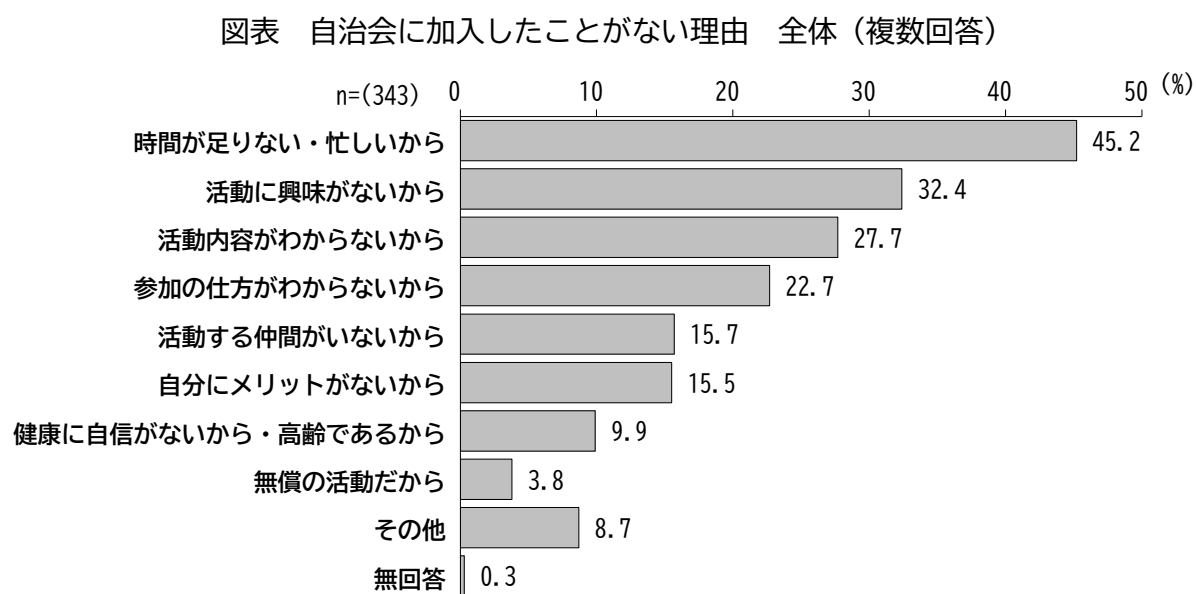
図表 自治会への加入状況 年齢別、職業別



年齢別でみると、「加入している」は、『75歳以上』（56.6%）が他の年代より高くなっている。
職業別でみると、「加入している」は、『自営業及びその家族従業員』（66.7%）が他の職業より高くなっている。

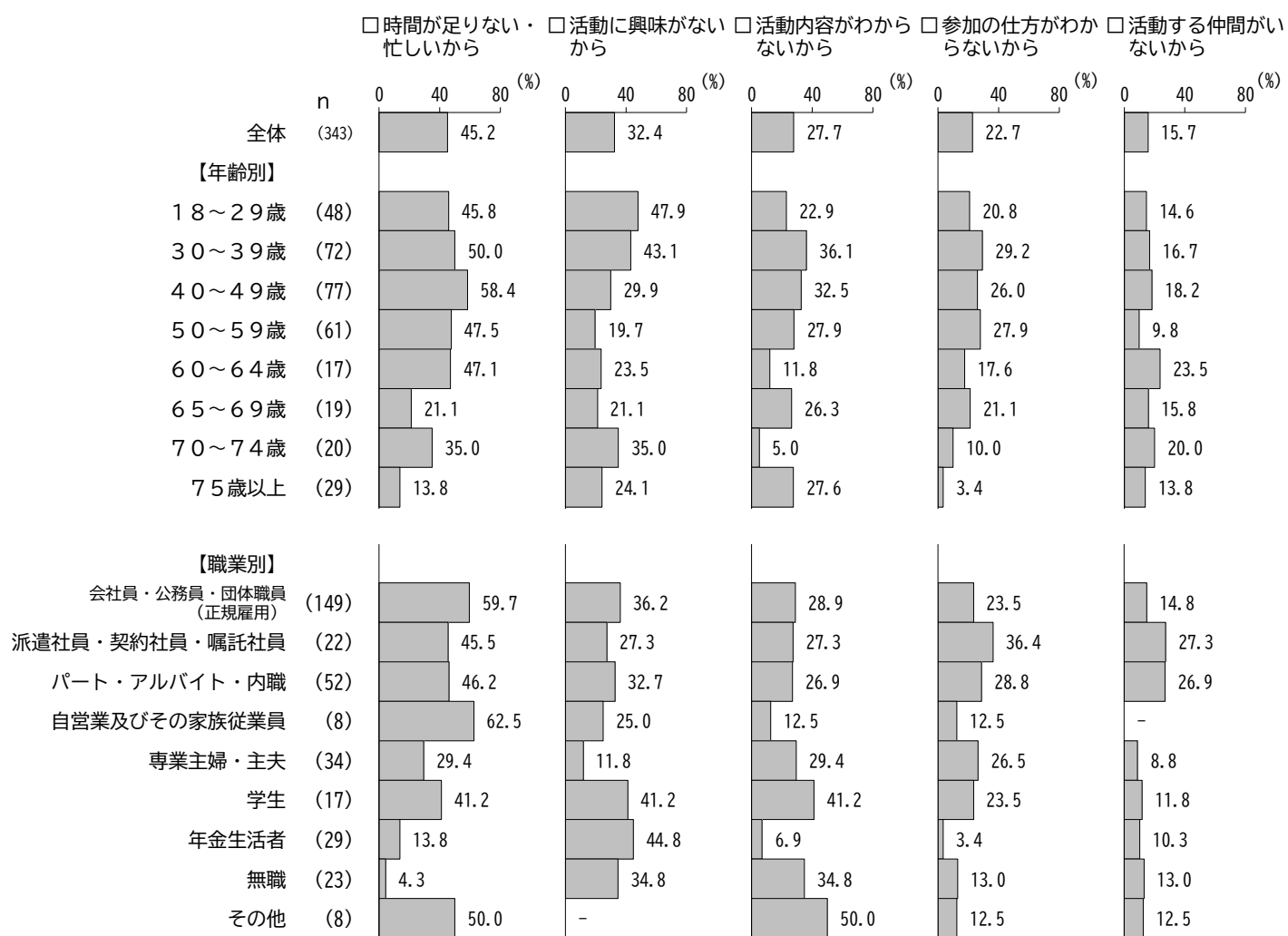
(2) 自治会に加入したことがない理由

問25 問24で「3 今まで加入したことはない」と答えた方にお聞きします。
自治会に加入したことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



今まで自治会に加入したことがない方に加入したことがない理由について聞いたところ、「時間が足りない・忙しいから」が45.2%と最も高かった。以下、「活動に興味がないから」(32.4%)、「活動内容がわからないから」(27.7%)、「参加の仕方がわからないから」(22.7%)となっている。

図表 自治会に加入したことがない理由 年齢別、職業別（複数回答）



※上位5項目

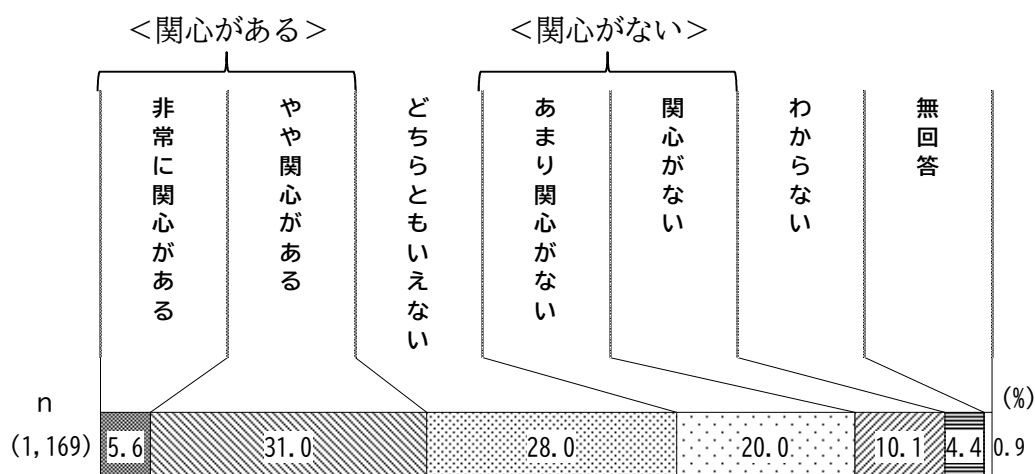
年齢別でみると、「時間が足りない・忙しいから」は、『40～49歳』（58.4%）が他の年代より高くなっている。「活動に興味がないから」は、おおむね年代が下がるにつれて高くなっている。

職業別でみると、「時間が足りない・忙しいから」は、『会社員・公務員・団体職員（正規雇用）』（59.7%）が他の職業より高くなっている。

(3) ボランティア、NPO活動への関心度

問26 あなたは、ボランティア、NPO活動に関心がありますか。(1つだけに○)

図表 ボランティア、NPO活動への関心度 全体

**ボランティアとは**

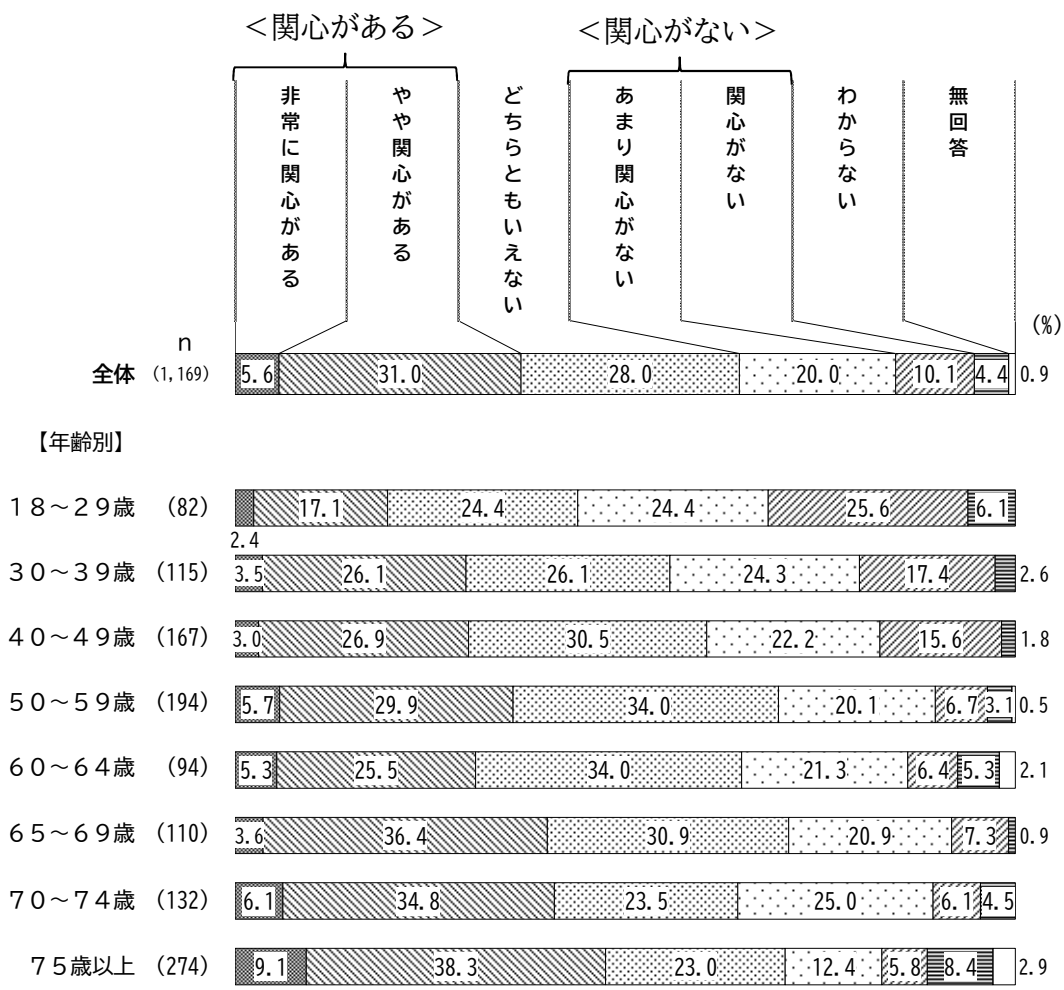
対価（報酬）を得ることを目的とせずに自発的な活動を行うことであり、福祉、環境保護、教育、災害救助等さまざまな分野での活動が行われている。

NPOとは

さまざまな社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない、民間の非営利組織（団体）の総称。

ボランティア、NPO活動への関心度について聞いたところ、「やや興味がある」が31.0%、「非常に興味がある」が5.6%で、両者を合わせた＜関心がある＞の割合は36.6%となっている。「あまり興味がない」は20.0%、「関心がない」は10.1%で、両者を合わせた＜関心がない＞の割合は30.1%と、＜関心がある＞が＜関心がない＞を6.5ポイント上回っている。一方、「どちらともいえない」は28.0%、「わからない」は4.4%であった。

図表 ボランティア、NPO活動への関心度 年齢別

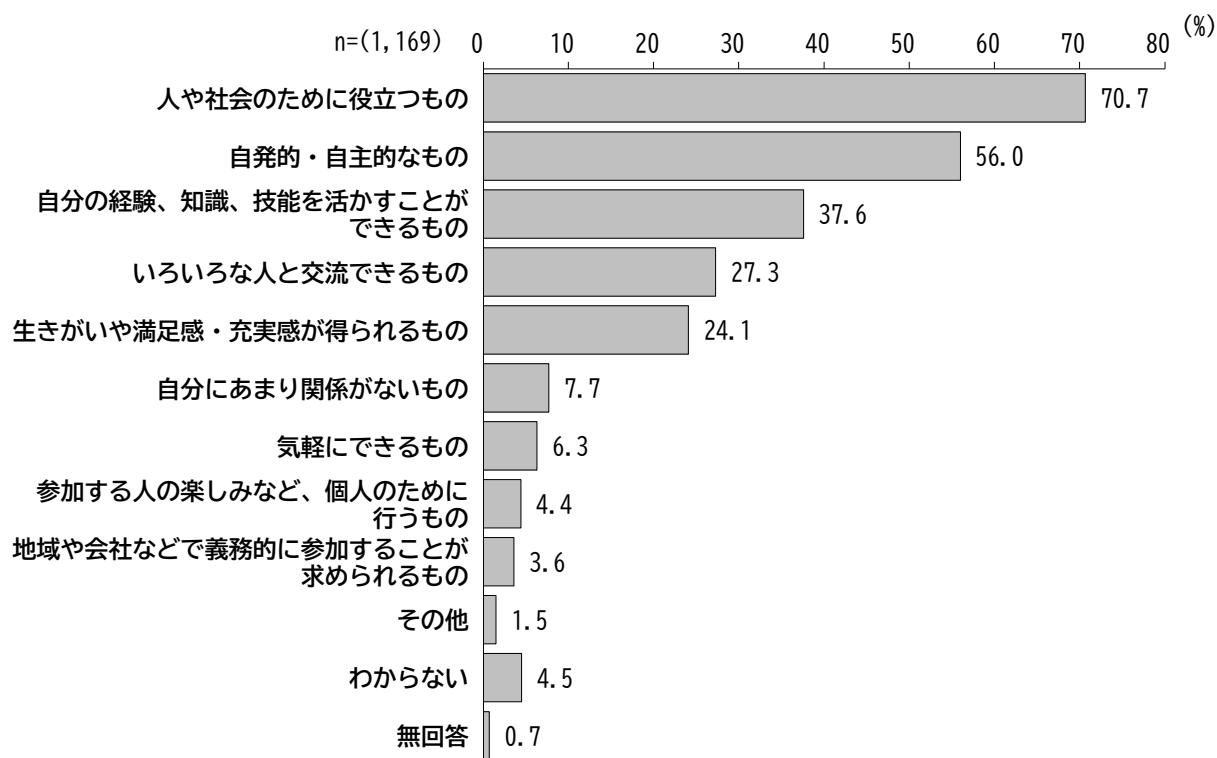


年齢別でみると、「非常に興味がある」と「やや興味がある」を合わせた＜関心がある＞の割合は、『75歳以上』（47.4%）が他の年代より高くなっている。「あまり興味がない」と「関心がない」を合わせた＜関心がない＞の割合は、若年層で高くなっており、『18～29歳』（50.0%）が最も高くなっている。

(4) ボランティア、NPO活動に対するイメージ

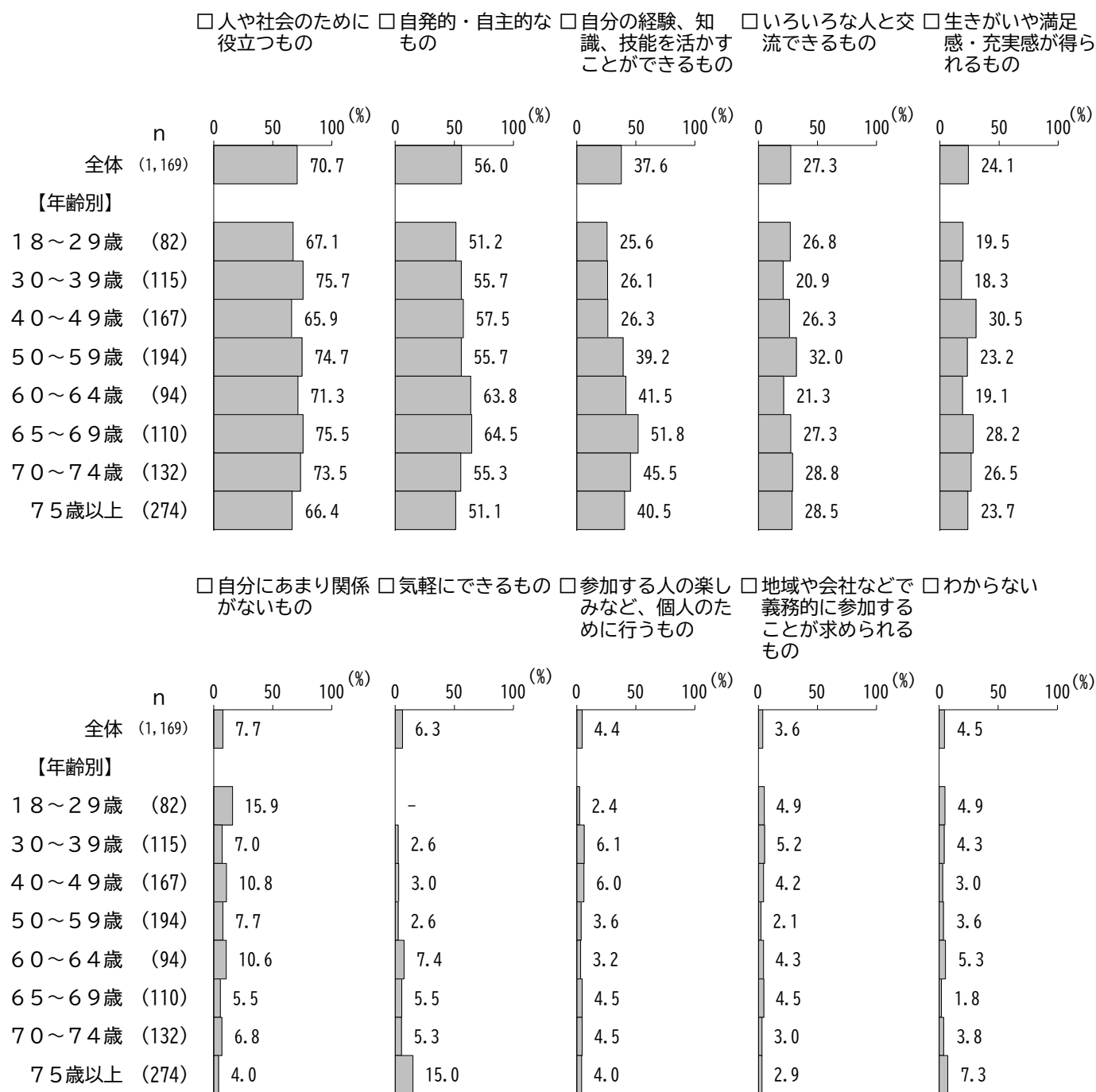
問27 あなたは、ボランティア、NPO活動に対して、どのようなイメージを持っていますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 ボランティア、NPO活動に対するイメージ 全体（複数回答）



ボランティア、NPO活動に対するイメージについて聞いたところ、「人や社会のために役立つもの」が70.7%と最も高かった。以下、「自発的・自主的なもの」(56.0%)、「自分の経験、知識、技能を活かすことができるもの」(37.6%)、「いろいろな人と交流できるもの」(27.3%)、「生きがいや満足感・充実感が得られるもの」(24.1%)となっている。一方、「わからない」は4.5%であった。

図表 ボランティア、NPO活動に対するイメージ 年齢別（複数回答）



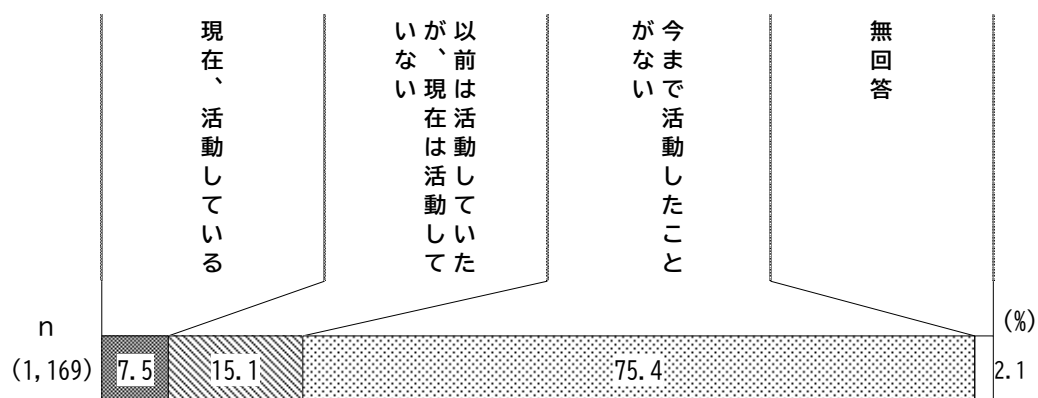
※「その他」を除く上位9項目と「わからない」

年齢別でみると、「人や社会のために役立つもの」は、いずれの年代も高くなっており、『30～39歳』（75.7%）が最も高くなっている。「自発的・自主的なもの」は、『65～69歳』（64.5%）、『60～64歳』（63.8%）と60歳代が他の年代より高くなっている。「自分の経験、知識、技能を活かすことができるもの」は、『65～69歳』（51.8%）が他の年代より高くなっている。

(5) ボランティア、NPOの活動状況

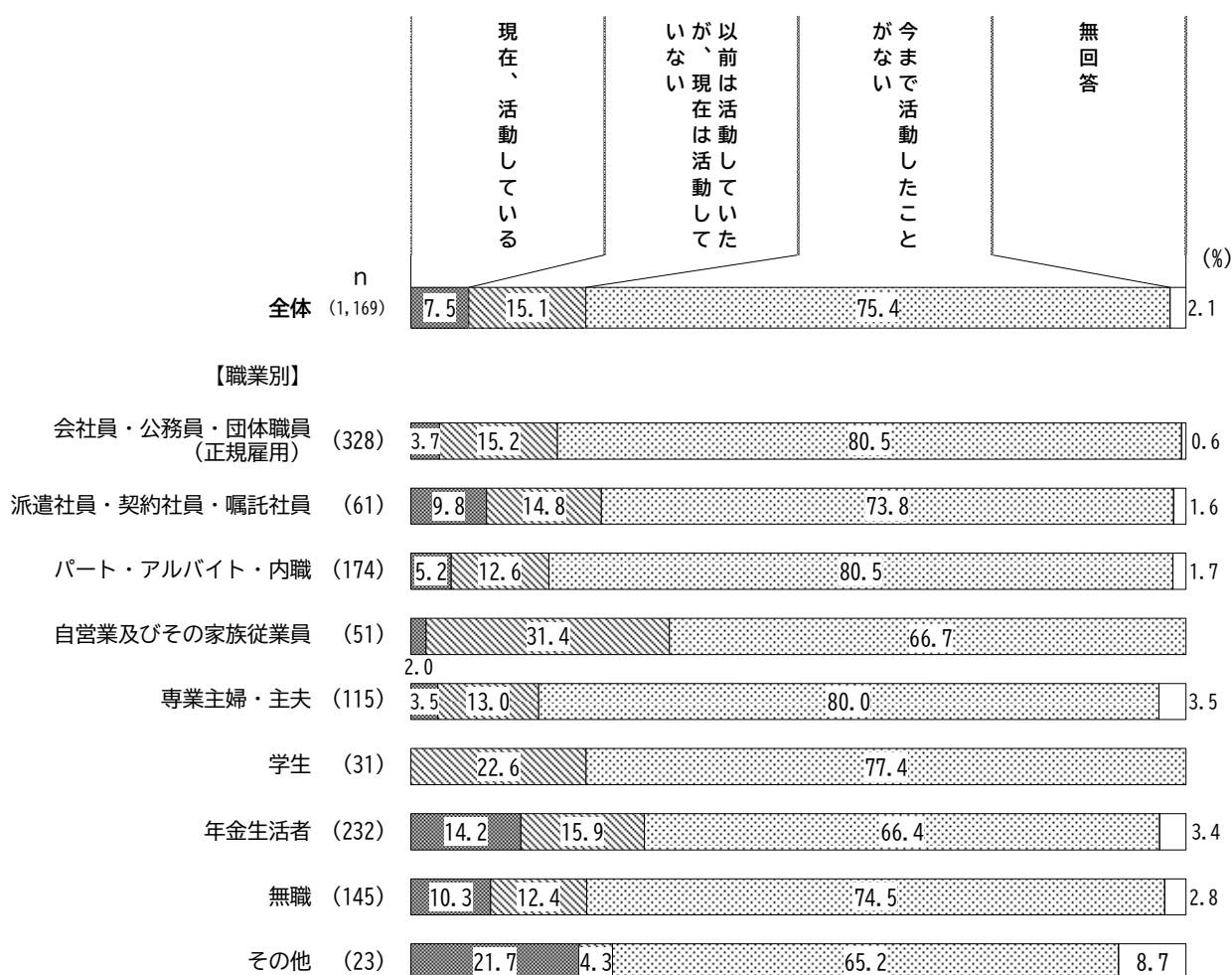
問28 あなたは、ボランティア、NPO活動をしていますか。または活動したことがありますか。(1つだけに○)

図表 ボランティア、NPOの活動状況 全体



ボランティア、NPOの活動状況について聞いたところ、「現在、活動している」は7.5%、「以前は活動していたが、現在は活動していない」は15.1%、「今まで活動したことがない」は75.4%となっている。

図表 ボランティア、NPOの活動状況 職業別

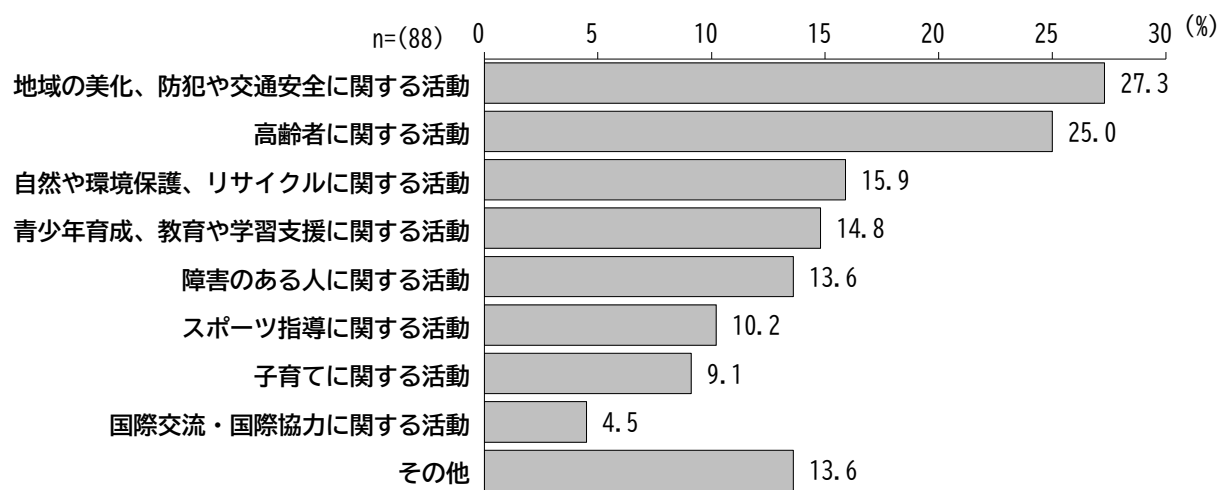


職業別でみると、「現在、活動している」は、『年金生活者』(14.2%)が他の職業より高くなっている。「以前は活動していたが、現在は活動していない」は、『自営業及びその家族従業員』(31.4%)が他の職業より高くなっている。

(6) ボランティア、NPO活動の内容

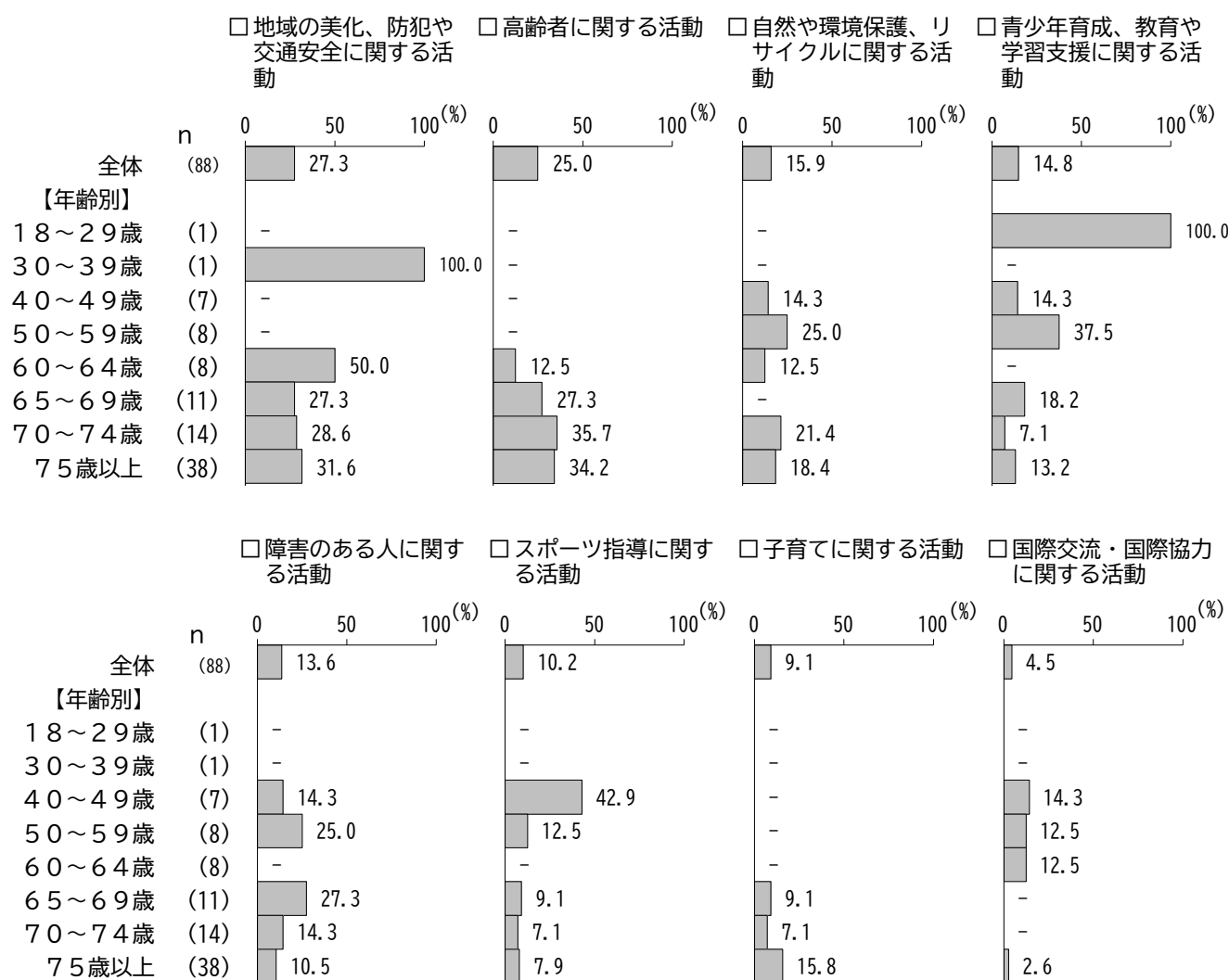
問29 問28で「1 現在、活動している」と答えた方にお聞きします。
 どのようなボランティア、NPO活動ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 ボランティア、NPO活動の内容 全体（複数回答）



ボランティア、NPO活動している方に活動の内容について聞いたところ、「地域の美化、防犯や交通安全に関する活動」が27.3%と最も高かった。以下、「高齢者に関する活動」(25.0%)、「自然や環境保護、リサイクルに関する活動」(15.9%)、「青少年育成、教育や学習支援に関する活動」(14.8%)となっている。

図表 ボランティア、NPO活動の内容 年齢別（複数回答）



※「その他」を除く上位8項目

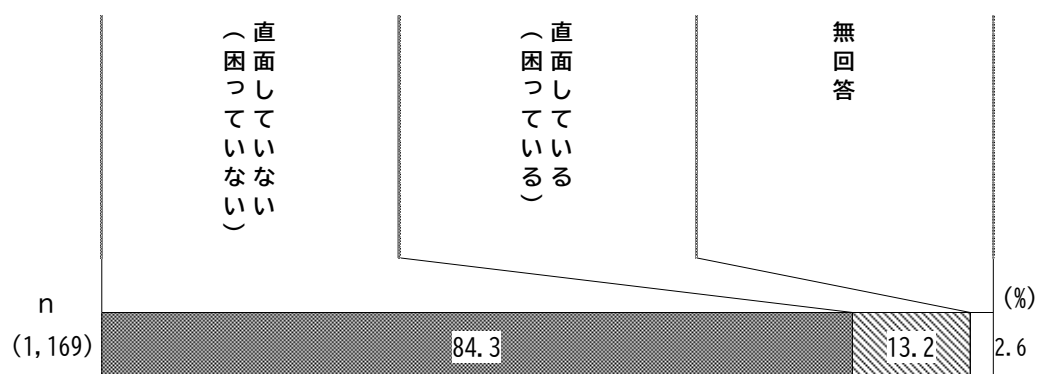
（回答数が少ないのでコメント省略 P4に掲載あり）

4. 福祉に関してご自身やご近所の方が困ったときの対応について

(1) 福祉的な支援が必要となる困り事に直面しているか

問30 あなた自身やご家族は、現在、福祉的な支援（福祉サービス）が必要となる困り事に直面していますか。（1つだけに○）

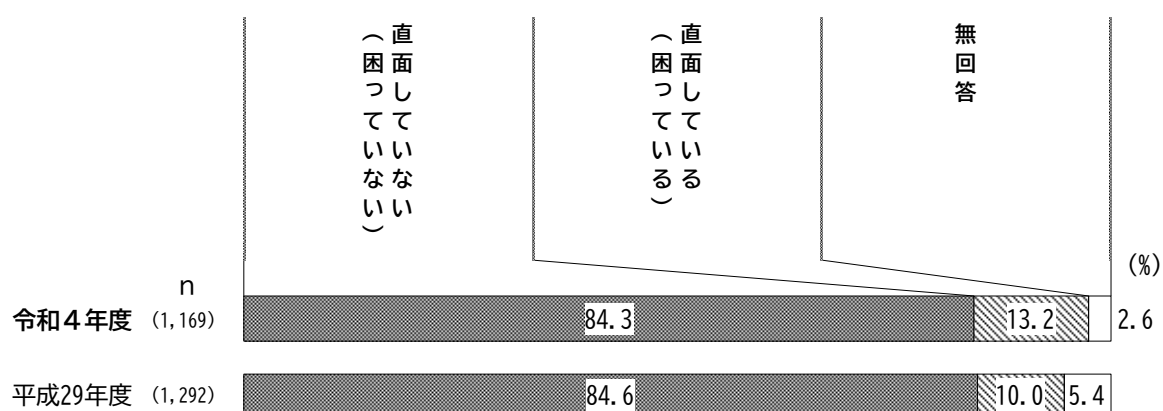
図表 福祉的な支援が必要となる困り事に直面しているか 全体



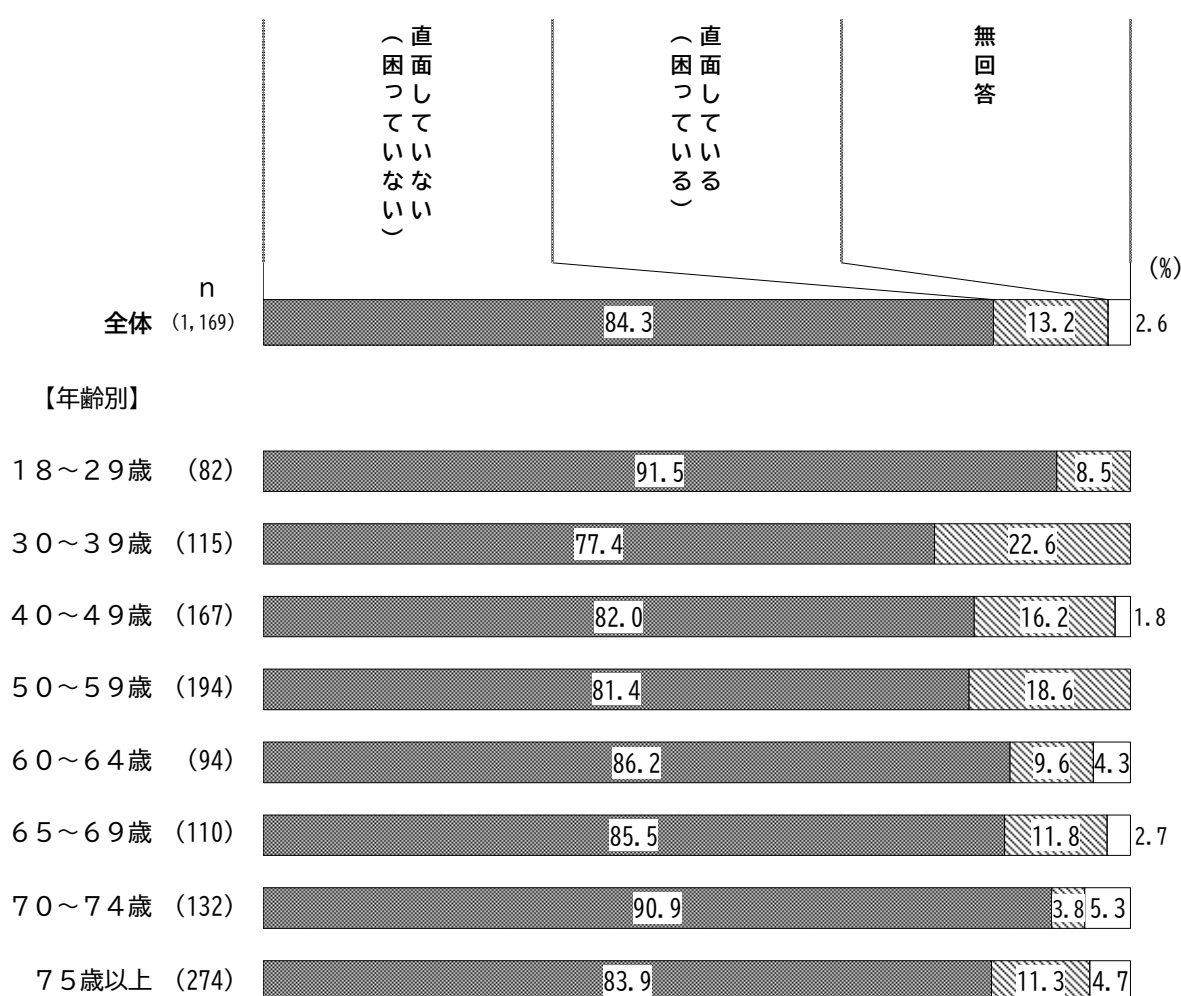
福祉的な支援が必要となる困り事に直面しているかについて聞いたところ、「直面していない (困っていない)」が84.3%、「直面している (困っている)」が13.2%となっている。

平成29年度と比較すると、福祉的な支援が必要となる困り事に直面しているかについては、大きな差は見られなかった。

図表 福祉的な支援が必要となる困り事に直面しているか 全体※前回比較



図表 福祉的な支援が必要となる困り事に直面しているか 年齢別

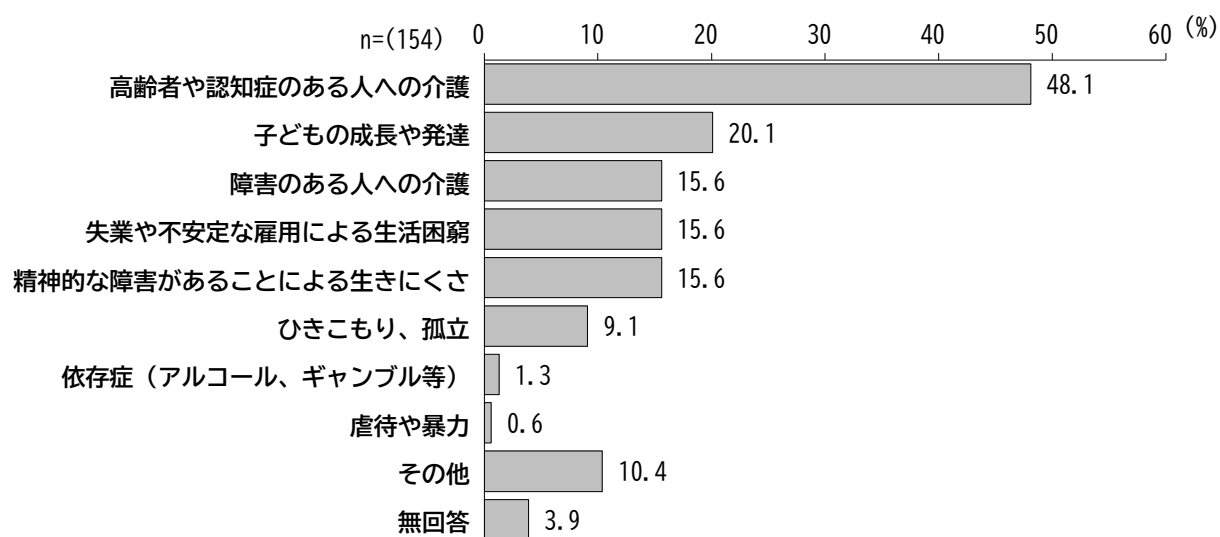


年齢別でみると、「直面していない（困っていない）」は、いずれの年代も70%を超える。「直面している（困っている）」は、『30～39歳』（22.6%）、『50～59歳』（18.6%）が他の年代より高くなっている。

(2) 福祉的な支援が必要となる困り事の内容

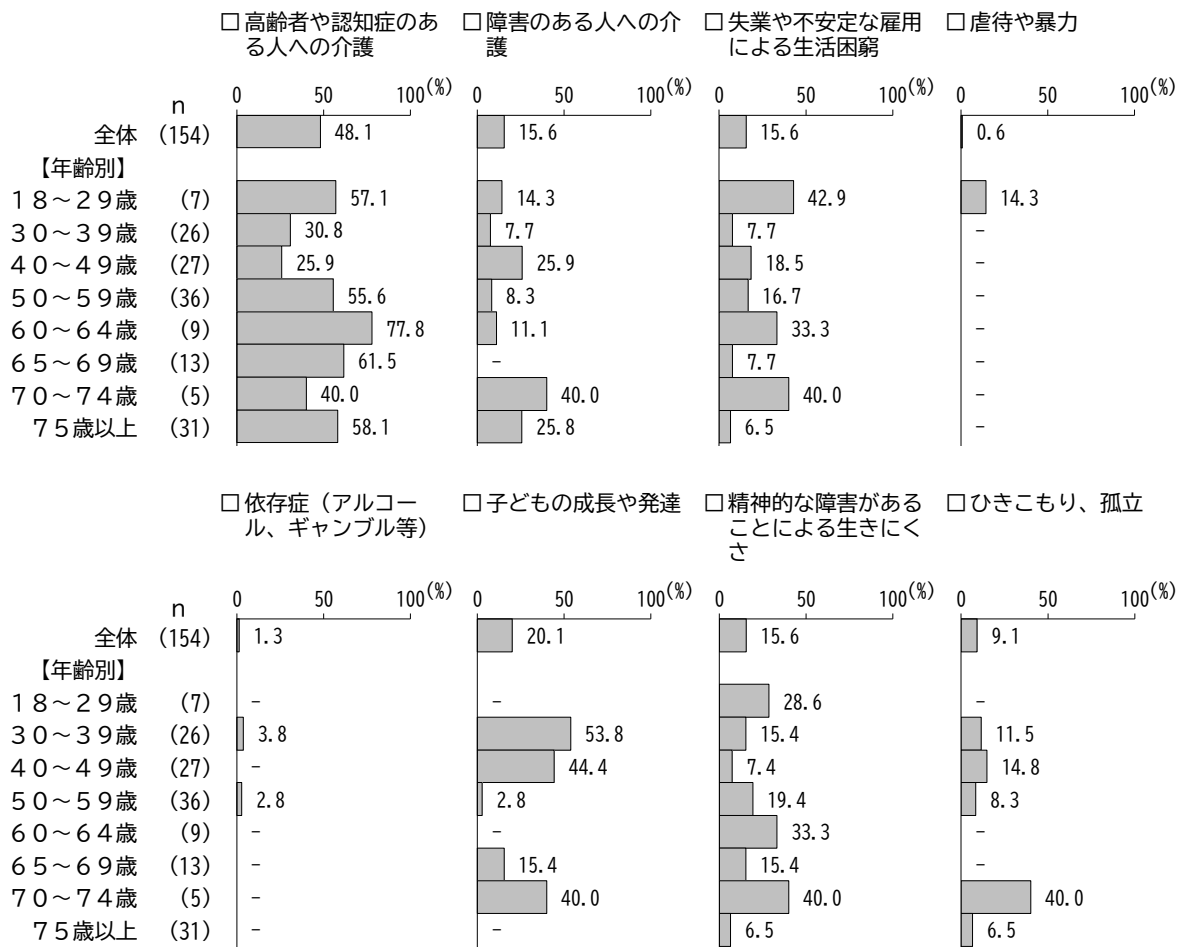
問31 問30で「2 直面している（困っている）」と回答された方にお聞きします。
 現在、あなたが直面している福祉的な支援（福祉サービス）が必要となる困り事の内容は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図表 福祉的な支援が必要となる困り事の内容 全体（複数回答）



福祉的な支援が必要となる困り事に直面している方に困り事の内容について聞いたところ、「高齢者や認知症のある人への介護」が48.1%と最も高かった。以下、「子どもの成長や発達」は20.1%、「障害のある人への介護」、「失業や不安定な雇用による生活困窮」、「精神的な障害があることによる生きにくさ」はいずれも15.6%となっている。

図表 福祉的な支援が必要となる困り事の内容 年数別（複数回答）



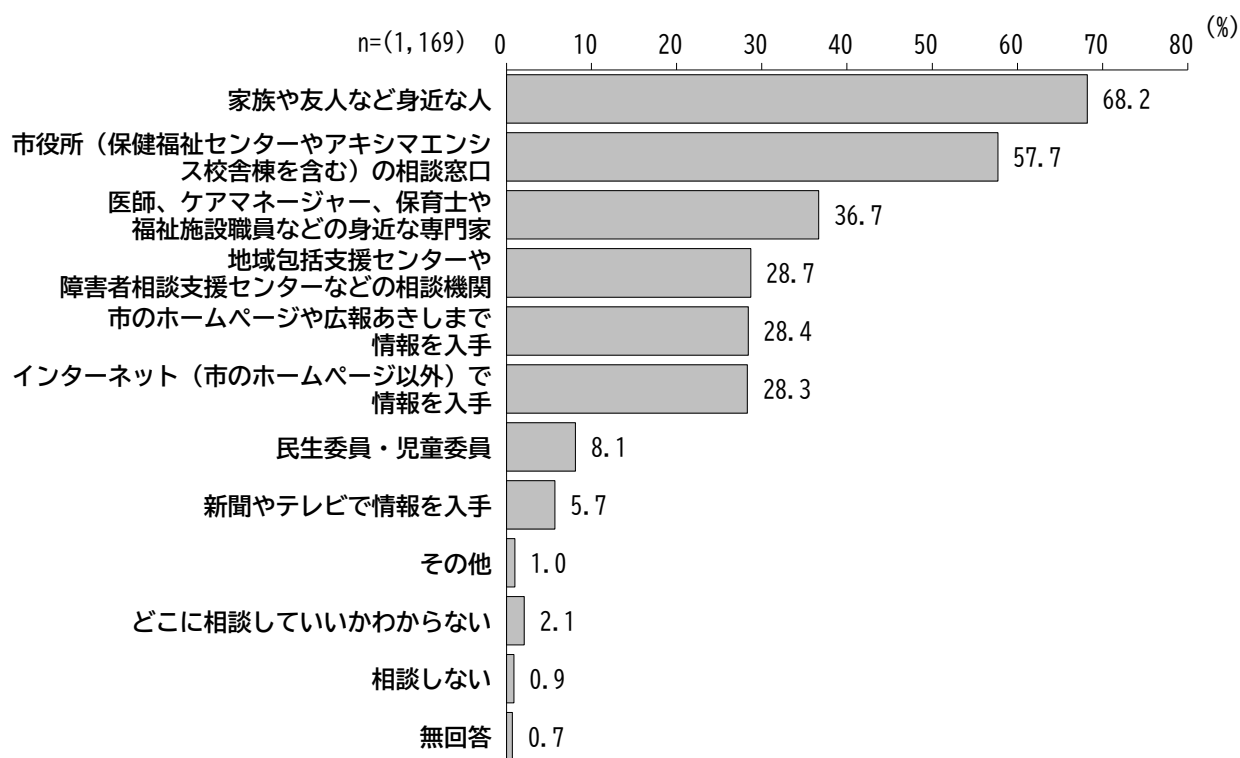
※「その他」を除く上位8項目

（回答数が少ないのでコメント省略 P4に掲載あり）

(3) 福祉的な支援が必要となる困り事が起きたときの相談先

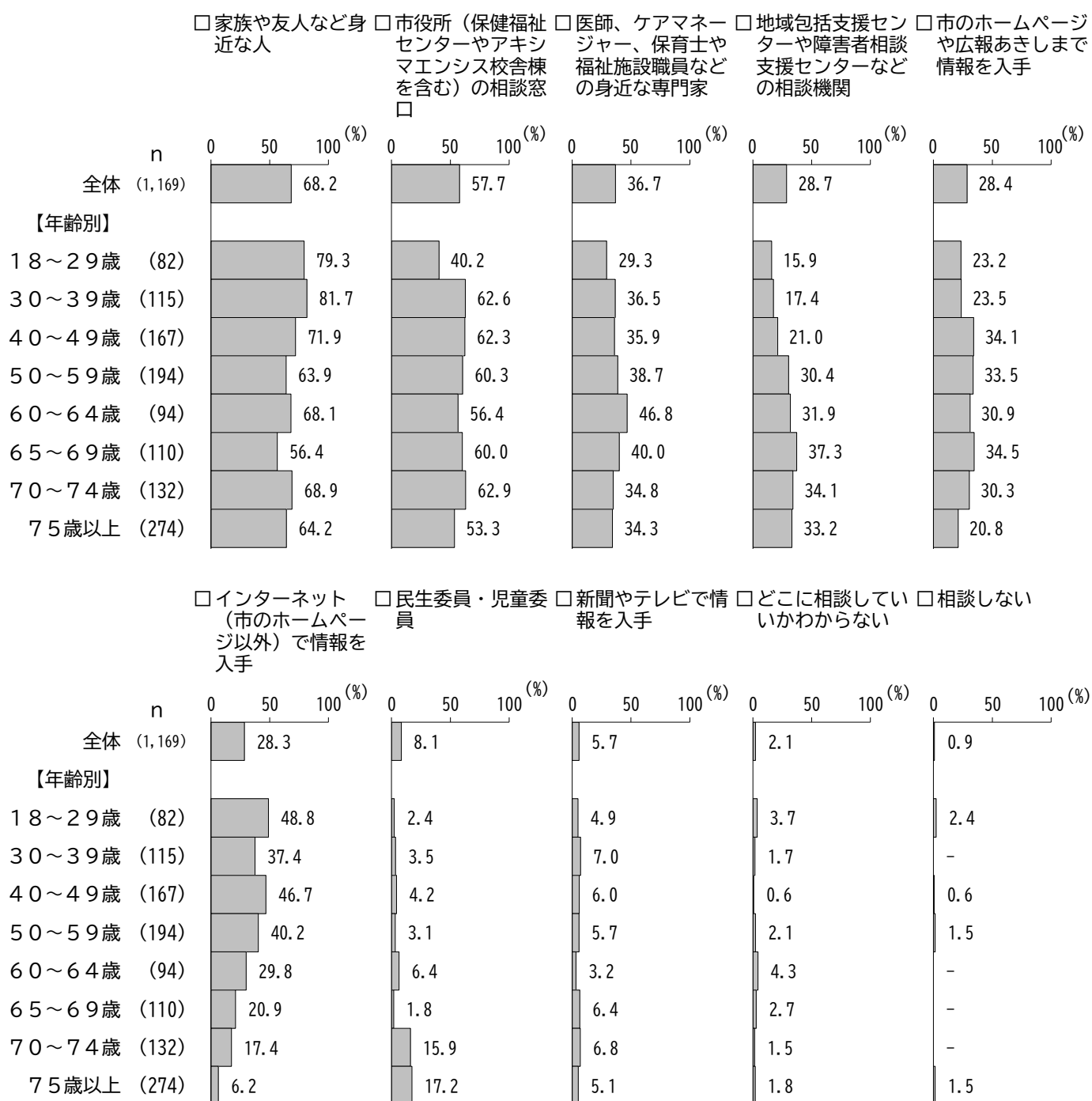
問32 あなたは、あなた自身やご家族に福祉的な支援（福祉サービス）が必要となる困り事が起きた場合、だれに相談などをしますか。（あてはまるものすべてに○）

図表 福祉的な支援が必要となる困り事が起きたときの相談先 全体（複数回答）



福祉的な支援が必要となる困り事が起きたときの相談先について聞いたところ、「家族や友人など身近な人」が68.2%と最も高かった。以下、「市役所（保健福祉センターやアキシマエンス校舎棟を含む）の相談窓口」（57.7%）、「医師、ケアマネージャー、保育士や福祉施設職員などの身近な専門家」（36.7%）となっている。一方、「どこに相談していいかわからない」は2.1%、「相談しない」は0.9%であった。

図表 福祉的な支援が必要となる困り事が起きたときの相談先 年齢別（複数回答）



※「その他」を除く上位8項目、「どこに相談していいかわからない」、「相談しない」

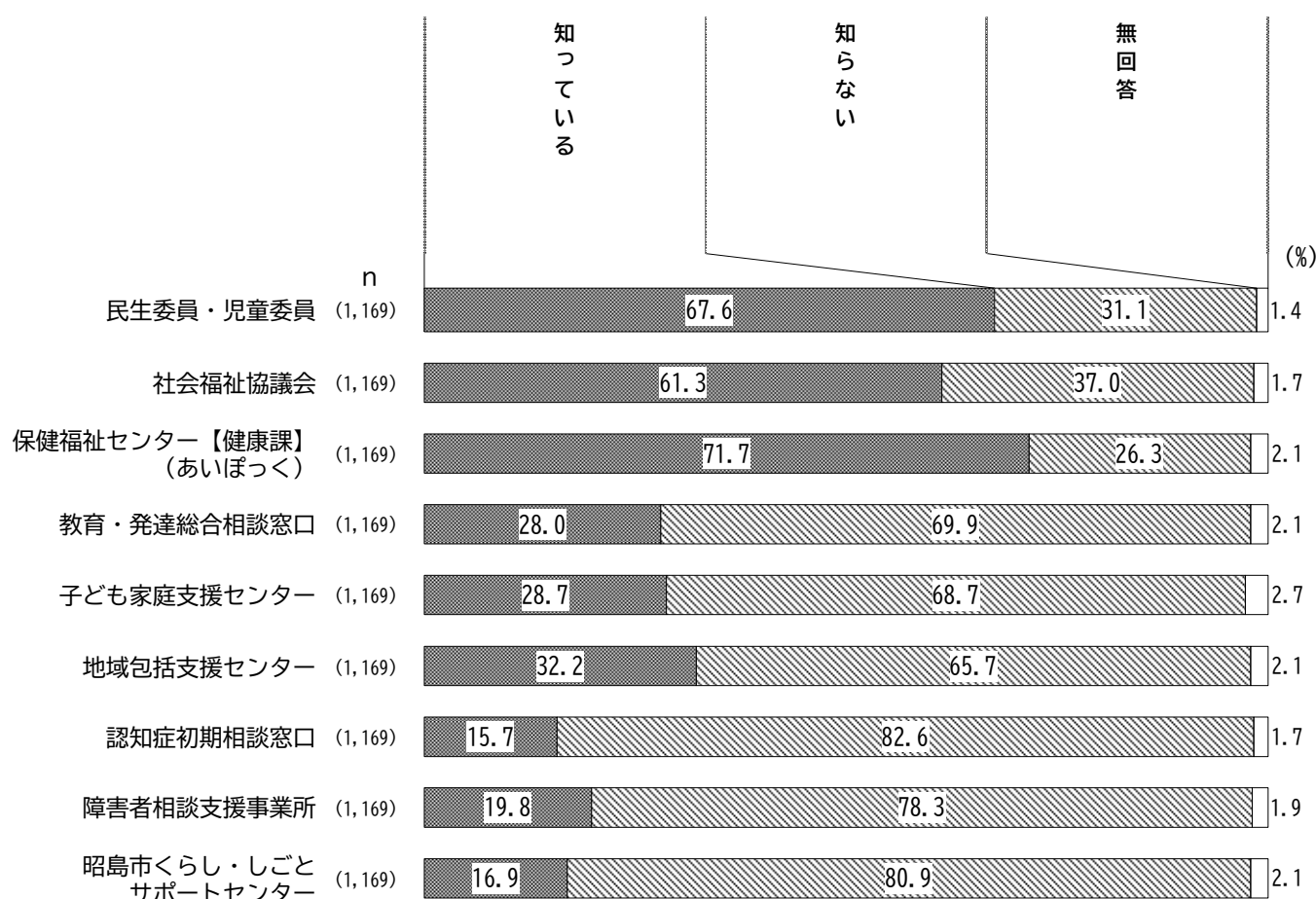
年齢別でみると、「医師、ケアマネジャー、保育士や福祉施設職員などの身近な専門家」は、『60～64歳』（46.8%）が他の年代より高くなっている。「インターネット（市のホームページ以外）で情報を入手」は、おおむね年代が下がるにつれて高くなっている。

(4) 市内の福祉的な支援に関する相談窓口の認知度等

問33 昭島市には、さまざまな福祉的な支援（福祉サービス）に関する相談窓口があることをご存知ですか。「A：認知度」「B：利用の有無」「C：利用時の満足度」について、それぞれお答えください。（それぞれのあてはまる選択肢の1つに○）

A：認知度

図表 市内の福祉的な支援に関する相談窓口「A：認知度」 全体

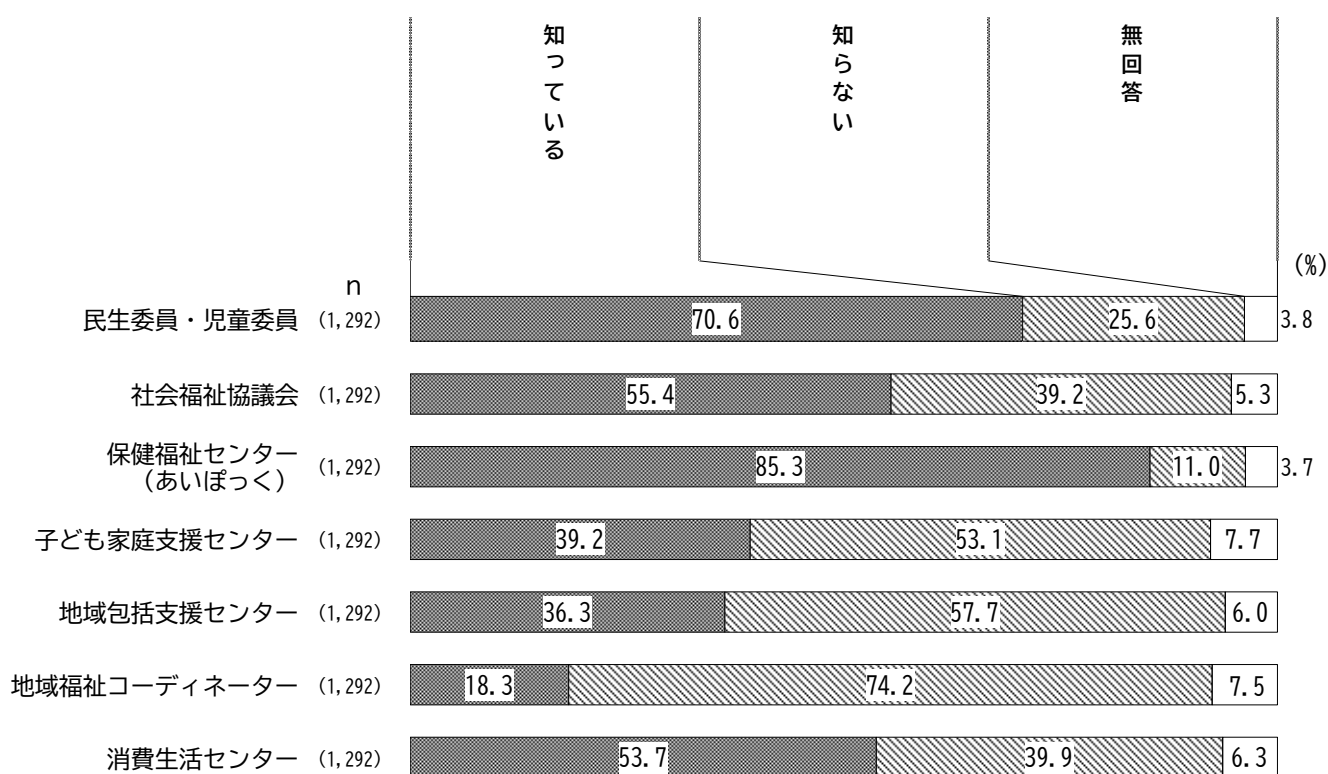


市内の福祉的な支援に関する相談窓口の認知度について聞いたところ、「知っている」と回答した割合が高い項目は《保健福祉センター【健康課】》が71.7%と最も高かった。以下、《民生委員・児童委員》(67.6%)、《社会福祉協議会》(61.3%)となっている。一方、「知らない」と回答した割合が高い項目は《認知症初期相談窓口》(82.6%)、《昭島市くらし・しごとサポートセンター》(80.9%)であった。

平成29年度と比較すると、認知度が増加したものは、《社会福祉協議会》となっている。

【参考】平成29年度

図表 市内の福祉的な支援に関する相談窓口「A：認知度」 全体（【参考】平成29年度）

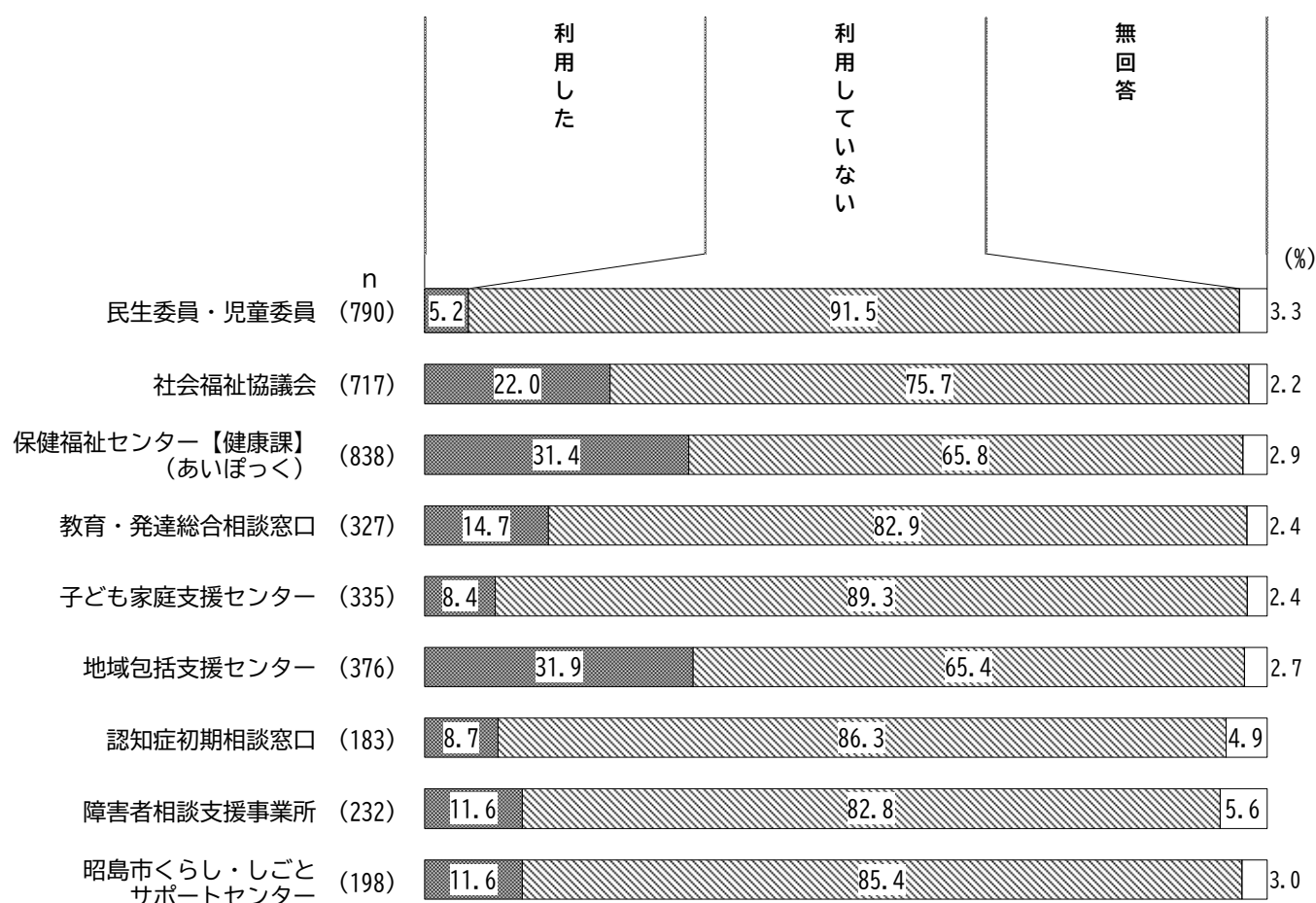


※並び順は令和4年度調査に合わせた。

※《地域福祉コーディネーター》、《消費生活センター》は平成29年度のみ。

B：利用の有無

図表 市内の福祉的な支援に関する相談窓口「B：利用の有無」 全体

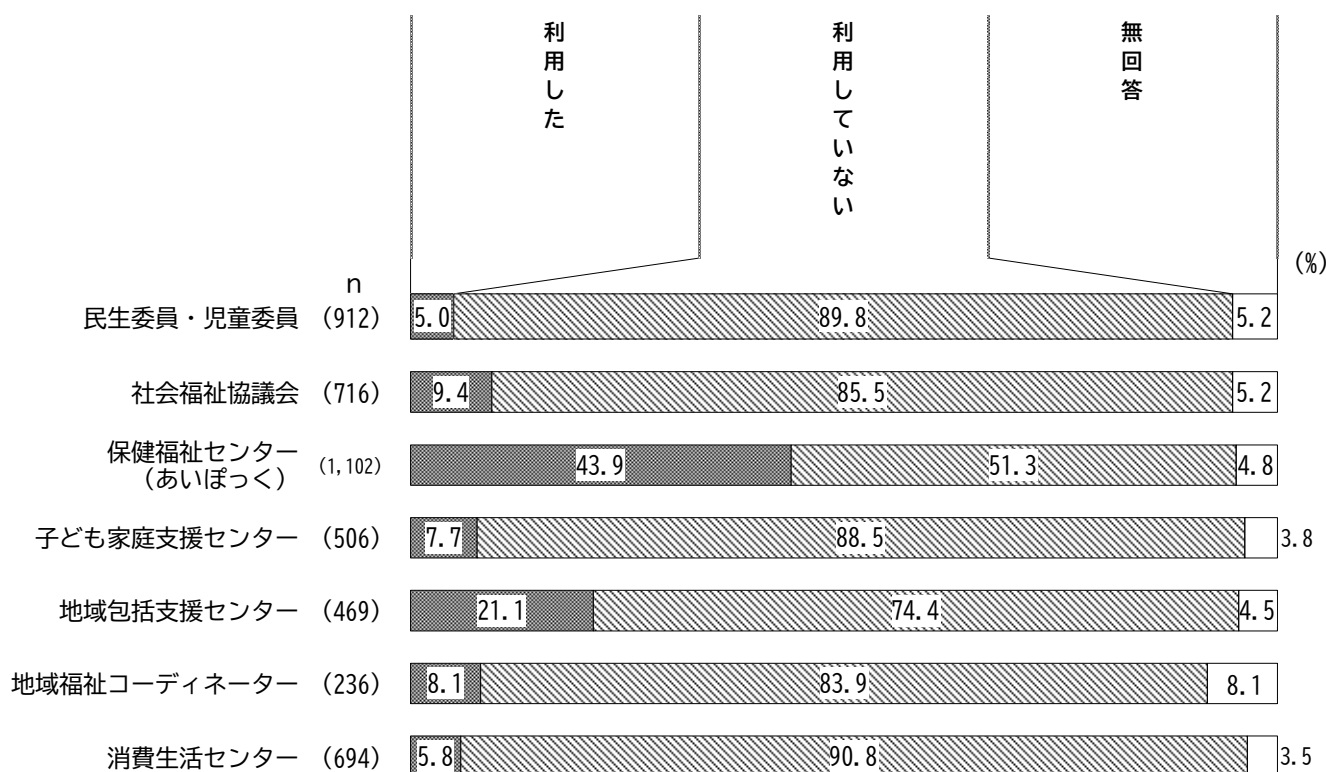


市内の福祉的な支援に関する相談窓口の利用の有無について聞いたところ、「利用した」と回答した割合が高い項目は《地域包括支援センター》が31.9%、以下、《保健福祉センター【健康課】》(31.4%)、《社会福祉協議会》(22.0%)となっている。一方、「利用していない」と回答した割合が高い項目は《民生委員・児童委員》(91.5%)、《子ども家庭支援センター》(89.3%)であった。

平成29年度と比較すると、利用の有無が増加したものは、《社会福祉協議会》、《地域包括支援センター》となっている。

【参考】平成29年度

図表 市内の福祉的な支援に関する相談窓口「B：利用の有無」 全体（【参考】平成29年度）

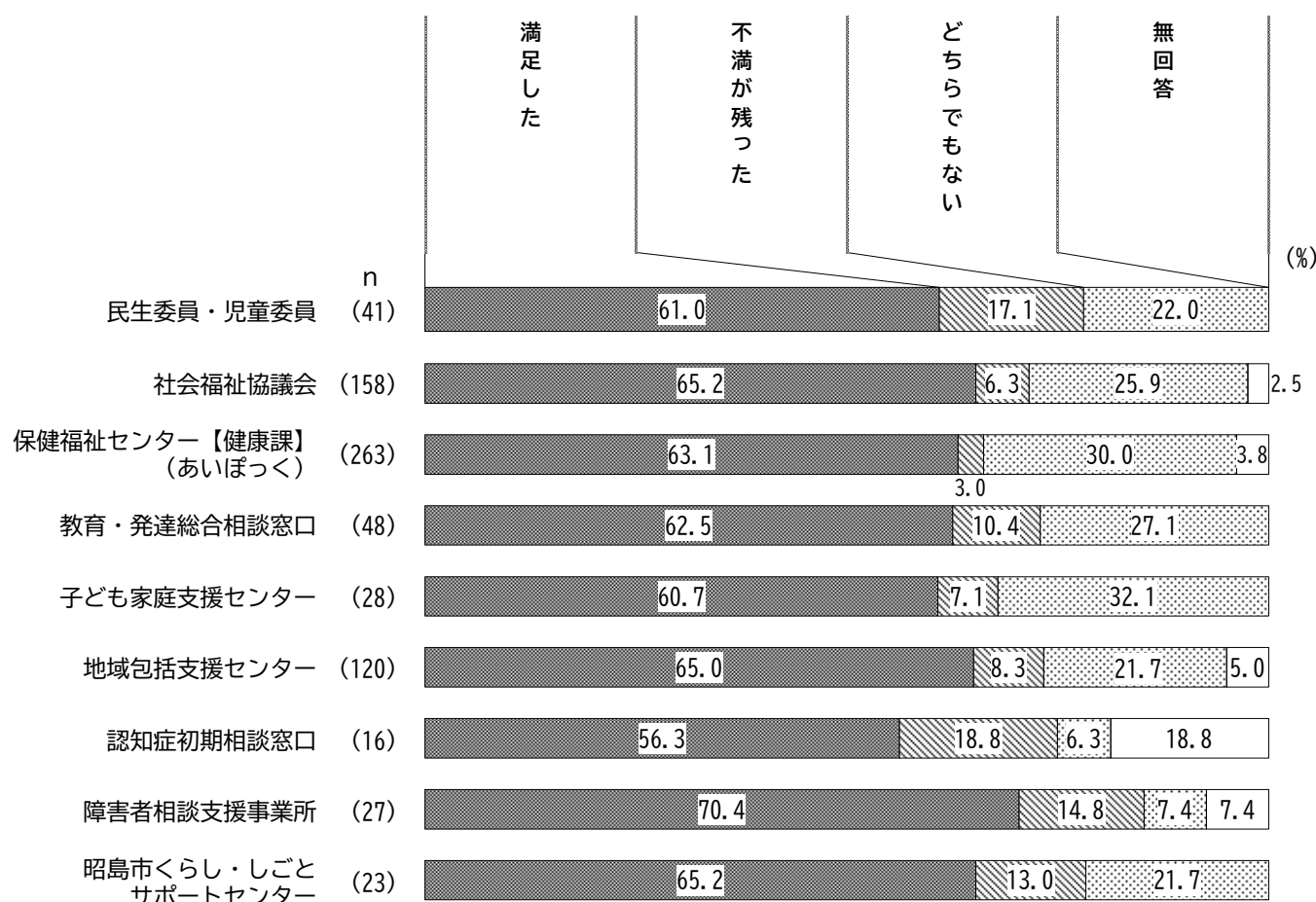


※並び順は令和4年度調査に合わせた。

※《地域福祉コーディネーター》、《消費生活センター》は平成29年度のみ。

C：利用時の満足度

図表 市内の福祉的な支援に関する相談窓口「C：利用時の満足度」 全体

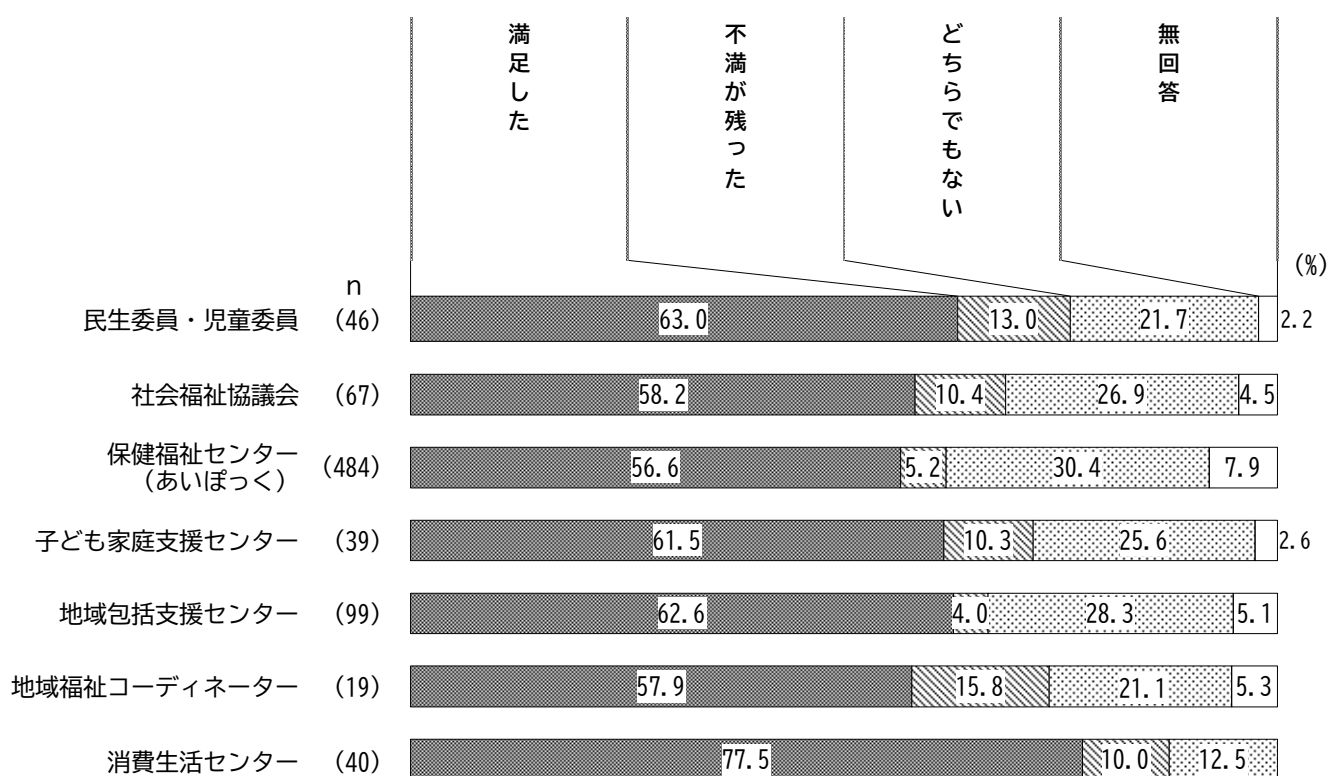


市内の福祉的な支援に関する相談窓口の利用時の満足度について聞いたところ、「満足した」と回答した割合が高い項目は《障害者相談支援事業所》が70.4%と最も高かった。以下、《社会福祉協議会》、《昭島市くらし・しごとサポートセンター》はともに65.2%、《地域包括支援センター》は65.0%となっている。一方、「不満が残った」と回答した割合が高い項目は《認知症初期相談窓口》(18.8%)、《民生委員・児童委員》(17.1%)であった。

平成29年度と比較すると、利用時の満足度が増加したものは、《社会福祉協議会》、《保健福祉センター【健康課】(あいぽっく)》となっている。

【参考】平成29年度

図表 市内の福祉的な支援に関する相談窓口「C：利用時の満足度」 全体（【参考】平成29年度）



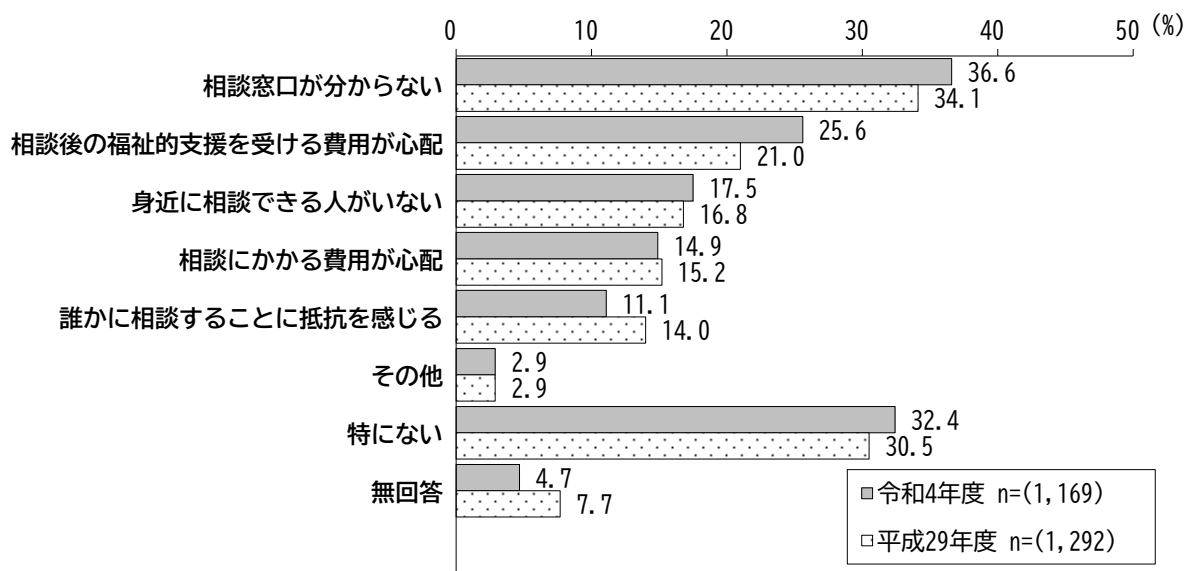
※並び順は令和4年度調査に合わせた。

※《地域福祉コーディネーター》、《消費生活センター》は平成29年度のみ。

(5) 福祉的な支援に関する相談をする際の懸念

問34 福祉的な支援（福祉サービス）に関する相談をしようとする際に困ったこと、または困りそうなことはなんですか。（あてはまるものすべてに○）

図表 福祉的な支援に関する相談をする際の懸念 全体（複数回答）

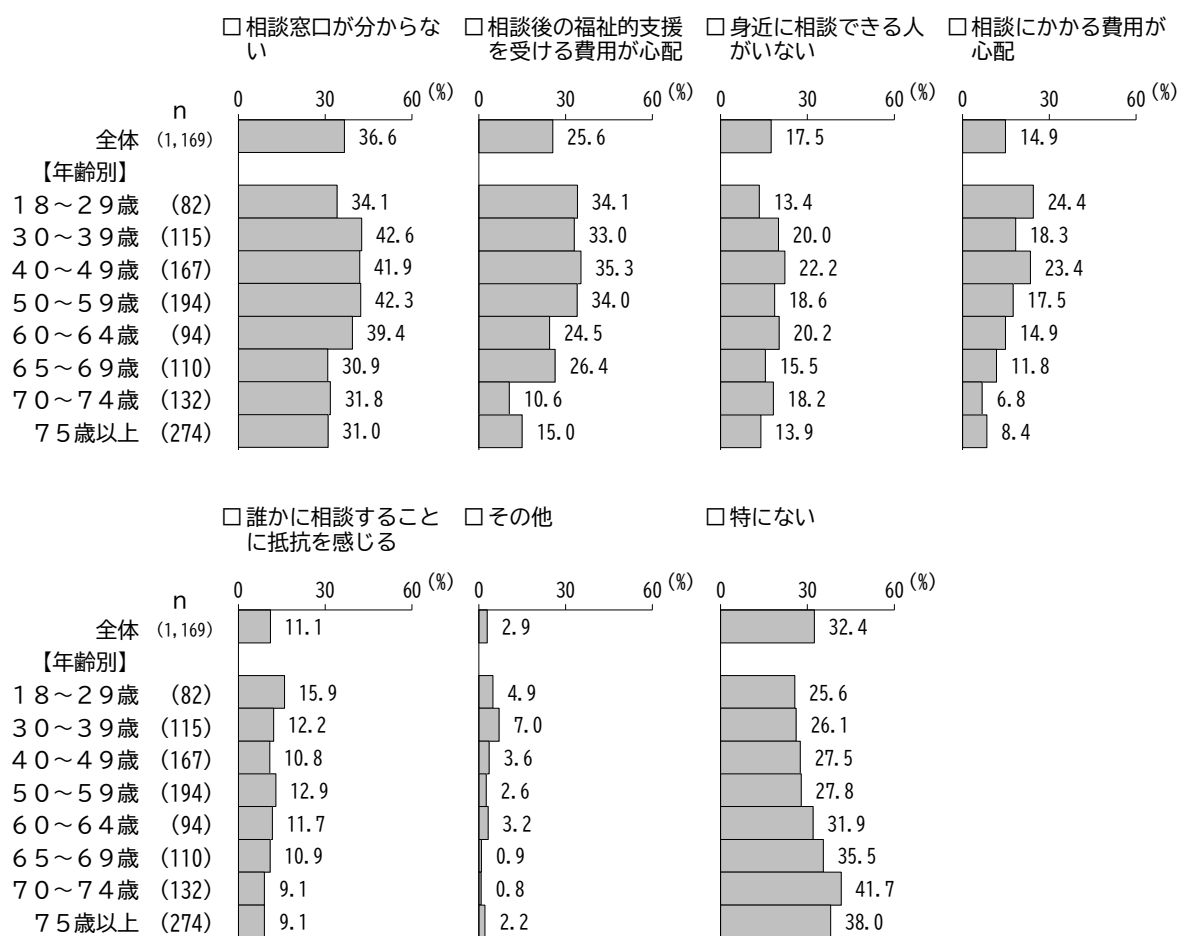


※「相談後の福祉的支援を受ける費用が心配」は、平成29年度は「相談後に取りべき対応にかかる費用が心配」

福祉的な支援に関する相談をする際の懸念について聞いたところ、「相談窓口が分からない」が36.6%と最も高かった。以下、「相談後の福祉的支援を受ける費用が心配」（25.6%）、「身近に相談できる人がいない」（17.5%）となっている。一方、「特にない」は32.4%であった。

平成29年度と比較すると、福祉的な支援に関する相談をする際の懸念は、「相談後の福祉的支援を受ける費用が心配」は4.6ポイント増加している。

図表 福祉的な支援に関する相談をする際の懸念 年齢別（複数回答）

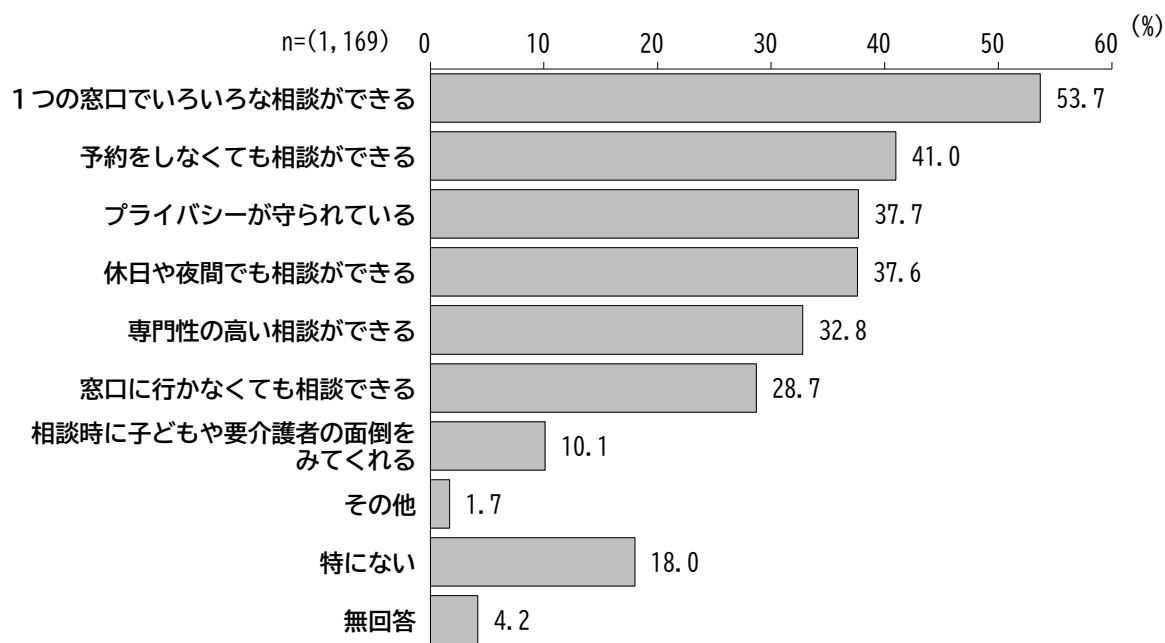


年齢別でみると、「相談窓口が分からない」は、『30～39歳』（42.6%）、『50～59歳』（42.3%）、『40～49歳』（41.9%）が他の年代より高くなっている。「相談にかかる費用が心配」は、おおむね年代が下がるにつれて高くなっており、『18～29歳』（24.4%）、『40～49歳』（23.4%）が他の年代より高くなっている。

(6) 福祉的な支援に関する相談窓口に対する要望

問35 福祉的な支援（福祉サービス）に関する相談窓口について、要望などがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

図表 福祉的な支援に関する相談窓口に対する要望 全体（複数回答）

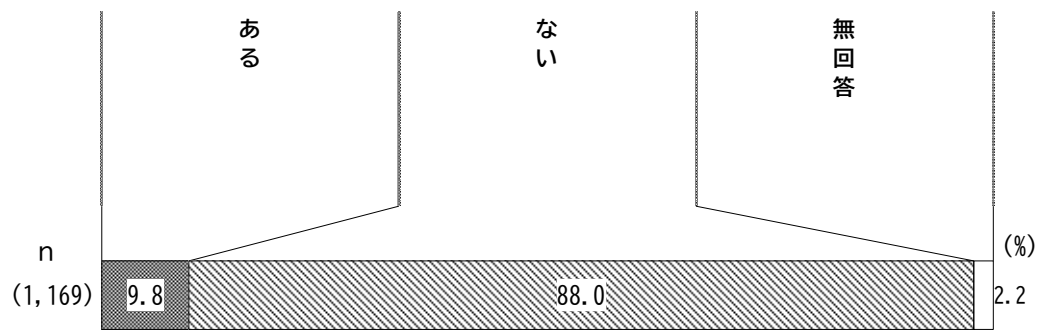


福祉的な支援に関する相談窓口に対する要望について聞いたところ、「1つの窓口でいろいろな相談ができる」が53.7%と最も高かった。以下、「予約をしなくても相談ができる」（41.0%）、「プライバシーが守られている」（37.7%）、「休日や夜間でも相談ができる」（37.6%）となっている。一方、「特にない」は18.0%であった。

(7) ご近所の方の困りごとへの気づき

問36 あなたは今までに、ご近所の方が困っている事に気づかれたことはありますか。(1つだけに○)

図表 ご近所の方の困りごとへの気づき 全体

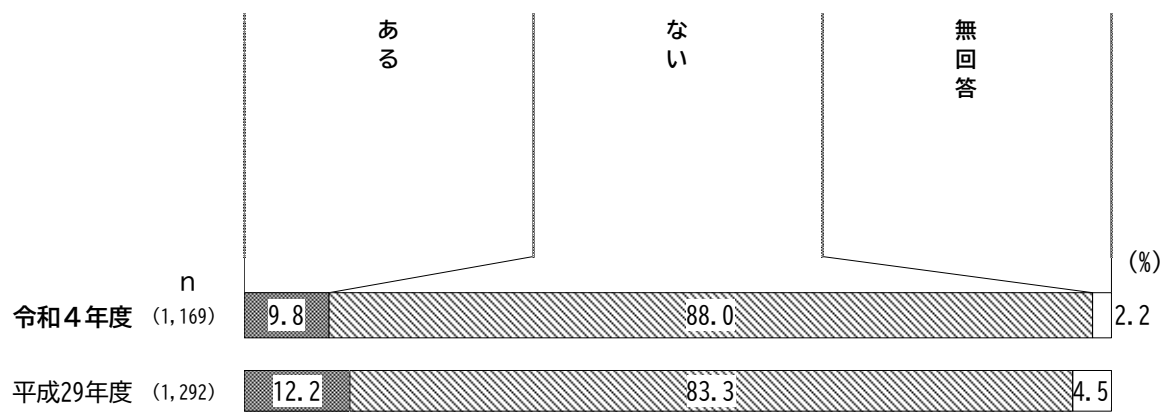


ご近所の方の困り事とは
孤立や虐待（子ども、高齢者、障害のある人など）、失業や不安定な雇用等により生活に困窮している状態などをいう。

ご近所の方の困りごとへの気づきについて聞いたところ、「ある」が9.8%、「ない」が88.0%となっている。

平成29年度と比較すると、ご近所の方の困りごとへの気づきについては、大きな差は見られなかった。

図表 ご近所の方の困りごとへの気づき 全体※前回比較

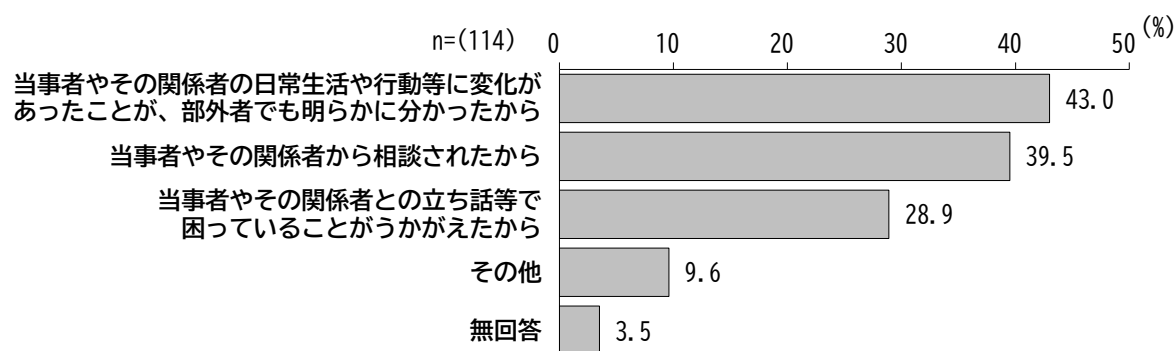


(8) ご近所の方の困りごとに気づいたきっかけ

問37 問36で「1 ある」と答えた方にお聞きします。

ご近所の方が困っていることをどのようにして知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

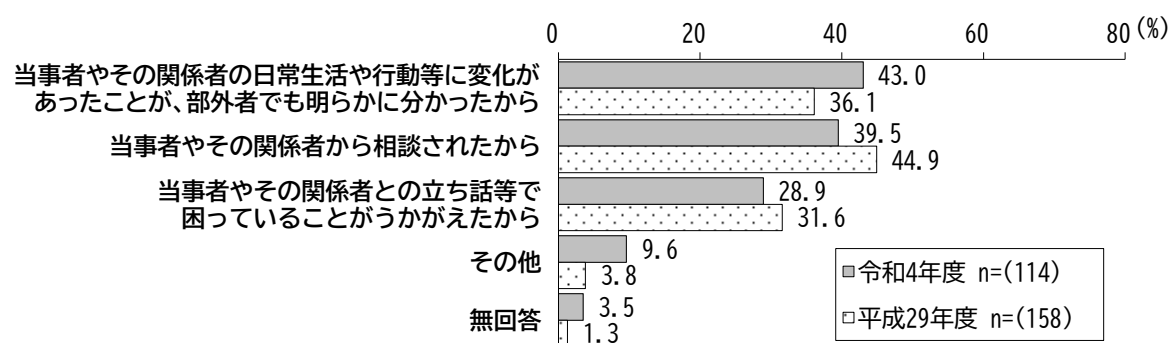
図表 ご近所の方の困りごとに気づいたきっかけ 全体（複数回答）



ご近所の方が困っている事に気づいたことがある方に気づいたきっかけについて聞いたところ、「当事者やその関係者の日常生活や行動等に変化があったことが、部外者でも明らかに分かったから」が43.0%と最も高かった。以下、「当事者やその関係者から相談されたから」(39.5%)、「当事者やその関係者との立ち話等で困っていることがうかがえたから」(28.9%)となっている。

平成29年度と比較すると、ご近所の方が困っている事に気づいたきっかけについては、「当事者やその関係者の日常生活や行動等に変化があったことが、部外者でも明らかに分かったから」が6.9ポイント増加している。

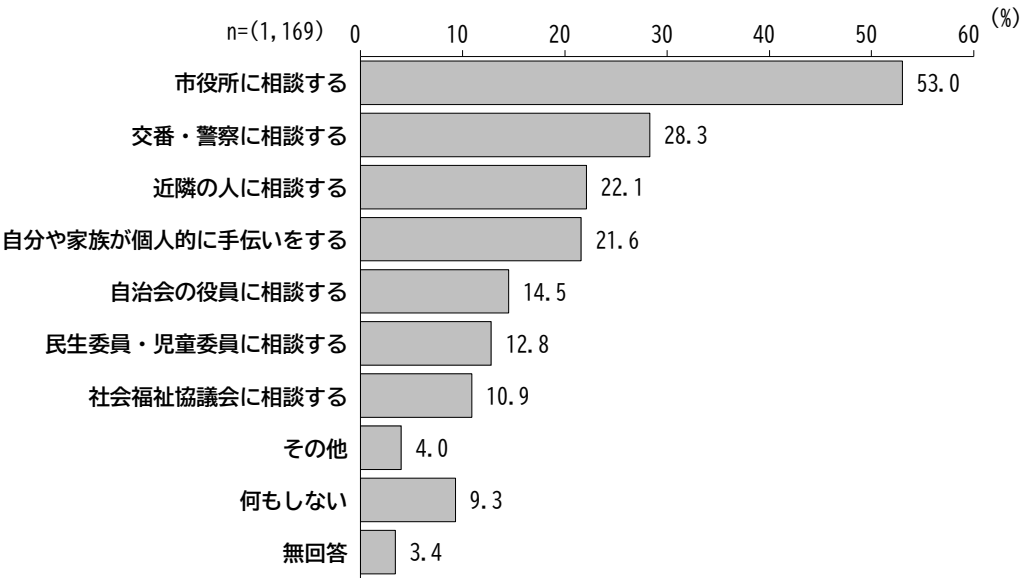
図表 ご近所の方の困りごとに気づいたきっかけ 全体（複数回答）※前回比較



(9) ご近所の方の困りごとへの対応

問38 ご近所の方が困り事を抱えていることがわかった場合、あなたはどうしますか。(あてはまるもの3つまでに○)

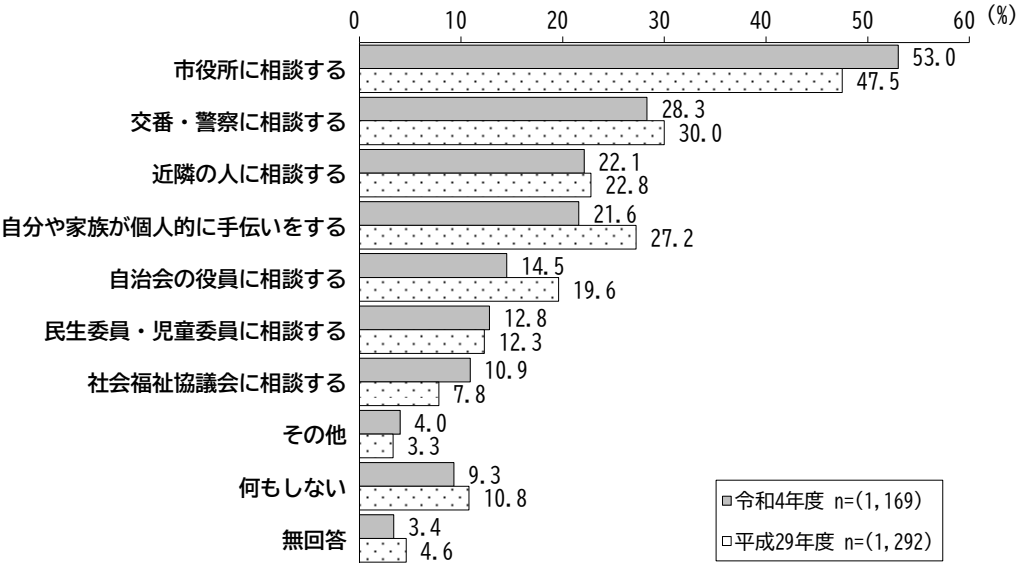
図表 ご近所の方の困りごとへの対応 全体（複数回答）



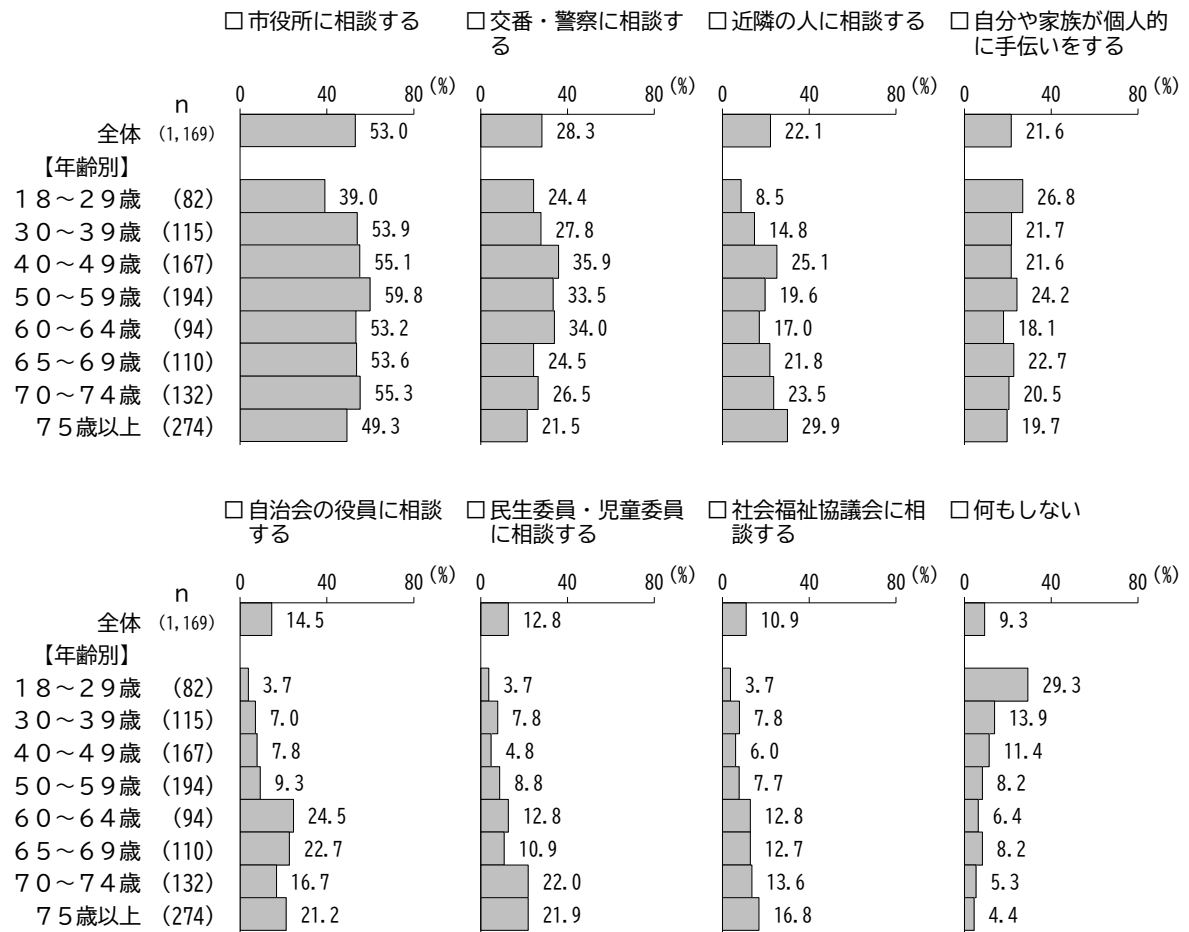
ご近所の方の困りごとへの対応について聞いたところ、「市役所に相談する」が53.0%と最も高かった。以下、「交番・警察に相談する」(28.3%)、「近隣の人に相談する」(22.1%)、「自分や家族が個人的に手伝いをする」(21.6%)となっている。一方、「何もしない」は9.3%であった。

平成29年度と比較すると、ご近所の方の困りごとへの対応については、「市役所に相談する」が5.5ポイント増加している。

図表 ご近所の方の困りごとへの対応 全体（複数回答）※前回比較



図表 ご近所の方の困りごとへの対応 年齢別（複数回答）



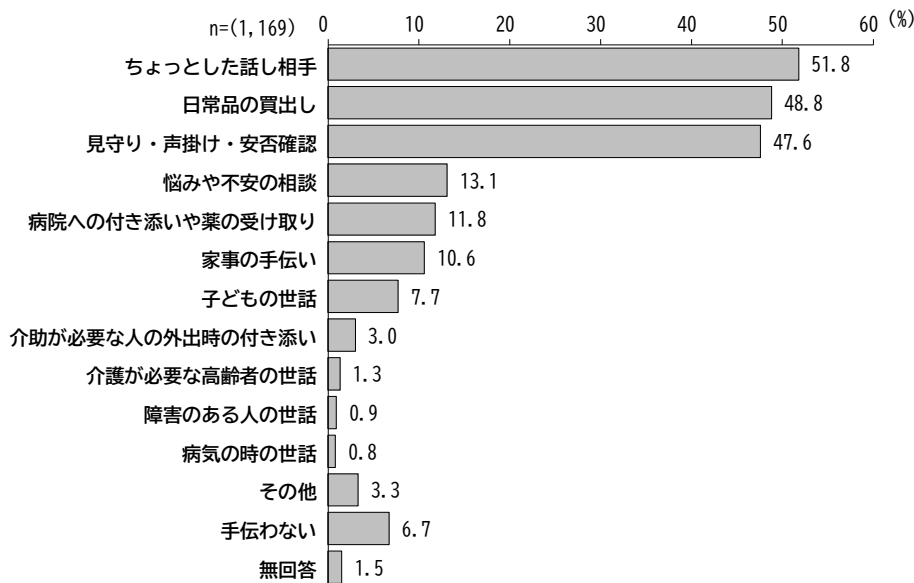
※「その他」を除く上位7項目、「何もしない」

年齢別でみると、「市役所に相談する」は、『30～39歳』から『70～74歳』で50%を超える。「近隣の人に相談する」は、『75歳以上』（29.9%）、『40～49歳』（25.1%）が他の年代より高くなっている。

(10) ご近所の方から手伝いをお願いされた場合の手伝える範囲

問39 ご近所の方から手伝いをお願いされた場合、あなたが手伝えると思う範囲について、あてはまるものは何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)

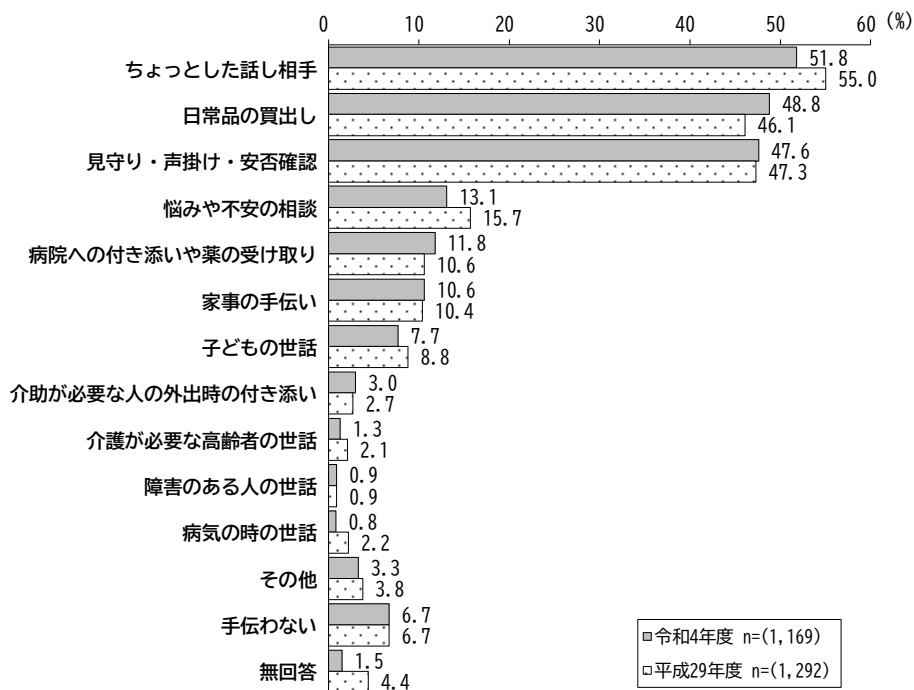
図表 ご近所の方から手伝いをお願いされた場合の手伝える範囲 全体（複数回答）



ご近所の方から手伝いをお願いされた場合の手伝える範囲について聞いたところ、「ちょっとした話し相手」が51.8%と最も高かった。以下、「日常品の買出し」（48.8%）、「見守り・声掛け・安否確認」（47.6%）となっている。一方、「手伝わない」は6.7%であった。

平成29年度と比較すると、ご近所の方から手伝いをお願いされた場合の手伝える範囲については、大きな差は見られなかった。

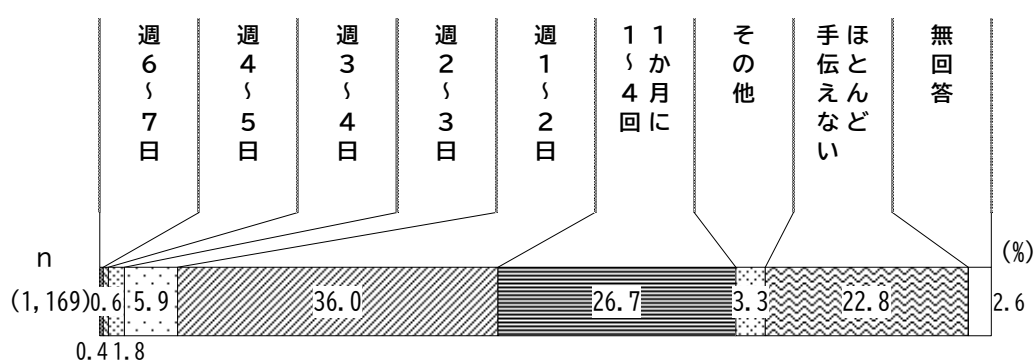
図表 ご近所の方から手伝いをお願いされた場合の手伝える範囲 全体（複数回答）※前回比較



(11) ご近所の方から手伝いをお願いされた場合の手伝える頻度

問40 ご近所の方から手伝いをお願いされた場合、あなたが手伝えると思う頻度について、あてはまるものは何ですか。(1つだけに○)

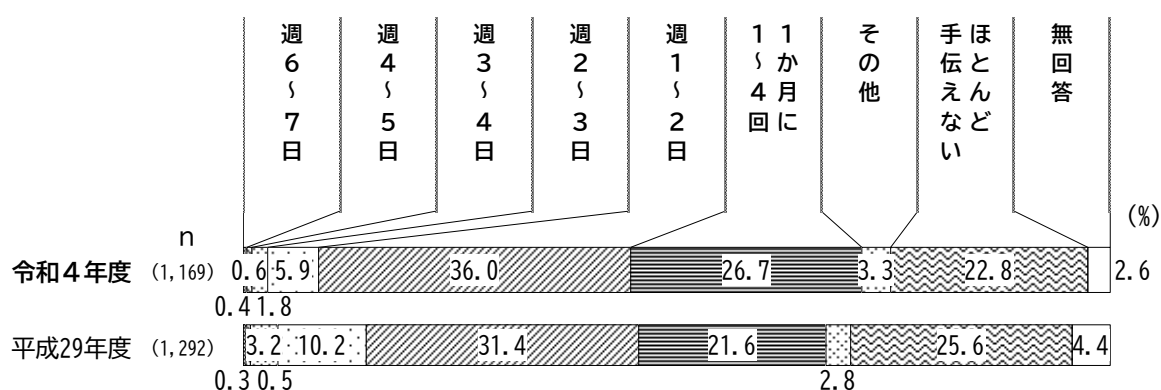
図表 ご近所の方から手伝いをお願いされた場合の手伝える頻度 全体



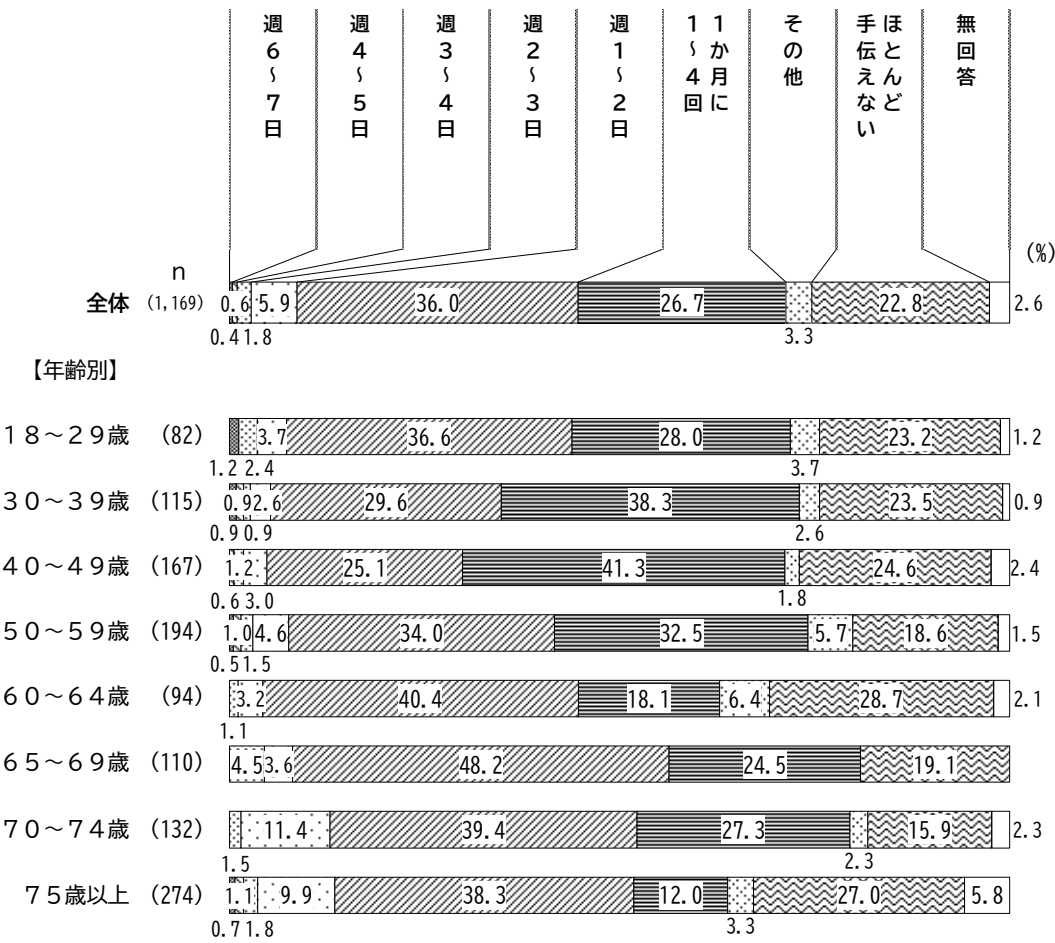
ご近所の方から手伝いをお願いされた場合の手伝える頻度について聞いたところ、「週1～2日」が36.0%と最も高かった。以下、「1か月に1～4回」(26.7%)、「週2～3日」(5.9%)となっている。一方、「ほとんど手伝えない」は22.8%であった。

平成29年度と比較すると、ご近所の方から手伝いをお願いされた場合の手伝える頻度については、「週1～2日」(4.6ポイント)、「1か月に1～4回」(5.1ポイント)増加している。

図表 ご近所の方から手伝いをお願いされた場合の手伝える頻度 全体※前回比較



図表 近所の方から手伝いをお願いされた場合の手伝える頻度 年齢別



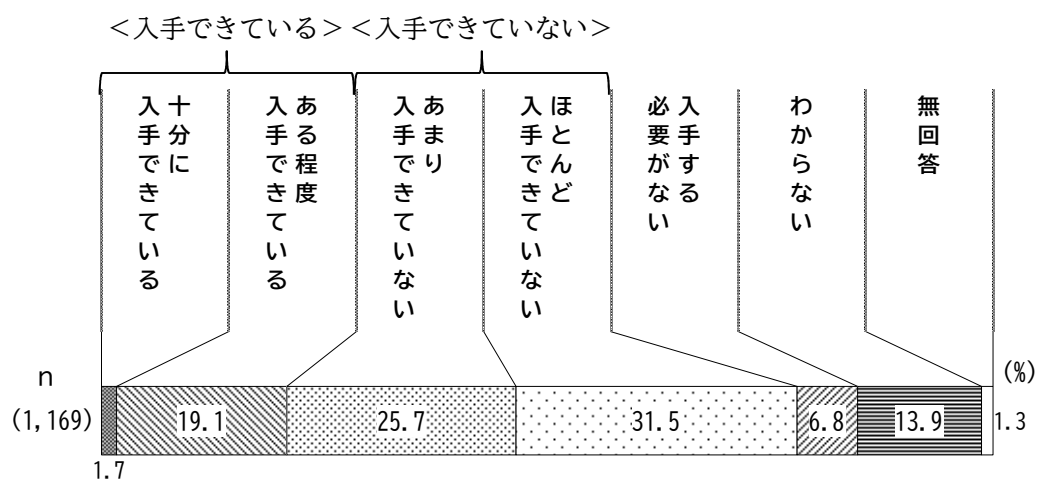
年齢別でみると、「週1～2日」は、『30～39歳』、『40～49歳』を除く全ての年代で最も高くなっている。「1か月に1～4回」は、『40～49歳』（41.3%）が他の年代より高くなっている。一方、「ほとんど手伝えない」は、『60～64歳』（28.7%）、『75歳以上』（27.0%）が他の年代より高くなっている。

5. 福祉に関する制度や事業等について

(1) 福祉サービスに関する情報の入手状況

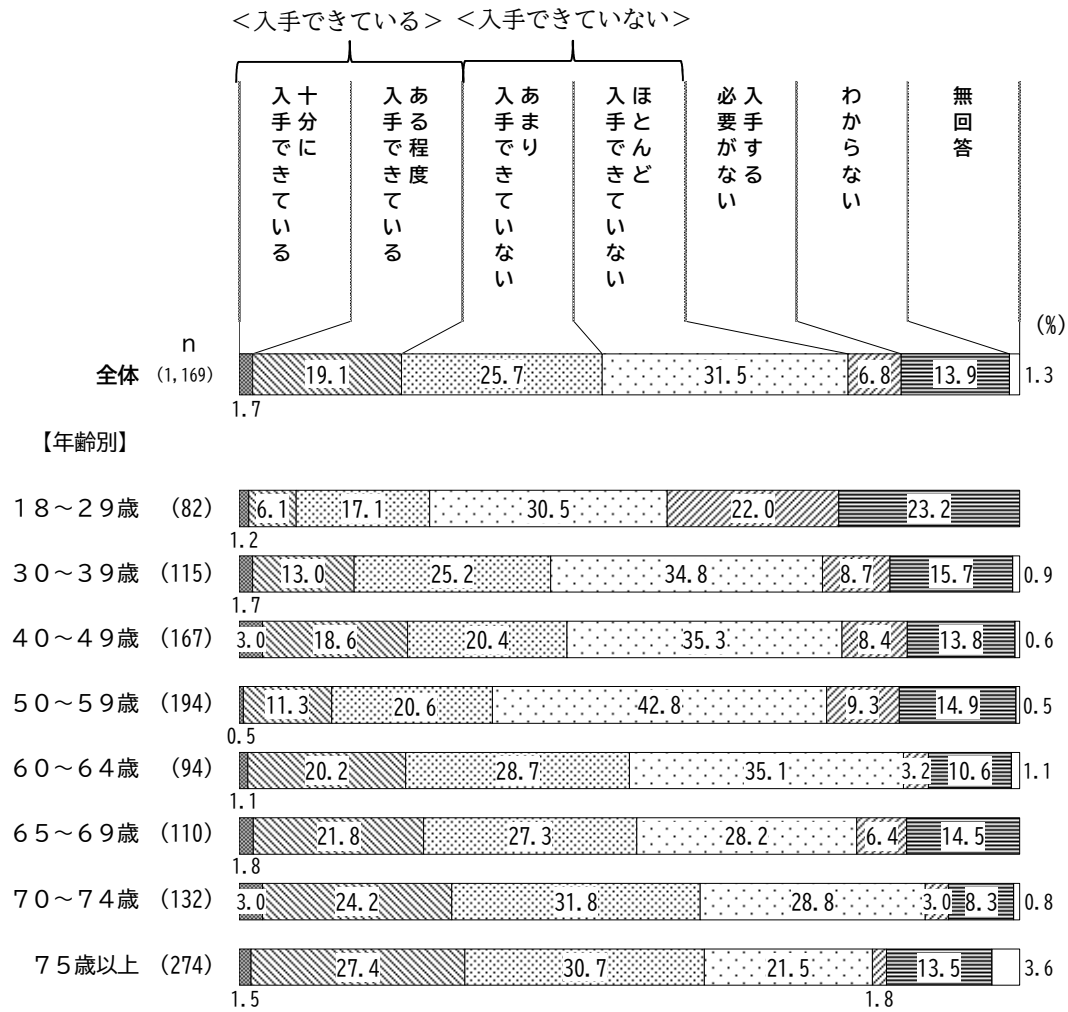
問41 あなたは、福祉サービスに関する情報をどの程度入手できていると感じていますか。
(1つだけに○)

図表 福祉サービスに関する情報の入手状況 全体



福祉サービスに関する情報の入手状況について聞いたところ、「ほとんど入手できていない」が31.5%と最も高く、「あまり入手できていない」が25.7%で、両者を合わせた<入手できていない>の割合は57.2%となっている。「ある程度入手できている」は19.1%、「十分に入手できている」は1.7%で、両者を合わせた<入手できている>の割合は20.8%で<入手できていない>が<入手できている>を上回っている。一方、「入手する必要がある」は6.8%、「わからない」は13.9%であった。

図表 福祉サービスに関する情報の入手状況 年齢別

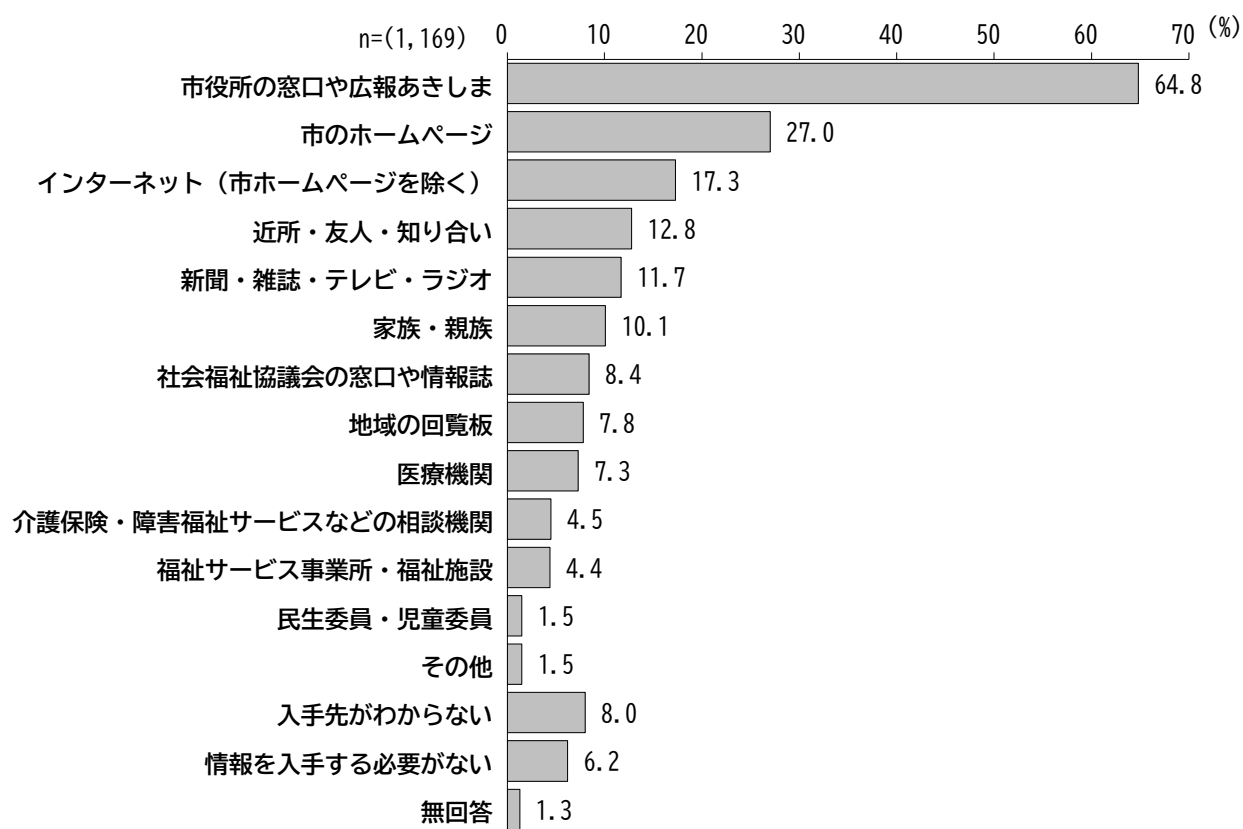


年齢別でみると、全ての年代で、「あまり入手できていない」と「ほとんど入手できていない」を合わせた＜入手できていない＞の割合の方が「十分に入手できている」と「ある程度入手できている」を合わせた＜入手できている＞の割合より高くなっている。「入手する必要がない」は『18～29歳』（22.0%）が他の年代より高くなっている。

(2) 福祉サービスに関する情報の入手先

問42 あなたは、福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

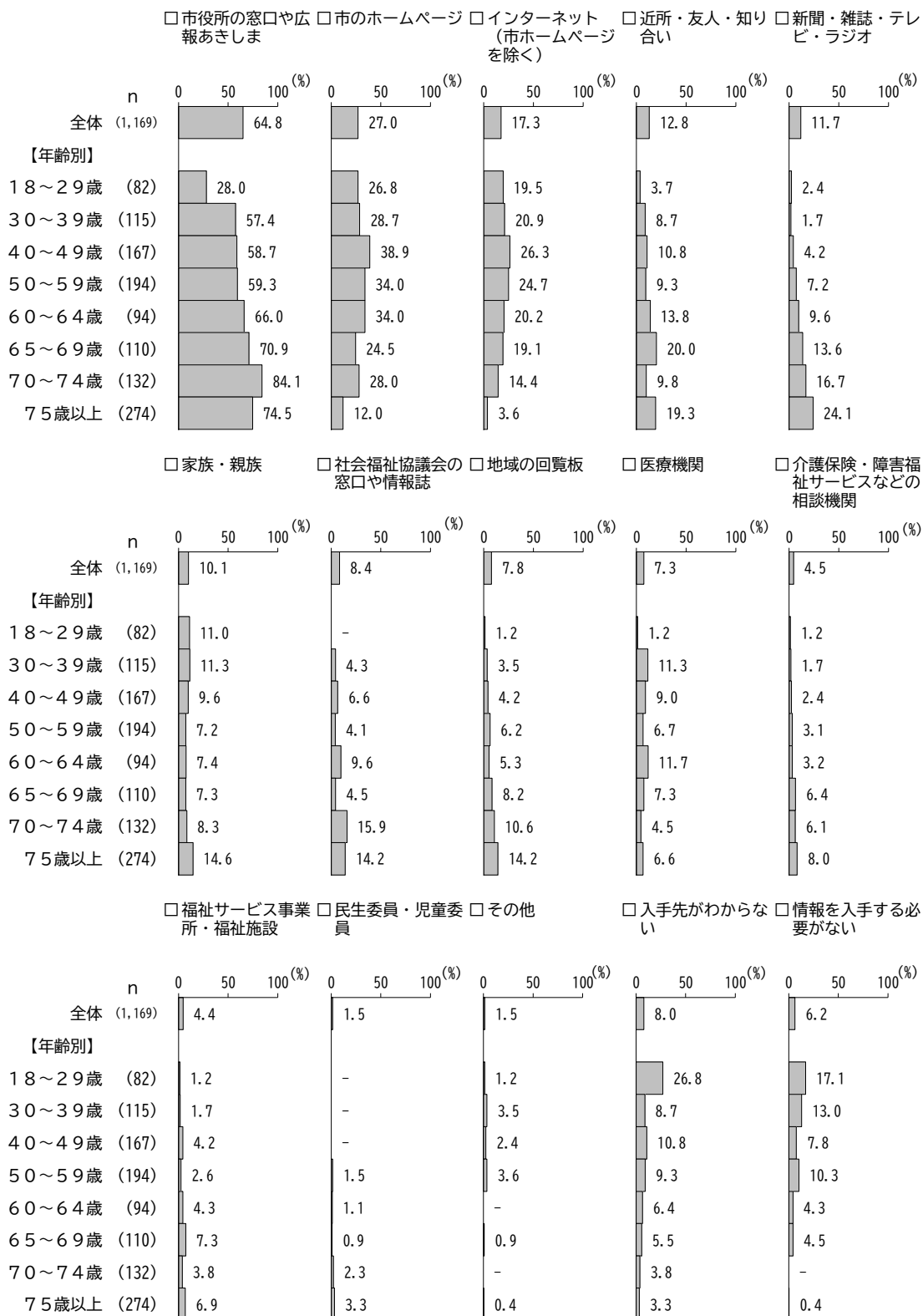
図表 福祉サービスに関する情報の入手先 全体（複数回答）



福祉サービスに関する情報の入手先について聞いたところ、「市役所の窓口や広報あきしま」が64.8%と最も高かった。以下、「市のホームページ」(27.0%)、「インターネット（市ホームページを除く）」(17.3%)、「近所・友人・知り合い」(12.8%)となっている。一方、「入手先がわからない」は8.0%、「情報を入手する必要がない」は6.2%であった。

第2章 調査結果の詳細

図表 福祉サービスに関する情報の入手先 年齢別（複数回答）

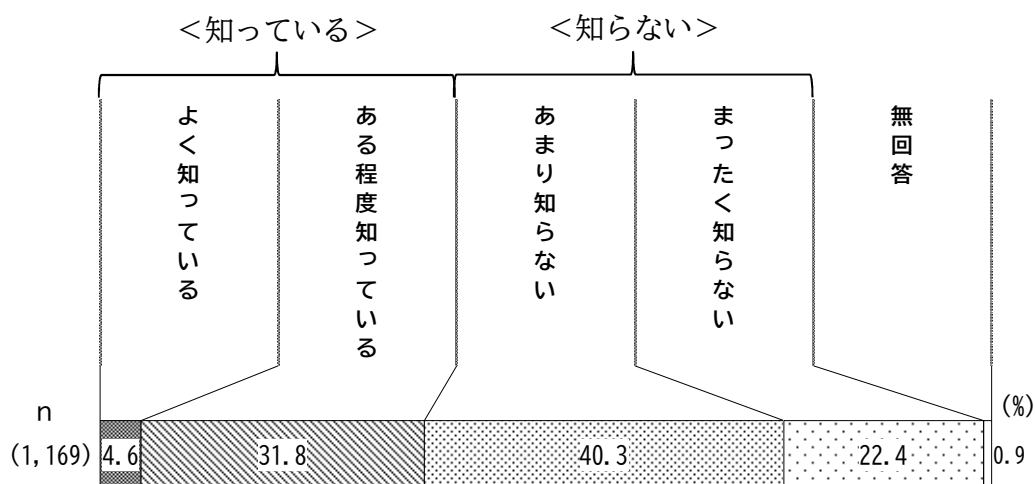


年齢別でみると、「市役所の窓口や広報あきしま」は、おおむね年代が上がるにつれて高くなっており、『70～74歳』（84.1%）が他の年代より高くなっている。「市のホームページ」は、『40～49歳』（38.9%）が他の年代より高くなっている。一方、「入手先がわからない」は、『18～29歳』（26.8%）が他の年代より高くなっている。

(3) 民生委員・児童委員の役割の認知度

問43 あなたは、民生委員・児童委員の役割を知っていますか。(1つだけに○)

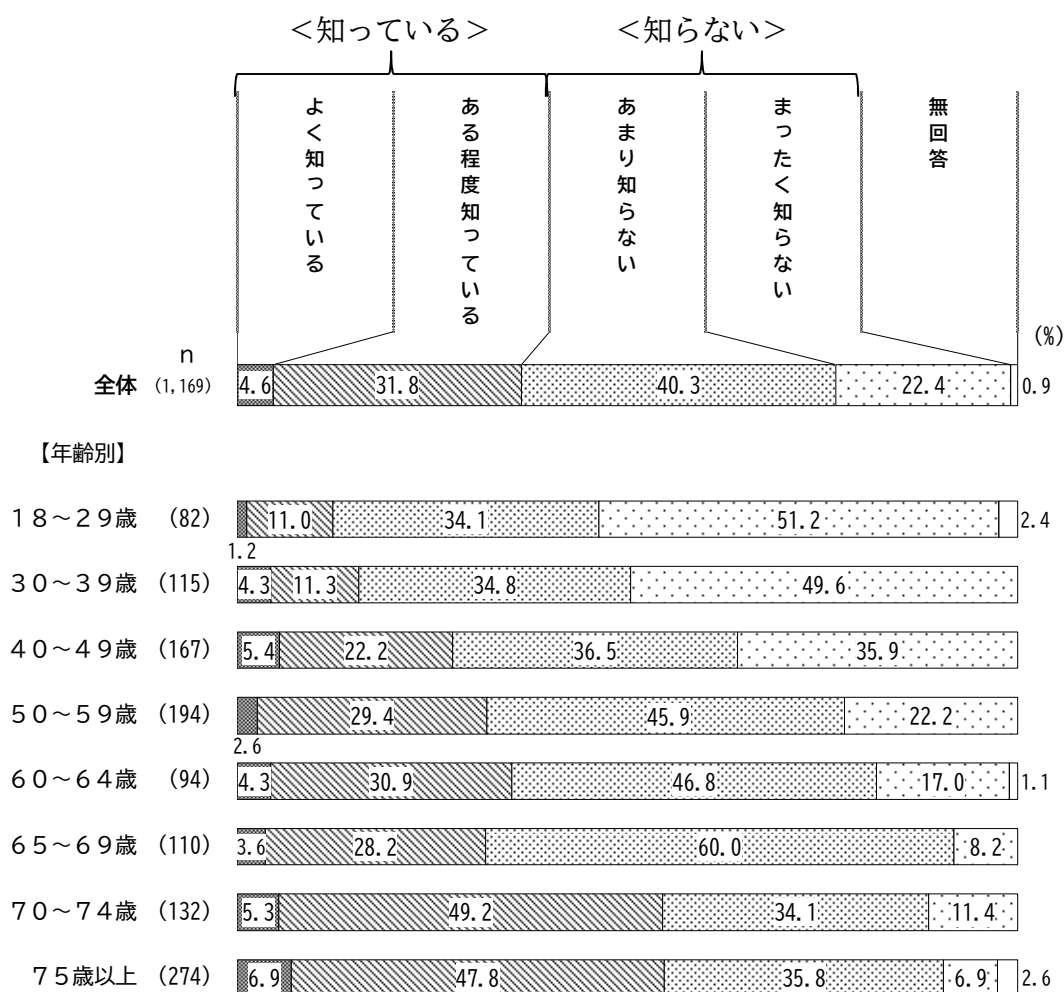
図表 民生委員・児童委員の役割の認知度 全体

**民生委員・児童委員とは**

民生委員法に基づき厚生労働大臣から委嘱され、市民の皆さんが地域で安心して暮らしていくために相談に応じたり、公的な関係機関等へのつなぎ役となる地域の奉仕者。

民生委員・児童委員の役割の認知度について聞いたところ、「あまり知らない」が40.3%と最も高く、「まったく知らない」が22.4%で、両者を合わせた<知らない>の割合は62.7%となっている。「ある程度知っている」が31.8%で、「よく知っている」は4.6%で、両者を合わせた<知っている>の割合は36.4%と、<知らない>が<知っている>を26.3ポイント上回っている。

図表 民生委員・児童委員の役割の認知度 年齢別

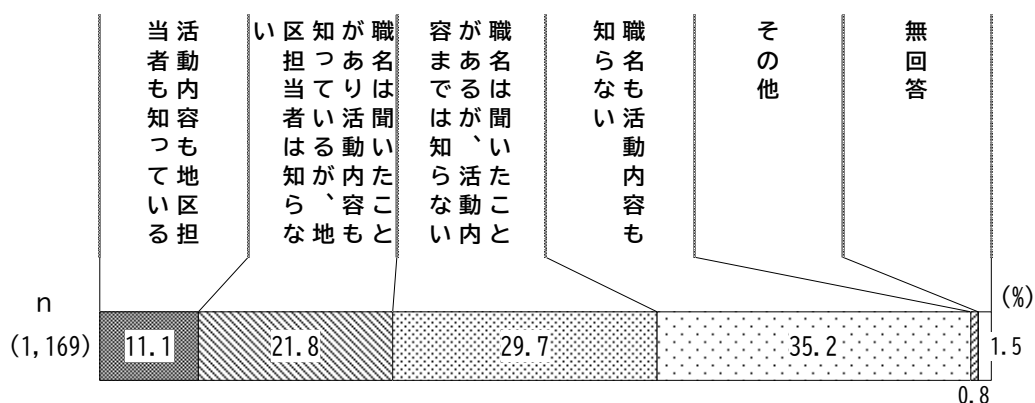


年齢別に見ると、70歳以上を除く全ての年代で、「あまり知らない」と「まったく知らない」を合わせた<知らない>の割合の方が、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた<知っている>の割合より高くなっている。<知っている>の割合は、『70～74歳』（54.5%）、『75歳以上』（54.7%）がともに5割以上と、他の年代より高くなっている。

(4) 居住地区を担当している民生委員・児童委員の認知度

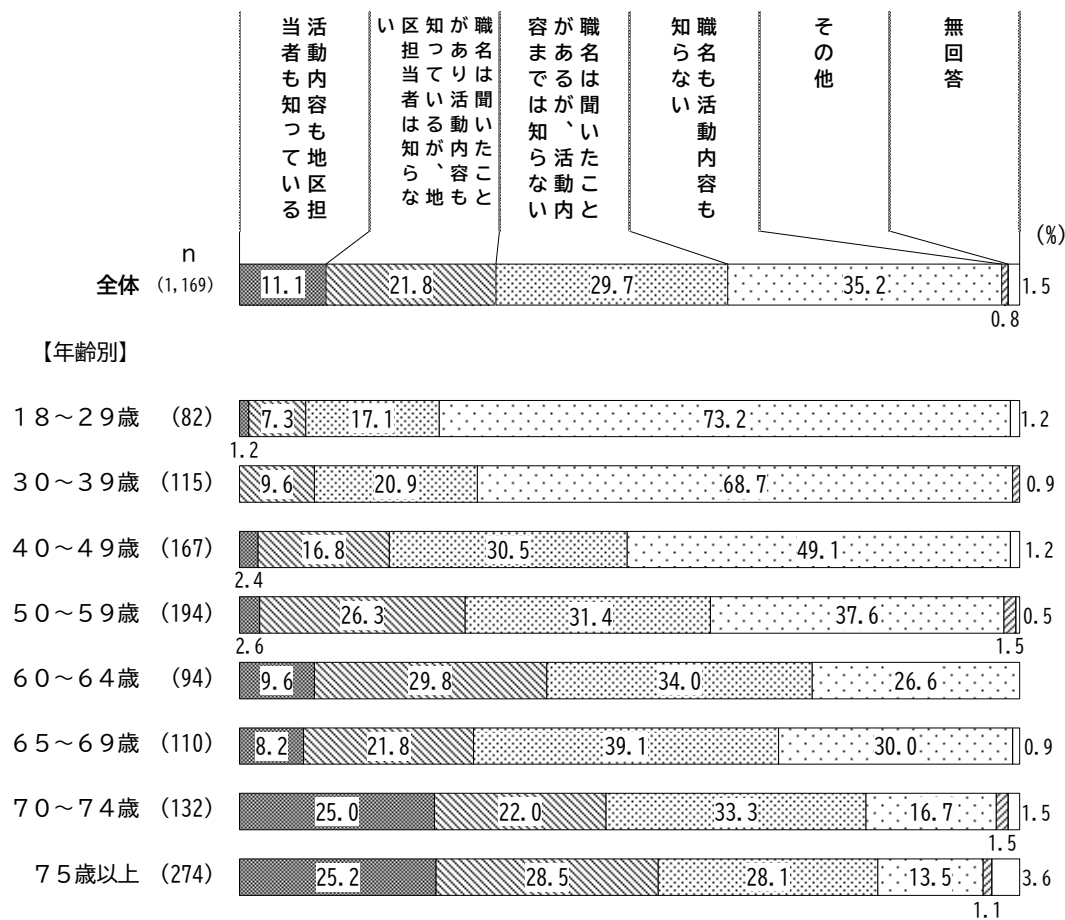
問44 あなたが住んでいる地区を担当している民生委員・児童委員を知っていますか。(1つだけに○)

図表 居住地区を担当している民生委員・児童委員の認知度 全体



居住地区を担当している民生委員・児童委員の認知度について聞いたところ、「活動内容も地区担当者も知っている」は11.1%、「職名は聞いたことがあるが、活動内容も知っているが、地区担当者は知らない」は21.8%、「職名は聞いたことがあるが、活動内容までは知らない」は29.7%、「職名も活動内容も知らない」は35.2%となっている。

図表 居住地区を担当している民生委員・児童委員の認知度 年齢別

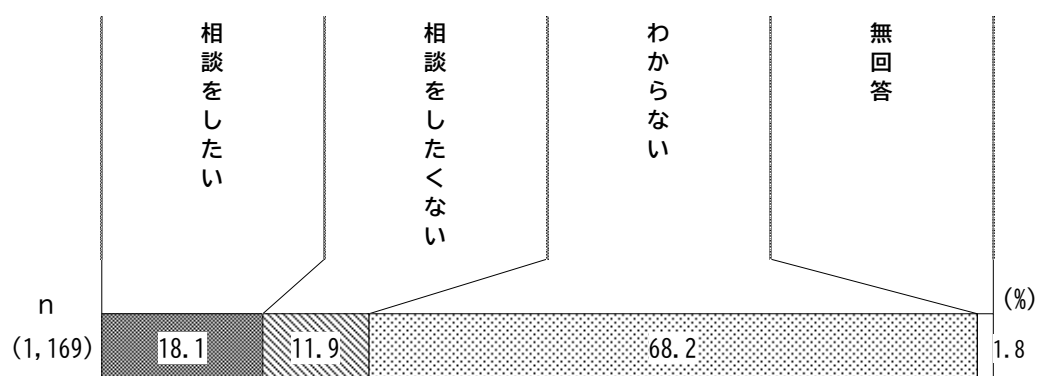


年齢別でみると、「活動内容も地区担当者も知っている」は、『75歳以上』（25.2%）、『70～74歳』（25.0%）が他の年代より高くなっている。「職名は聞いたことがあるが、活動内容までは知らない」は、『65～69歳』（39.1%）が他の年代より高くなっている。「職名も活動内容も知らない」は、『18～29歳』（73.2%）が他の年代より高くなっている。

(5) 困った時の民生委員・児童委員への相談意向

問45 あなたは、今後、困った時に民生委員・児童委員に相談をしたいと思いますか。(1つだけに○)

図表 困った時の民生委員・児童委員への相談意向 全体

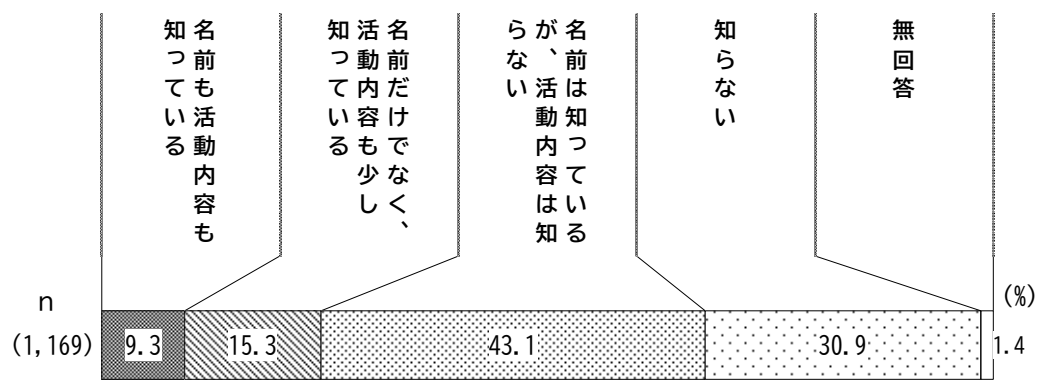


困った時の民生委員・児童委員への相談意向について聞いたところ、「相談をしたい」は18.1%、「相談をしたくない」は11.9%となっている。一方、「わからない」は68.2%であった。

(6) 昭島市社会福祉協議会の認知度

問46 あなたは、昭島市社会福祉協議会について知っていますか。(1つだけに○)

図表 昭島市社会福祉協議会の認知度 全体

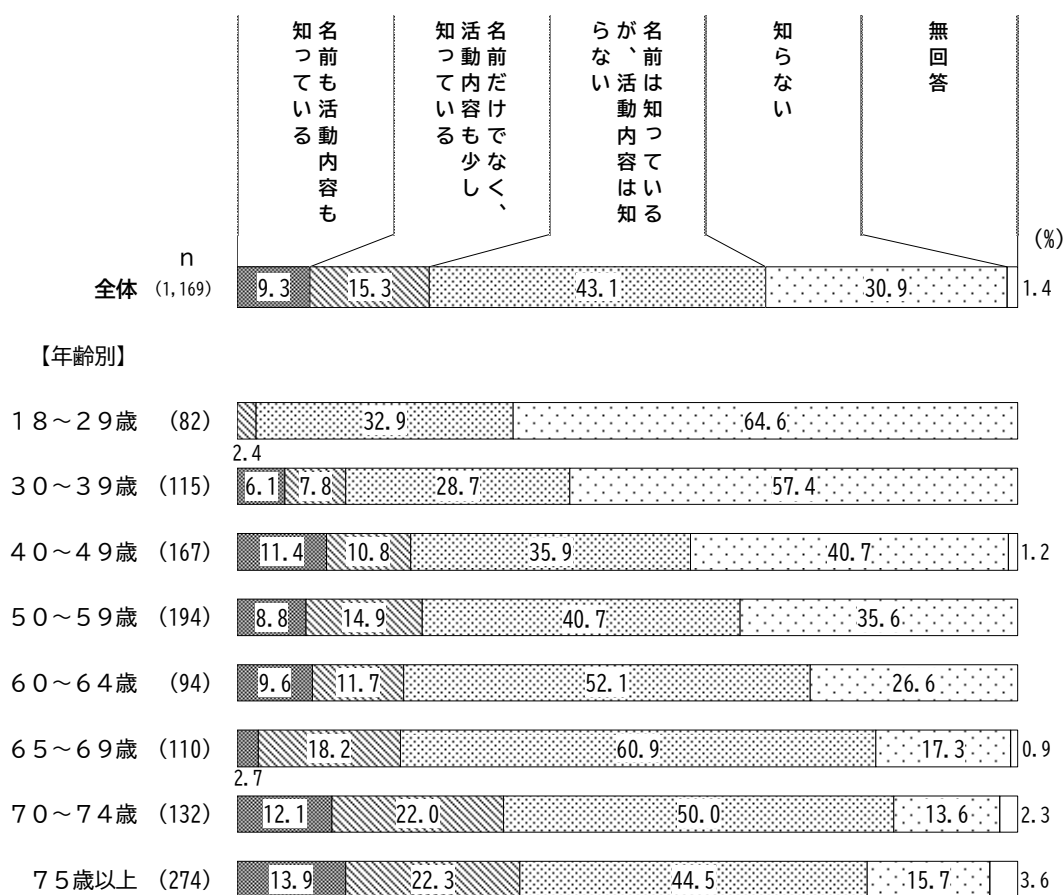


社会福祉協議会とは

市民の皆さんが互いに支え合い、安心して地域で暮らすことができるよう、自治会や民生委員・児童委員、福祉施設・団体、ボランティア団体、事業所や市などの参加と協力のもと、地域福祉の向上と推進を目的として、さまざまな活動をしている社会福祉法人。

昭島市社会福祉協議会の認知度について聞いたところ、「名前も活動内容も知っている」は9.3%、「名前だけでなく、活動内容も少し知っている」は15.3%、「名前は知っているが、活動内容は知らない」は43.1%、「知らない」は30.9%となっている。

図表 昭島市社会福祉協議会の認知度 年齢別

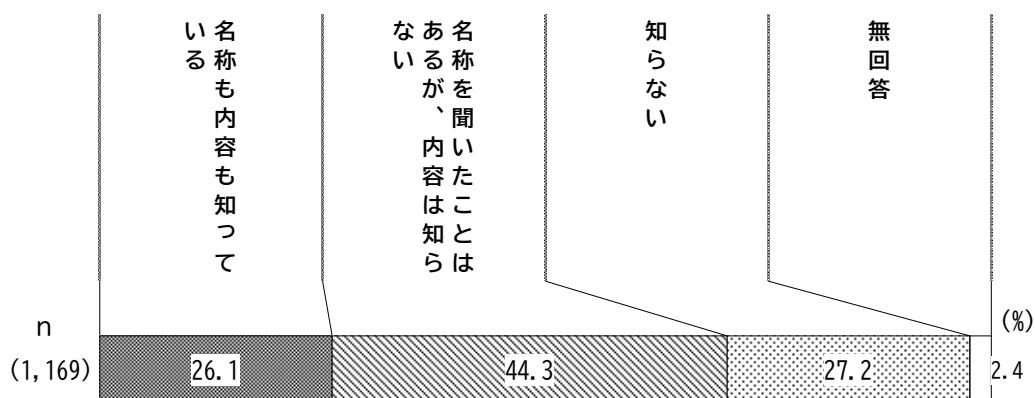


年齢別でみると、「名前も活動内容も知っている」、「名前だけでなく、活動内容も少し知っている」は、『75歳以上』が他の年代より高くなっている。「名前は知っているが、活動内容は知らない」は、『65～69歳』（60.9%）が他の年代より高くなっている。一方、「知らない」は、年代が下がるにつれておおむね高くなっている。

(7) 成年後見制度の認知度

問47 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つだけに○)

図表 成年後見制度の認知度 全体

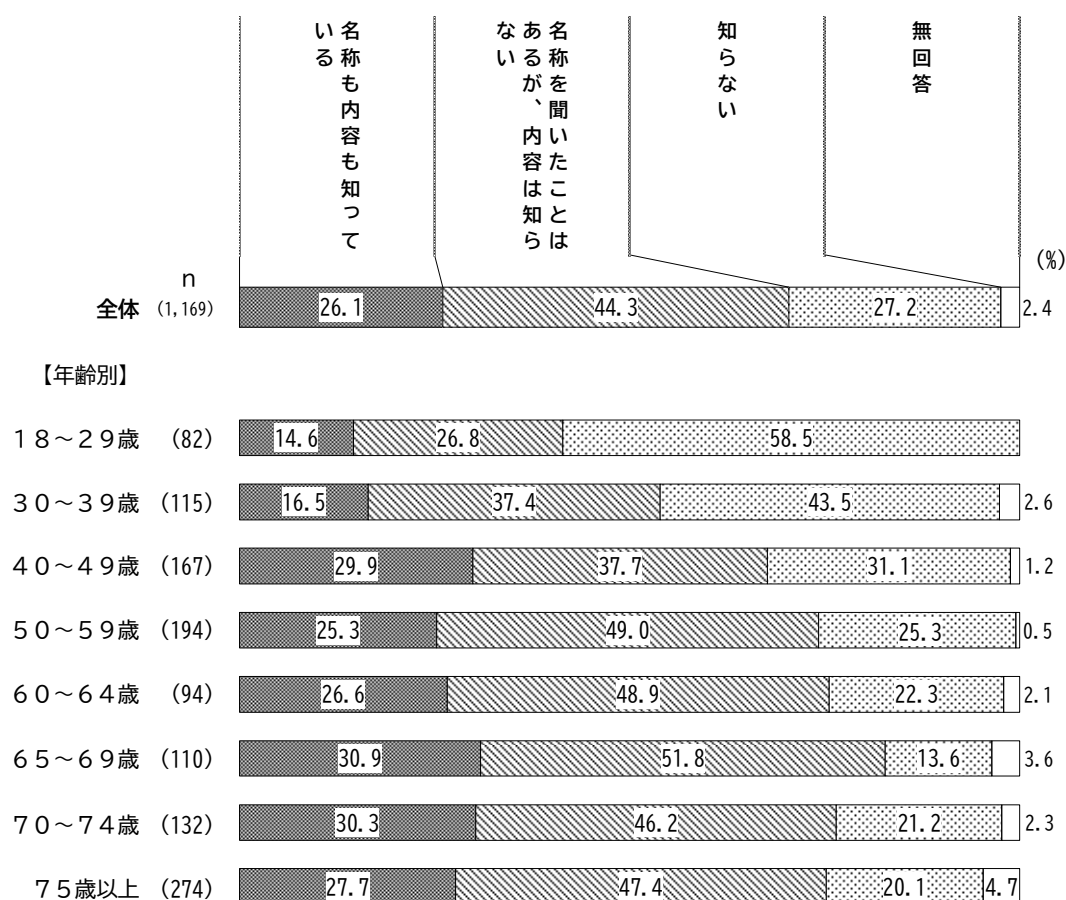


成年後見制度とは

認知症、知的障害、精神障害などの理由で、物事を判断する能力が十分でない方について、本人の権利を守る援助者（成年後見人等）を選び、本人を法的に支援する制度。具体的には、本人に代わって財産管理や福祉サービス等の契約を結ぶなどの行為を行う。利用するには、家庭裁判所への申立てが必要。

成年後見制度の認知度について聞いたところ、「名称も内容も知っている」は26.1%、「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」は44.3%、「知らない」は27.2%となっている。

図表 成年後見制度の認知度 年齢別

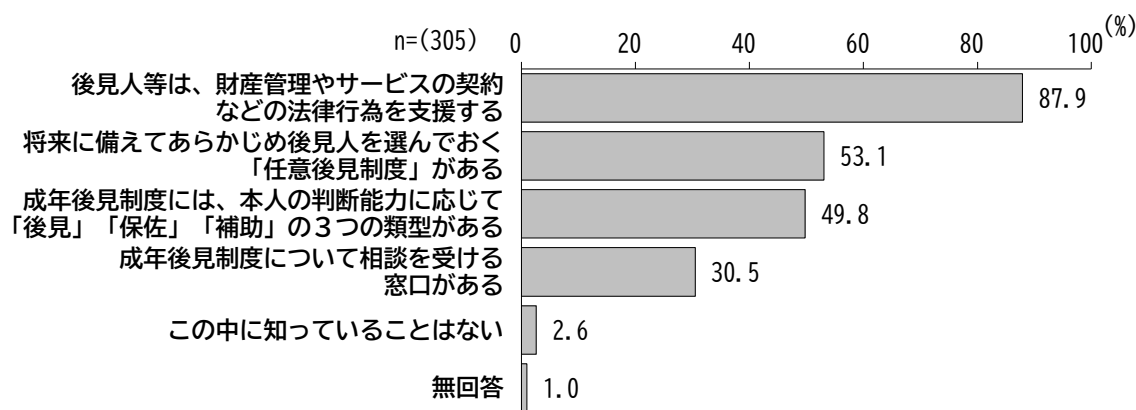


年齢別でみると、「名称も内容も知っている」は、『65～69歳』（30.9%）、『70～74歳』（30.3%）が他の年代より高くなっている。「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」は、『65～69歳』（51.8%）が他の年代より高くなっている。一方、「知らない」は、おおむね年代が下がるにつれて高くなっており、『18～29歳』（58.5%）が最も高くなっている。

(8) 成年後見制度について知っていること

問48 問47で「1 名称も内容も知っている」と答えた方にお聞きします。
成年後見制度について、次のことはご存知ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 成年後見制度について知っていること 全体（複数回答）

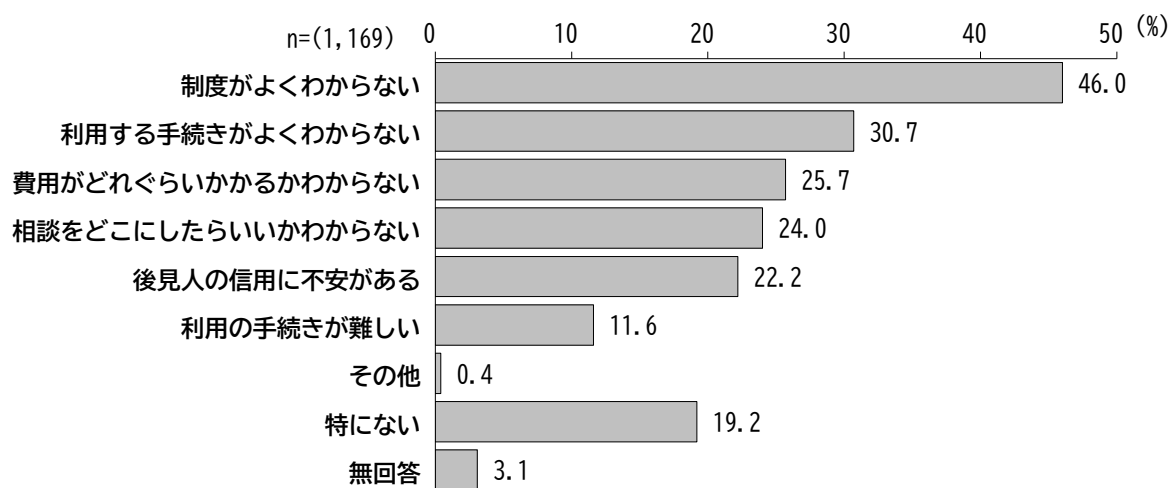


成年後見制度について名称も内容も知っている方に知っていることについて聞いたところ、「後見人等は、財産管理やサービスの契約などの法律行為を支援する」が87.9%と最も高かった。以下、「将来に備えてあらかじめ後見人を選んでおく「任意後見制度」がある」(53.1%)、「成年後見制度には、本人の判断能力に応じて「後見」「保佐」「補助」の3つの類型がある」(49.8%)となっている。一方、「この中に知っていることはない」は2.6%であった。

(9) 成年後見制度についての考え

問49 成年後見制度について思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

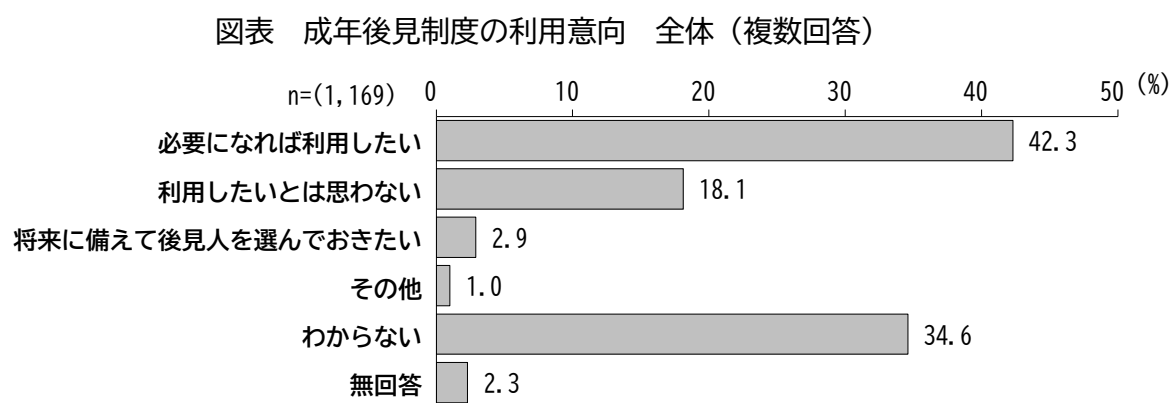
図表 成年後見制度についての考え 全体(複数回答)



成年後見制度についての考えについて聞いたところ、「制度がよくわからない」が46.0%と最も高かった。以下、「利用する手続きがよくわからない」(30.7%)、「費用がどれぐらいかかるかわからない」(25.7%)、「相談をどこにしたらいいかわからない」(24.0%)となっている。一方、「特にない」は19.2%であった。

(10) 成年後見制度の利用意向

問50 あなたは、成年後見制度による支援が必要になったときには、成年後見制度を利用したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

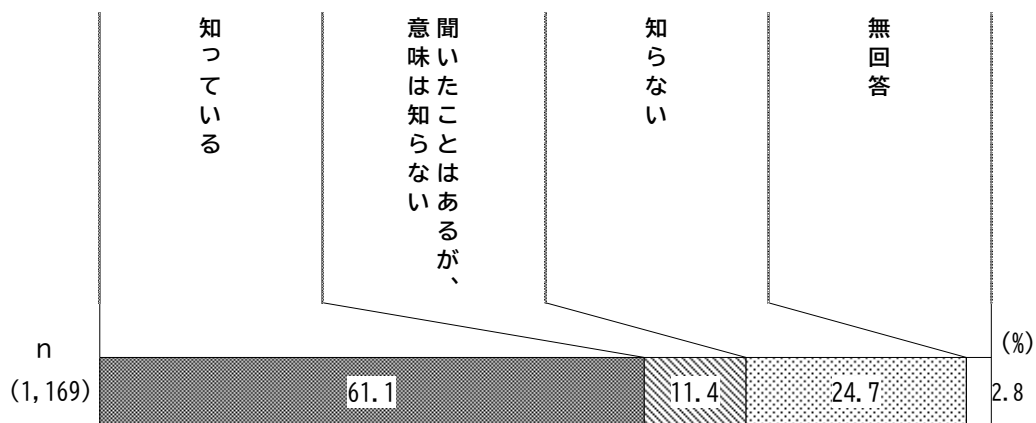


成年後見制度の利用意向について聞いたところ、「必要になれば利用したい」が42.3%と最も高かった。以下、「利用したいとは思わない」（18.1%）、「将来に備えて後見人を選んでおきたい」（2.9%）となっている。一方、「わからない」は34.6%であった。

(11) ヤングケアラーの認知度

問51 あなたは、「ヤングケアラー」という言葉の意味を知っていますか。(1つだけに○)

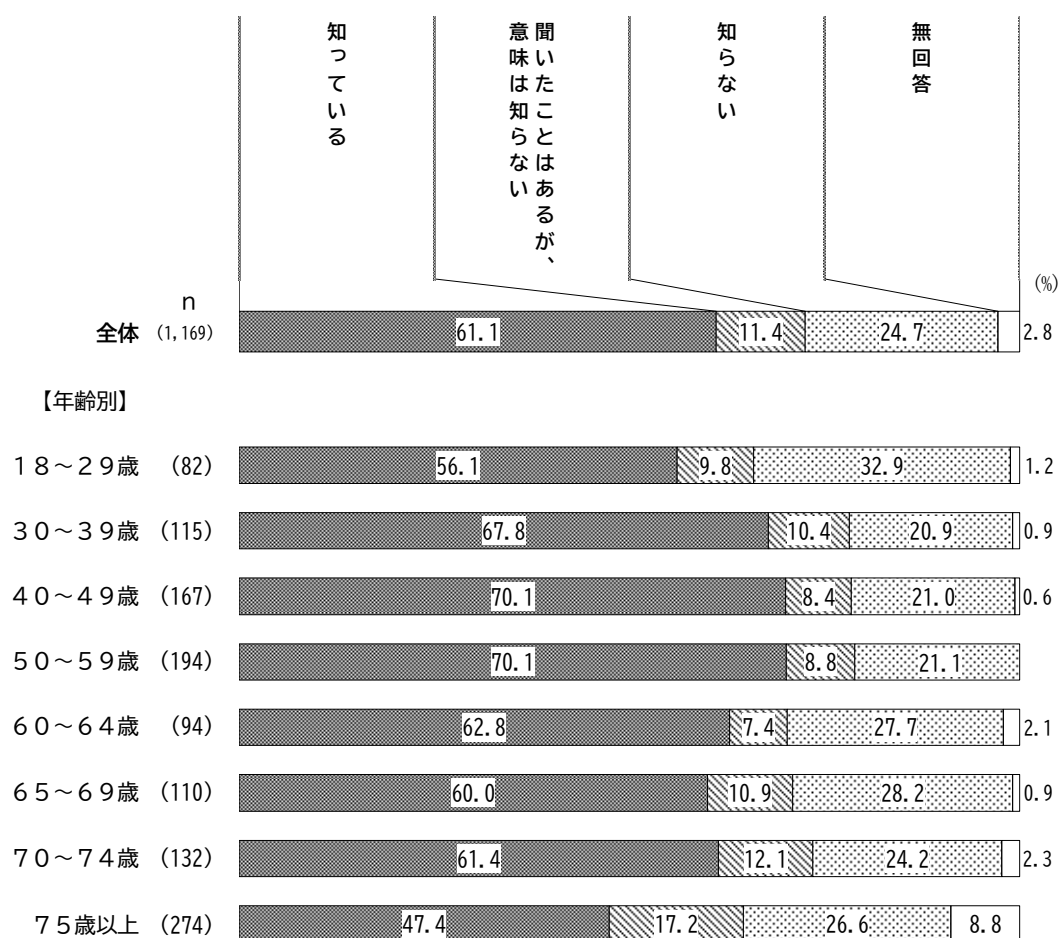
図表 「ヤングケアラー」の認知度 全体

**ヤングケアラーとは**

本来大人がすると想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている18歳未満の子どものことをいう。

「ヤングケアラー」の認知度について聞いたところ、「知っている」は61.1%、「聞いたことはあるが、意味は知らない」は11.4%、「知らない」は24.7%となっている。

図表 「ヤングケアラー」の認知度 年齢別

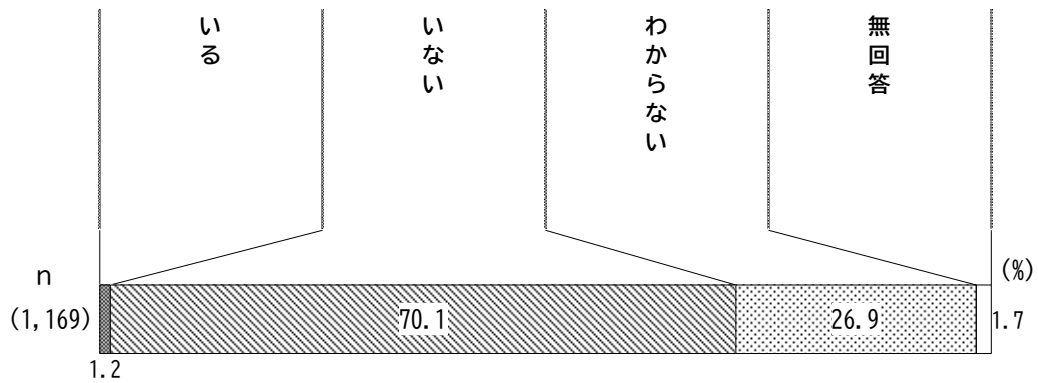


年齢別でみると、「知っている」は、『40～49歳』、『50～59歳』がともに70.1%と最も高くなっている。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は、『75歳以上』（17.2%）が他の年代より高くなっている。一方、「知らない」は、『18～29歳』（32.9%）が他の年代より高くなっている。

(12) あなたの世帯、周囲で「ヤングケアラー」と思われる人がいるか

問52 あなたの世帯、またはあなたの周囲で「ヤングケアラー」と思われる人がいますか。
(1つだけに○)

図表 あなたの世帯、周囲で「ヤングケアラー」と思われる人がいるか 全体



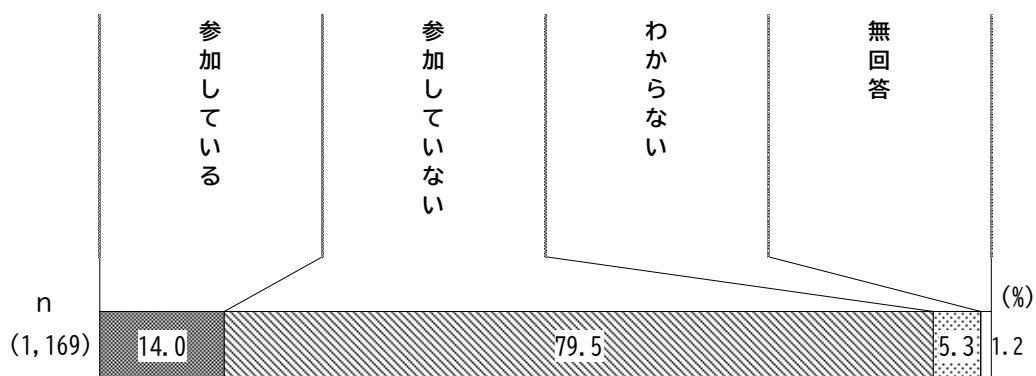
あなたの世帯、周囲で「ヤングケアラー」と思われる人がいるかについて聞いたところ、「いる」は1.2%、「いない」は70.1%となっている。一方、「わからない」は26.9%であった。

6. 災害時の対策について

(1) 地域の防災訓練の参加状況

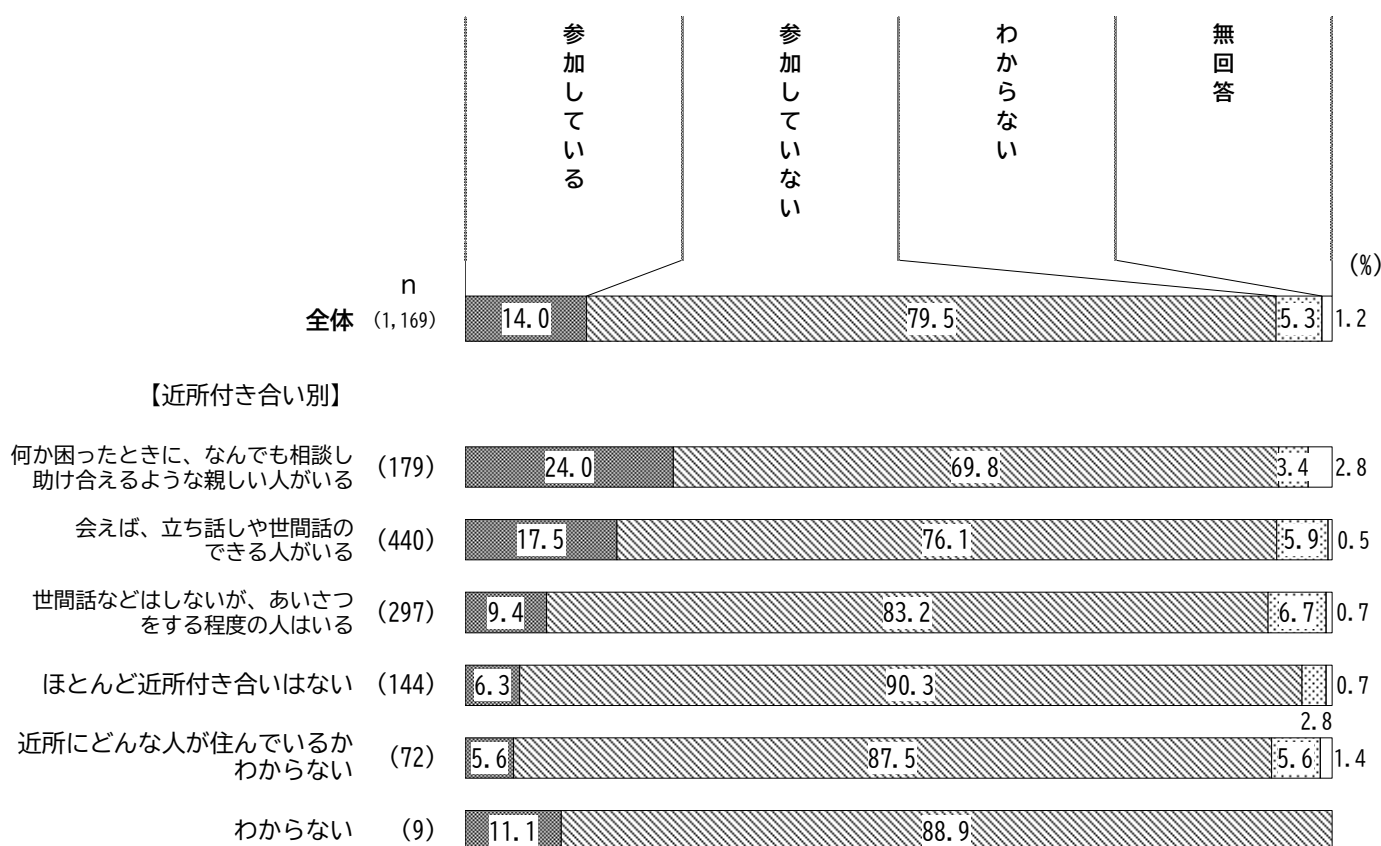
問53 あなたは、日頃から地域の防災訓練に参加していますか。(1つだけに○)

図表 地域の防災訓練の参加状況 全体



地域の防災訓練の参加状況について聞いたところ、「参加している」は14.0%、「参加していない」は79.5%となっている。一方、「わからない」は5.3%であった。

図表 地域の防災訓練の参加状況 近所付き合い別

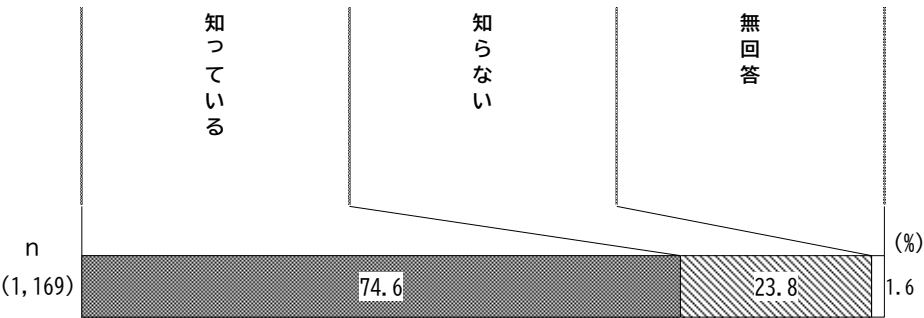


近所付き合い別でみると、全ての年代で「参加していない」の方が、「参加している」より高くなっており、『ほとんど近所付き合いはない』(90.3%)が最も高くなっている。「参加している」は、近所付き合いが多くなるにつれて高くなっており、『何か困ったときに、なんでも相談し助け合えるような親しい人がある』(24.0%)が最も高くなっている。

(2) 災害が起こったときの避難場所の把握状況

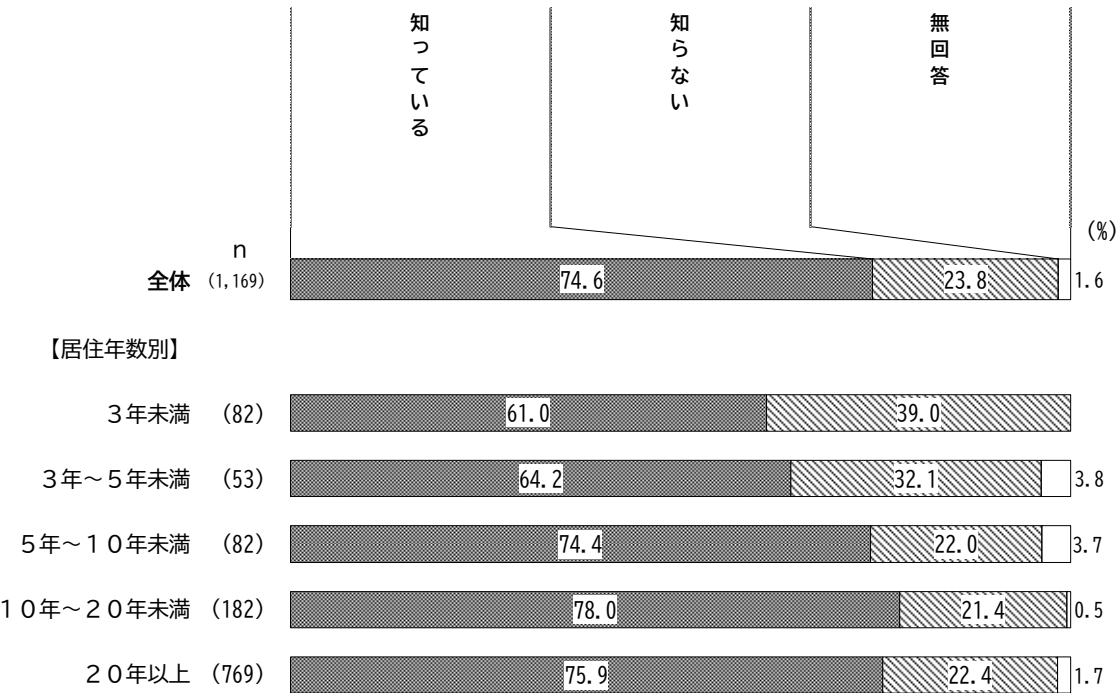
問54 あなたは、災害が起こったとき、自分自身やご家族がどこに避難（避難場所など）すればいいか知っていますか。（1つだけに○）

図表 災害が起こったときの避難場所の把握状況 全体



災害が起こったときの避難場所の把握状況について聞いたところ、「知っている」は74.6%、「知らない」は23.8%となっている。

図表 災害が起こったときの避難場所の把握状況 居住年数別

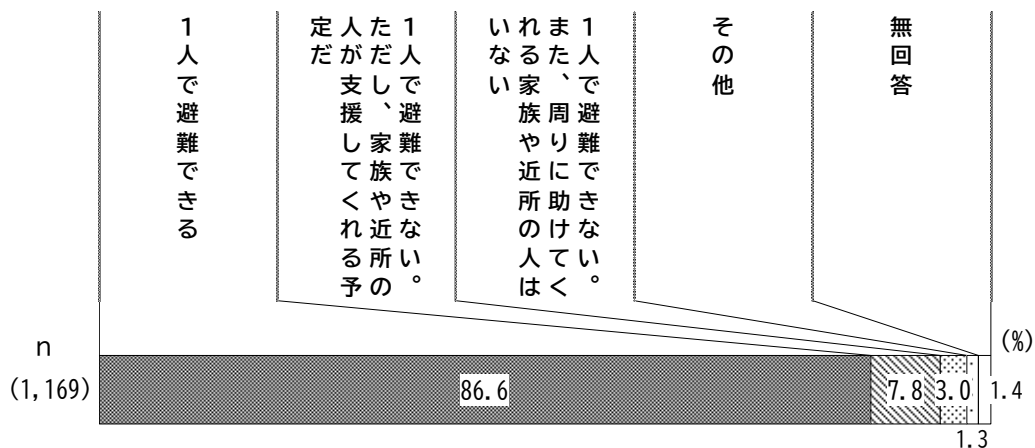


居住年数別でみると、居住年数が長くなるにつれておおむね高くなっており、『10～20年未満』（78.0%）が最も高くなっている。

(3) 1人での避難能力

問55 あなたは、災害が発生したときに1人で避難できますか。(1つだけに○)

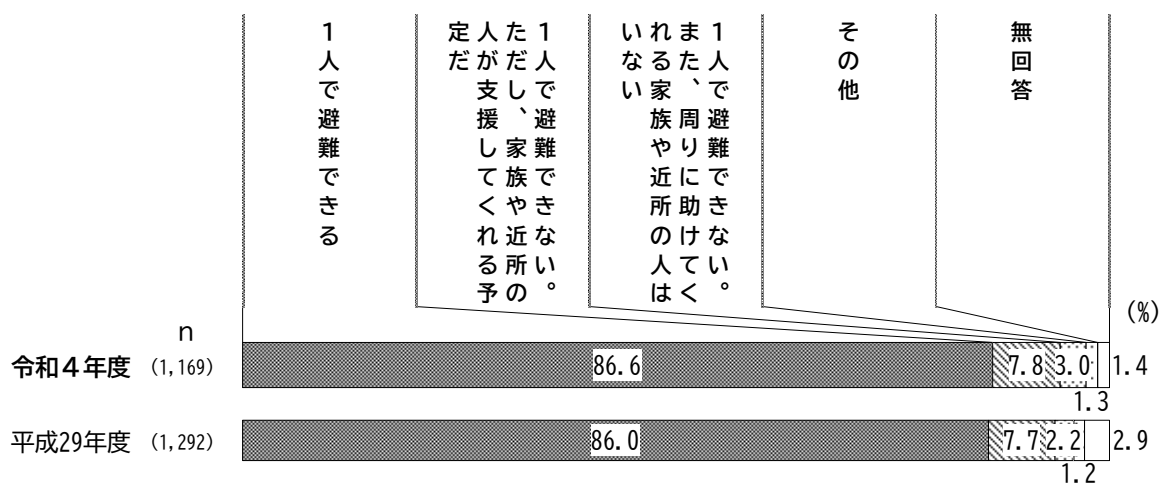
図表 1人での避難能力 全体



1人での避難能力について聞いたところ、「1人で避難できる」は86.6%、「1人で避難できない。ただし、家族や近所の人支援してくれる予定だ」は7.8%、「1人で避難できない。また、周りに助けてくれる家族や近所の人はいない」は3.0%となっている。

平成29年度と比較すると、1人での避難能力については、大きな差は見られなかった。

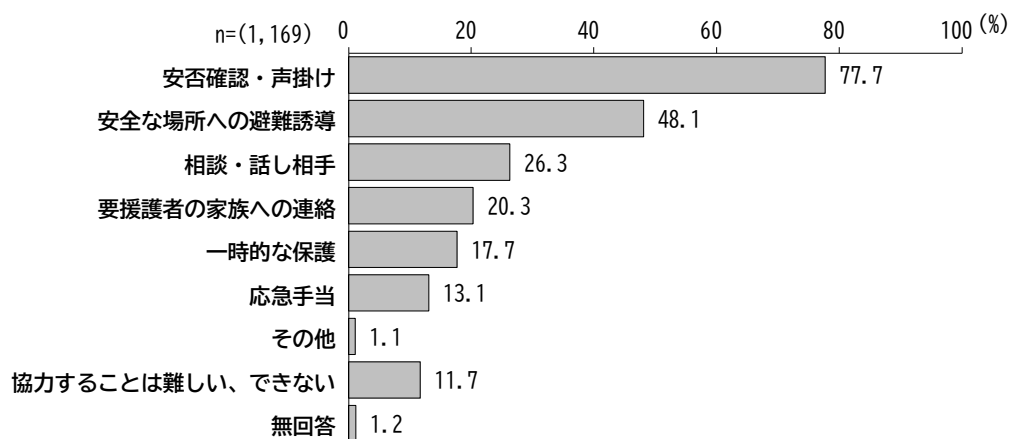
図表 1人での避難能力 全体※前回比較



(4) 災害時に支援を必要とするご近所の方のためにできること

問56 災害が発生したときに、地域の手助け等の支援を必要とするご近所の方のために、あなたが協力してあげられることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

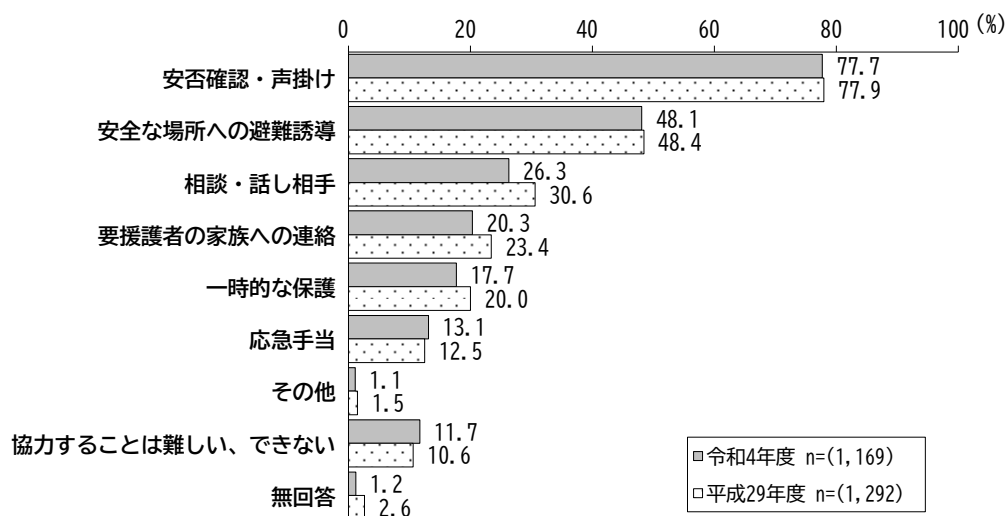
図表 災害時に支援を必要とするご近所の方のためにできること 全体(複数回答)



災害時に支援を必要とするご近所の方のためにできることについて聞いたところ、「安否確認・声掛け」が77.7%と最も高かった。以下、「安全な場所への避難誘導」(48.1%)、「相談・話し相手」(26.3%)、「要援護者の家族への連絡」(20.3%)となっている。一方、「協力することは難しい、できない」は11.7%であった。

平成29年度と比較すると、災害時に支援を必要とするご近所の方のためにできることについては、大きな差は見られなかった。

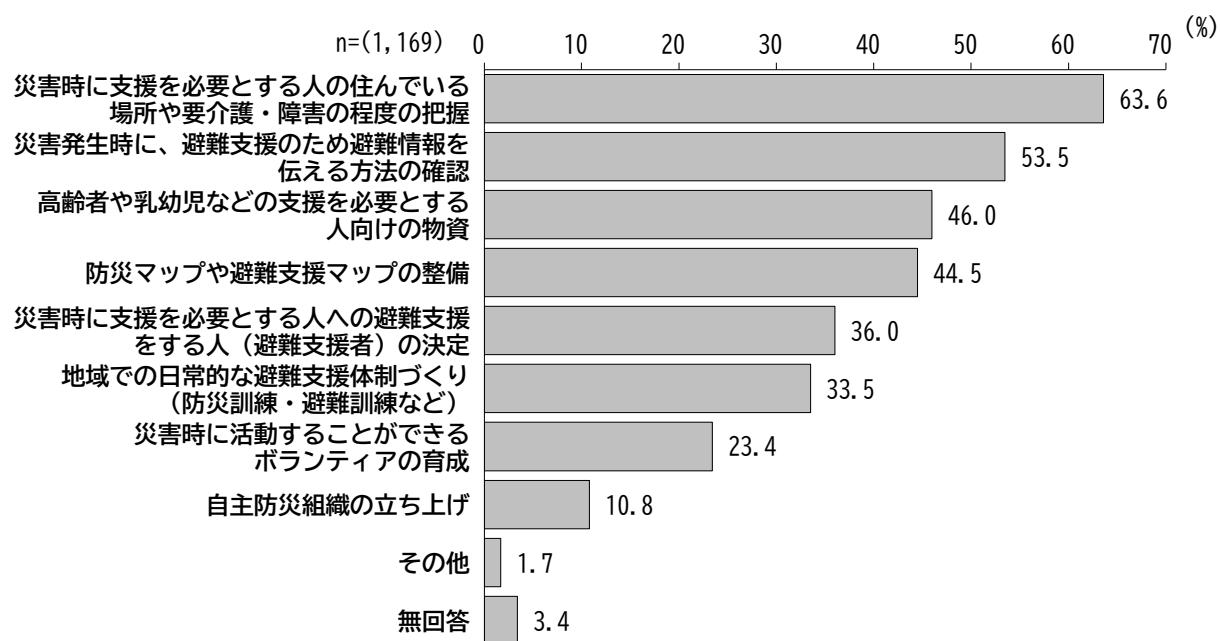
図表 災害時に、支援を必要とするご近所の方のためにできること 全体(複数回答) ※前回比較



(5) 災害時に支援を必要とする人への地域で備えるべき支援策

問57 災害時に支援を必要とする人への支援対策として、地域でどのような備えをしておくことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 災害時に支援を必要とする人への、地域で備えるべき支援策 全体（複数回答）

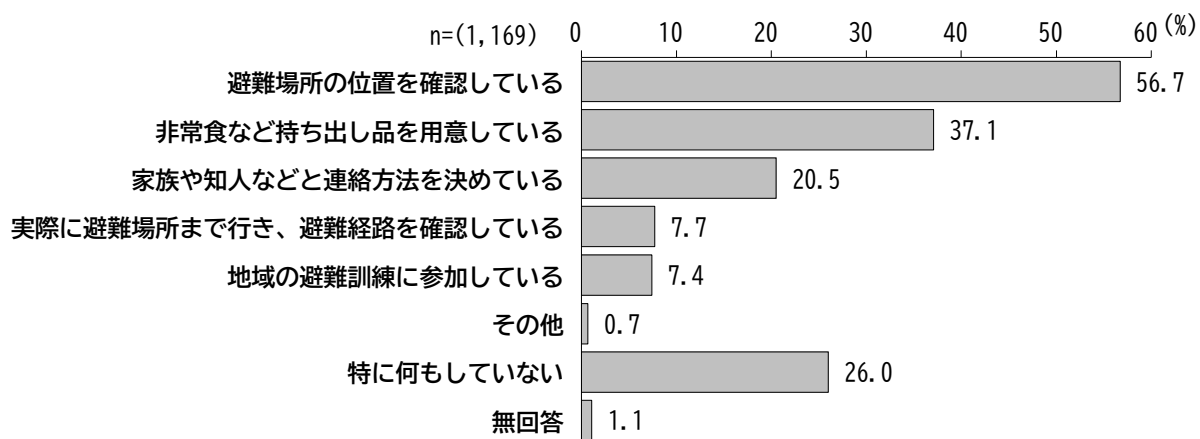


災害時に支援を必要とする人への地域で備えるべき支援策について聞いたところ、「災害時に支援を必要とする人の住んでいる場所や要介護・障害の程度の把握」が63.6%と最も高かった。以下、「災害発生時に、避難支援のため避難情報を伝える方法の確認」(53.5%)、「高齢者や乳幼児などの支援を必要とする人向けの物資」(46.0%)、「防災マップや避難支援マップの整備」(44.5%)となっている。

(6) 自宅以外の場所へ避難しなければならない事態に備えた対策

問58 あなたやご家族は、自宅以外の場所へ避難しなければならない事態に備えてどのような対策をとっていますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 自宅以外の場所へ避難しなければならない事態に備えた対策 全体（複数回答）



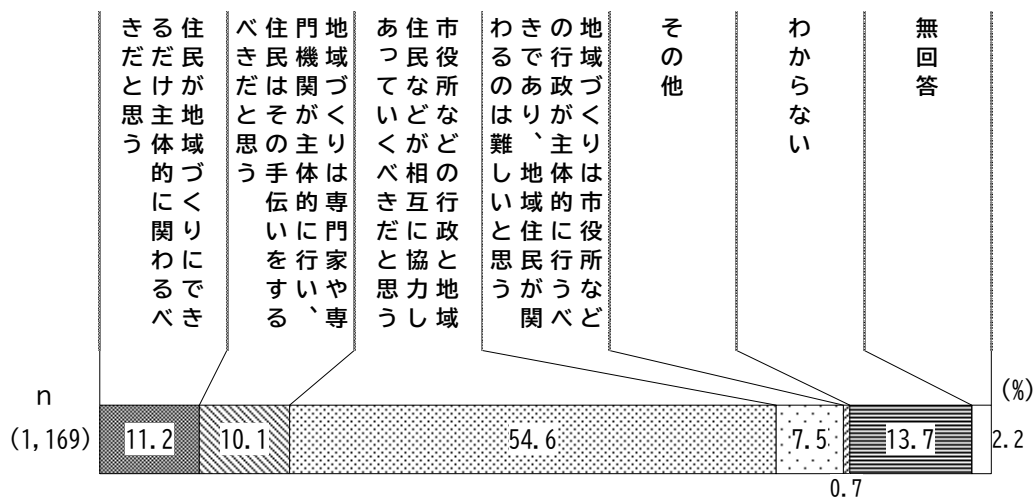
自宅以外の場所へ避難しなければならない事態に備えた対策について聞いたところ、「避難場所の位置を確認している」が56.7%と最も高かった。以下、「非常食など持ち出し品を用意している」(37.1%)、「家族や知人などと連絡方法を決めている」(20.5%)となっている。一方、「特に何もしていない」は26.0%であった。

7. 地域福祉について

(1) 今後の地域づくりと住民との関わりについての考え

問59 これからの地域づくりと住民との関わりについて、あなたの考えに最も近いものはどれですか。(1つだけに○)

図表 今後の地域づくりと住民との関わりについての考え 全体

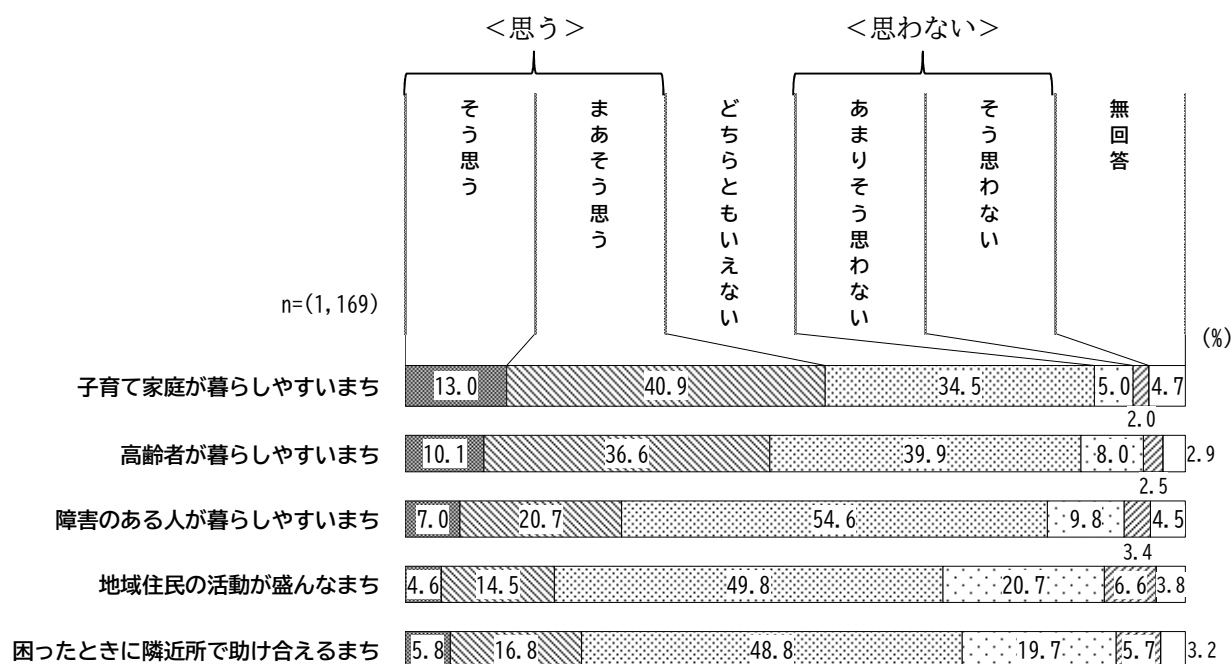


今後の地域づくりと住民との関わりについての考えについて聞いたところ、「市役所などの行政と地域住民などが相互に協力しあっていくべきだと思う」が54.6%と最も高かった。以下、「住民が地域づくりにできるだけ主体的に関わるべきだと思う」(11.2%)、「地域づくりは専門家や専門機関が主体的に行い、住民はその手伝いをするべきだと思う」(10.1%)となっている。一方、「わからない」は13.7%であった。

(2) 地域福祉に対する印象

問60 昭島市の地域福祉に対してどのような印象をお持ちですか。それぞれお答えください。
(それぞれのあてはまる選択肢の1つに○)

図表 地域福祉に対する印象 全体

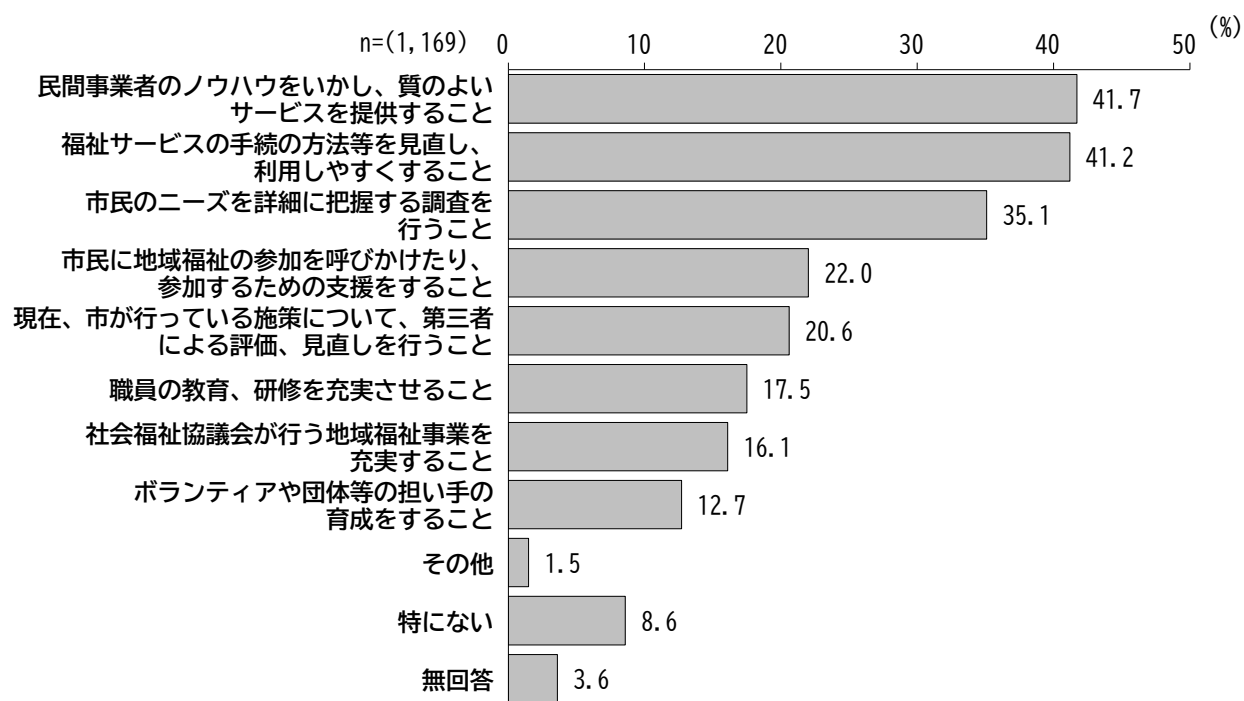


地域福祉に対する印象について聞いたところ、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた＜思う＞と回答した割合が高い項目は《子育て家庭が暮らしやすいまち》が53.9%、《高齢者が暮らしやすいまち》は46.7%となっている。また「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた＜思わない＞と回答した割合が高い項目は《地域住民の活動が盛んなまち》(27.3%)、《困ったときに隣近所で助け合えるまち》(25.4%)となっている。一方、「どちらともいえない」と回答した割合が高い項目は《障害のある人が暮らしやすいまち》(54.6%)であった。

(3) 地域福祉に関する施策を効果的に進めていくために市が取り組むべきこと

問61 あなたは、地域福祉に関する施策を効果的に進めていくために、昭島市は今後、どのように取り組むべきだとお考えですか。(あてはまるもの3つまでに○)

図表 地域福祉に関する施策を効果的に進めていくために市が取り組むべきこと 全体（複数回答）



地域福祉に関する施策を効果的に進めていくために市が取り組むべきことについて聞いたところ、「民間事業者のノウハウをいかし、質のよいサービスを提供すること」は41.7%、以下、「福祉サービスの手続の方法等を見直し、利用しやすくすること」(41.2%)、「市民のニーズを詳細に把握する調査を行うこと」(35.1%)となっている。一方、「特にない」は8.6%であった。

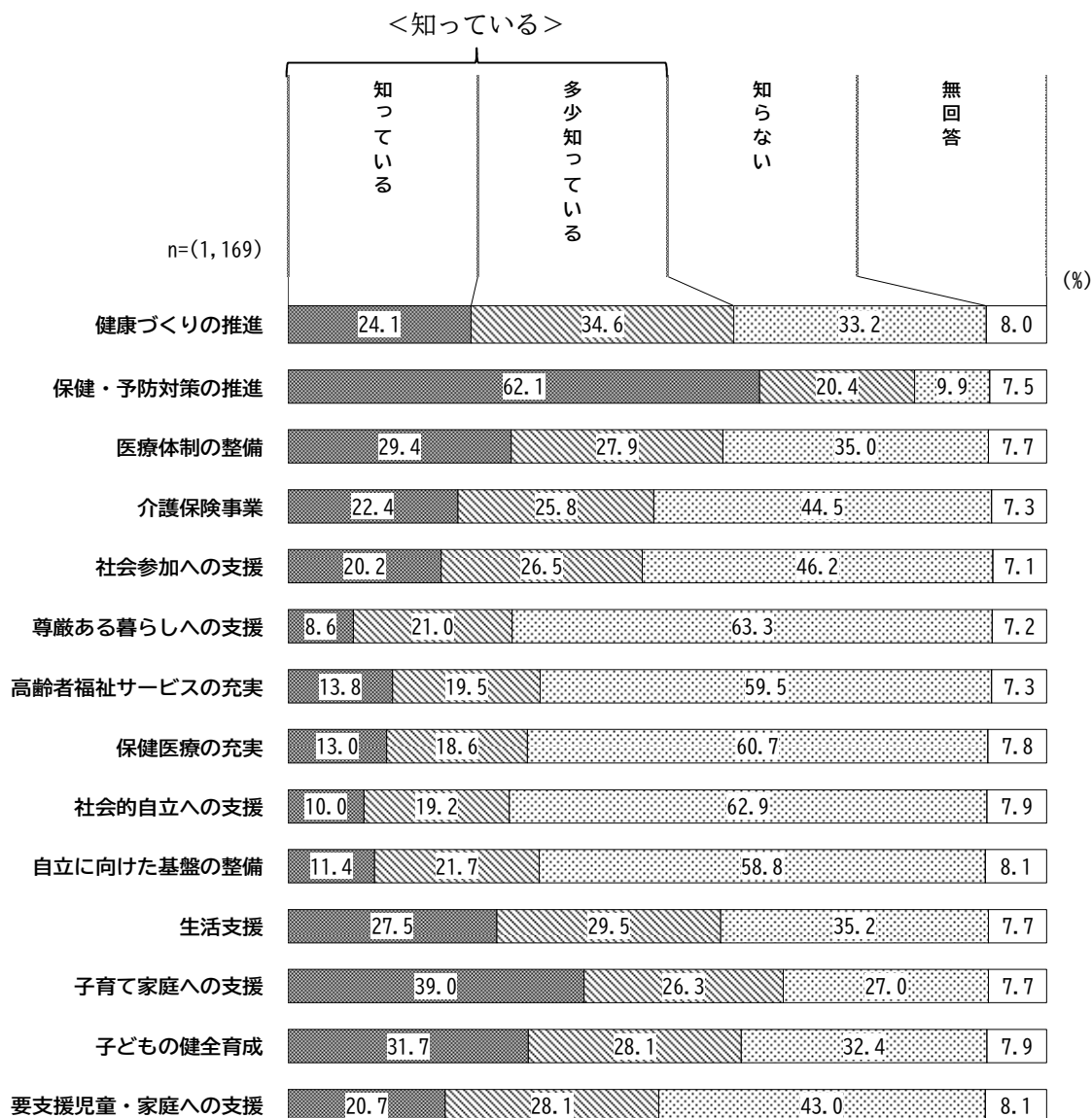
8. 昭島市の福祉に関する取組について

(1) 市の福祉に関する施策の認知度及び関心度

問63 市が取り組んでいる下記の1～14の施策の「A：認知度」「B：関心度」についてお答えください。（それぞれあてはまる選択肢の1つに○）

A：認知度

図表 市の福祉に関する施策「A：認知度」 全体



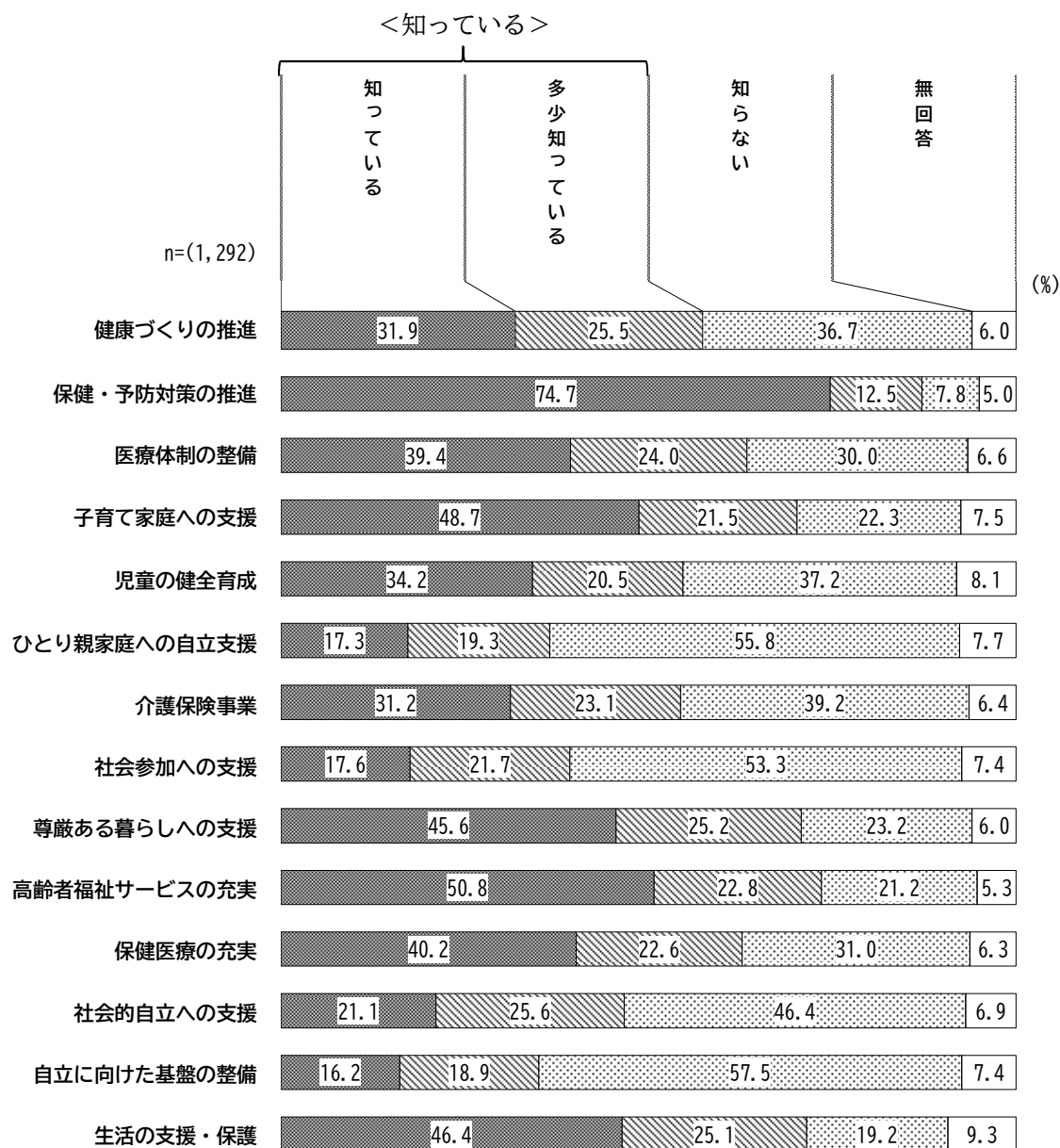
※「生活支援」は平成29年度では「生活の支援・保護」、「子どもの健全育成」は平成29年度では「児童の健全育成」。

市の福祉に関する施策の認知度について聞いたところ、「知っている」と「多少知っている」を合わせた＜知っている＞と回答した割合が高い項目は、《保健・予防対策の推進》が82.5%と最も高かった。以下、《子育て家庭への支援》（65.3%）となっている。一方、「知らない」と回答した割合が高い項目は《尊厳ある暮らしへの支援》（63.3%）であった。

平成29年度と比較すると、認知度が増加したものは、《社会参加への支援》、《子どもの健全育成》となっている。

【参考】平成29年度

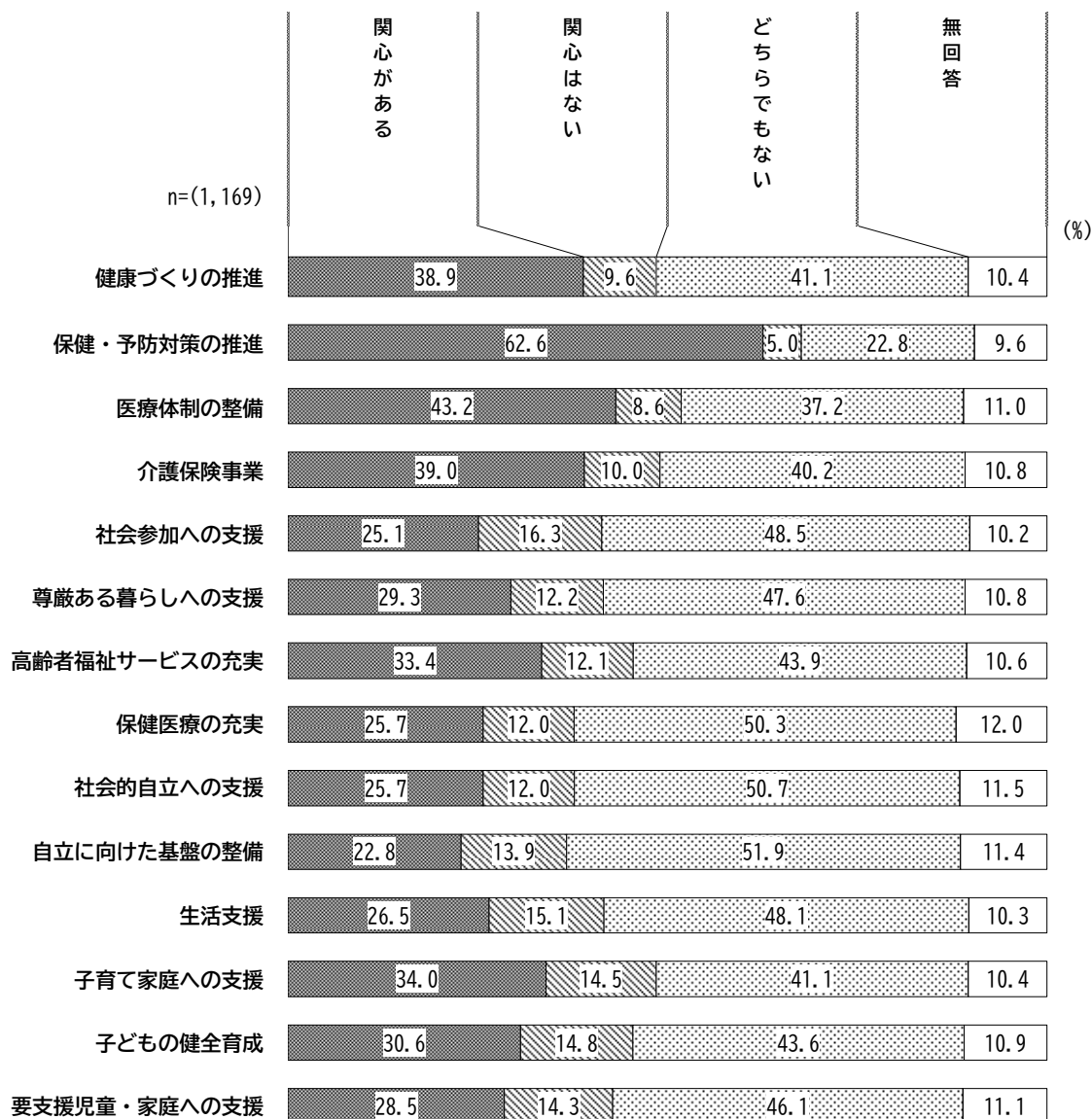
図表 市の福祉に関する施策「A：認知度」 全体（【参考】平成29年度）



※「ひとり親家庭への自立支援」は平成29年度のみ。

B：関心度

図表 市の福祉に関する施策「B：関心度」 全体



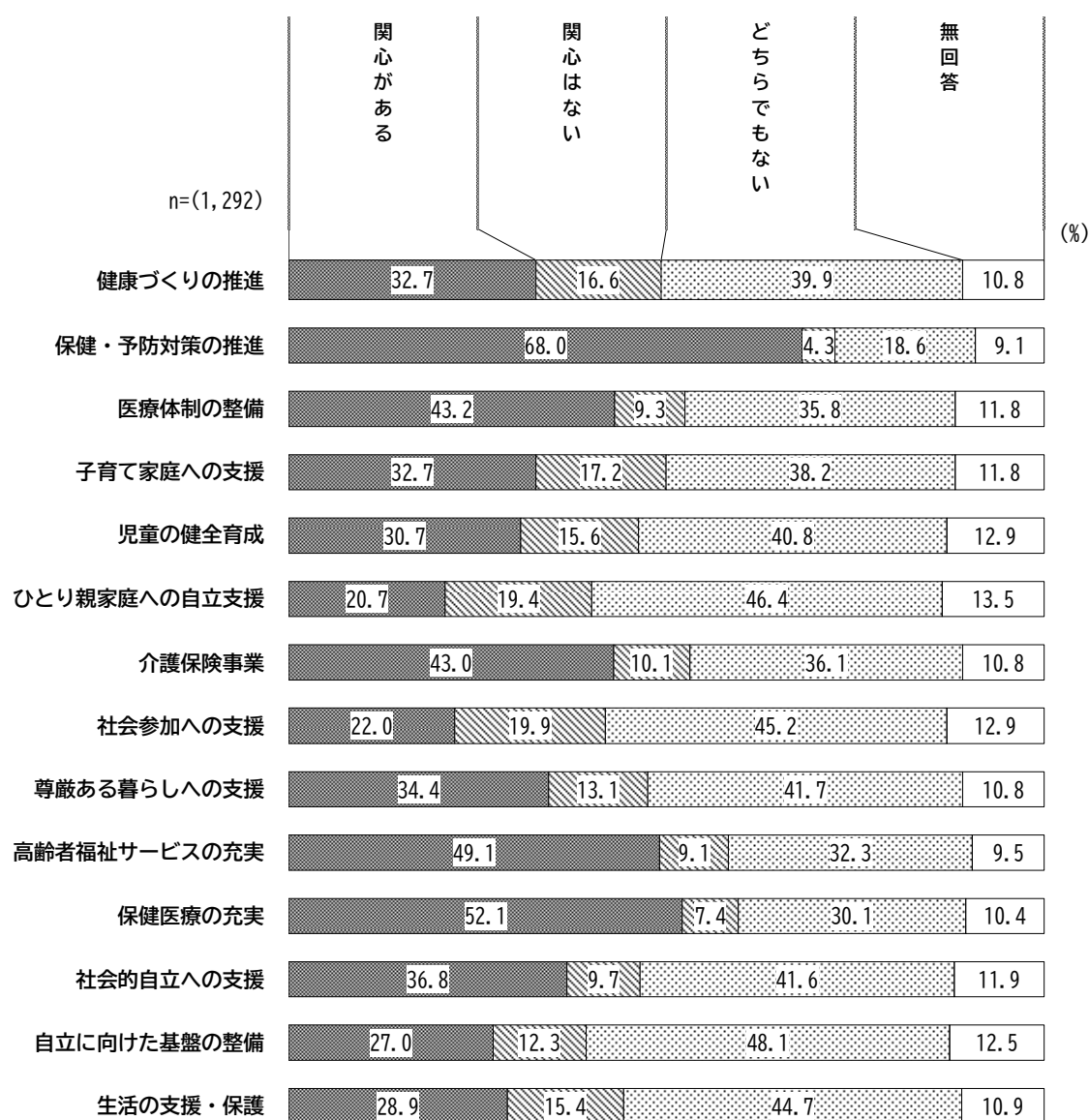
※「生活支援」は平成29年度では「生活の支援・保護」、「子どもの健全育成」は平成29年度では「児童の健全育成」。

市の福祉に関する施策の関心度について聞いたところ、「関心がある」と回答した割合が高い項目は、《保健・予防対策の推進》が62.6%と最も高かった。以下、《医療体制の整備》(43.2%)、《介護保険事業》(39.0%)、《健康づくりの推進》(38.9%)となっている。一方、「関心はない」と回答した割合が高い項目は《社会参加への支援》(16.3%)、《生活支援》(15.1%)となっている。「どちらでもない」と回答した割合が高い項目は《自立に向けた基盤の整備》(51.9%)であった。

平成29年度と比較すると、関心度が増加したものは、《健康づくりの推進》、《社会参加への支援》となっている。

【参考】平成29年度

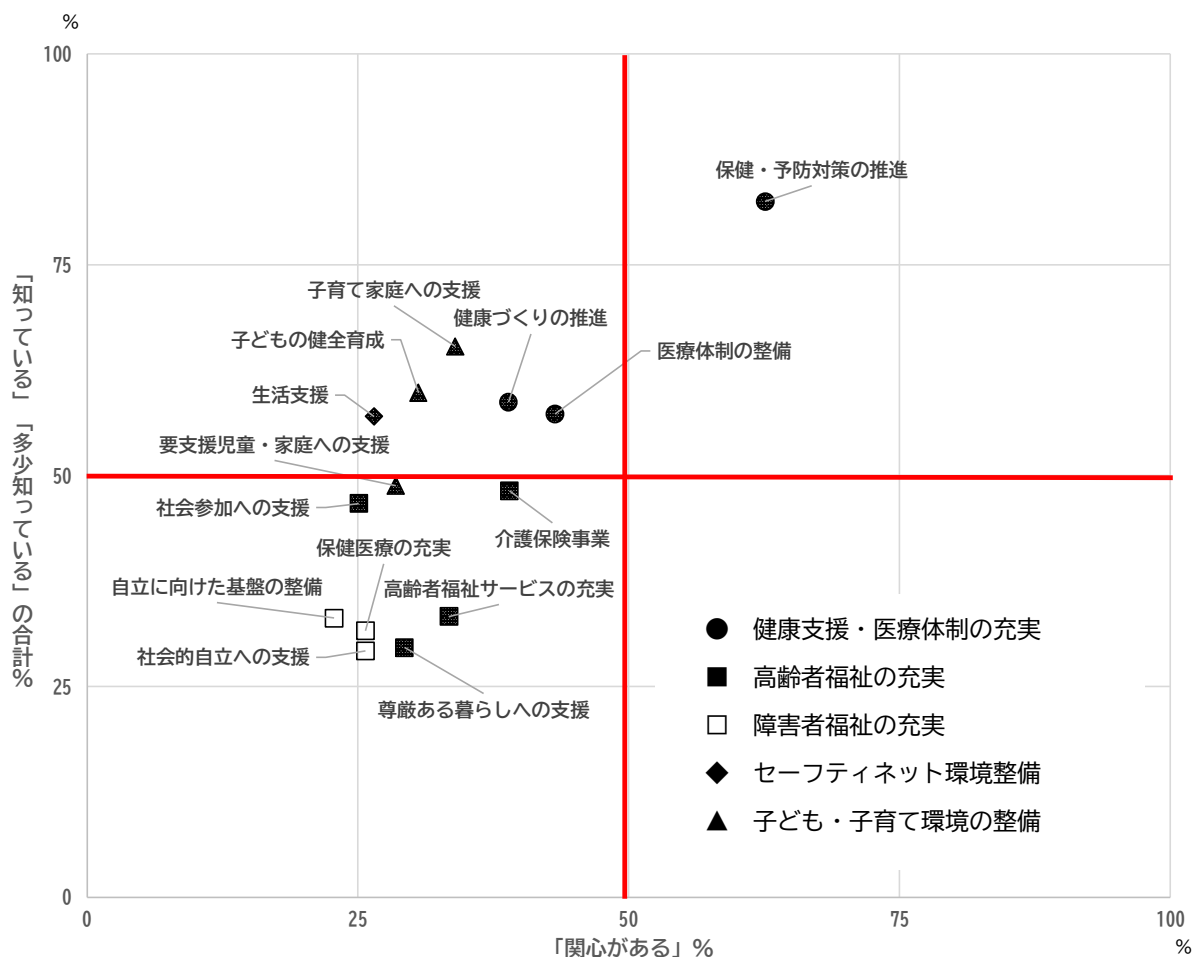
図表 市の福祉に関する施策「B：関心度」 全体（【参考】平成29年度）



※「ひとり親家庭への自立支援」は平成29年度のみ。

昭島市の福祉に関する施策の認知度と関心度

図表 昭島市の福祉に関する取組の認知度と関心度 散布図



昭島市の福祉に関する施策の認知率では、《保健・予防対策の推進》が82.5%と最も高かった。以下、《子育て家庭への支援》(65.3%)、《子どもの健全育成》(59.8%)となっている。

認知度及び関心度がそれぞれ50%を超える施策は、《保健・予防対策の推進》のみとなっている。

認知度は50%を超えるものの関心度が50%未満の施策は、《健康づくりの推進》、《医療体制の整備》、《生活支援》、《子育て家庭への支援》、《子どもの健全育成》となっている。

認知度及び関心度の両方が50%未満である施策は、《介護保険事業》、《社会参加への支援》、《尊厳ある暮らしへの支援》、《高齢者福祉サービスの充実》、《保健医療の充実》、《社会的自立への支援》、《自立に向けた基盤の整備》、《要支援児童・家庭への支援》となっている。

第3章 調査票

「昭島市地域福祉計画」策定のための 市民アンケート調査票

皆様には、日頃より市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

昭島市では、「支え合いの輪が広がり 笑顔で暮らし続けられる あきしま」を基本理念とする「昭島市地域福祉計画」を策定し、地域福祉施策の推進に努めております。

現在の「昭島市地域福祉計画」は、令和5年度で計画期間が終了するため、第2期地域福祉計画を策定するに当たり、地域を取り巻く環境、地域福祉に関する市民の皆様の考え方や意見などを広くお聞きするため、市民アンケート調査を実施いたします。

この調査票は、昭島市にお住まいの18歳以上の方から、無作為に3,000人を選ばせていただきお送りしています。なお、皆様からの回答内容は統計的に処理し、計画策定の基礎資料としてのみ使用いたしますので、上記の目的以外に使用することはありません。

ご多用のところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年10月

昭島市長 白井伸介

■ご記入にあたってのお願い■

- 1 あて名のご本人がご回答ください。ご本人の記入が難しい場合は、ご家族の方などがお手伝いいただくか、ご本人の意向を聞いた上で、代わりにお書きください。
- 2 質問によって、○印は（1つだけ）（3つまで）といった、ことわり書きがありますので、説明にそってご回答ください。
- 3 この調査は、パソコンやスマートフォンからも回答することができます。パソコンやスマートフォンから回答する場合は、裏面をご覧ください。

**ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、
令和4年11月11日（金）までに郵便ポストに投函してください。**

この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

昭島市役所 保健福祉部福祉総務課福祉総務係

〒196-8511 昭島市田中町 1-17-1

電 話：042-544-5111（内線2853～2856）

F A X：042-544-6440

◆本調査は、パソコンやスマートフォンからも回答できます◆

パソコンやスマートフォンから回答する場合

- ・下記の「QRコード」、または「URL」からアクセスいただくと、WEB版から回答することができます。表示に従って回答を入力してください。
- ・回答には20分～30分程度かかりますので、お時間に余裕がある際にご回答ください。
- ・WEB版からご回答された方は、本調査票を郵送していただく必要はありません。

QRコード



WEB版のURL

<https://logoform.jp/form/Zue8/145754>

地域福祉が目指すもの

地域福祉とは？

地域福祉とは、地域に住むすべての人が、住みなれた地域や家庭の中で、自分らしく安心した生活を送ることができるように、同じ地域に暮らす仲間として、地域全体で支え合っていく関係を作ることです。

昭島市では

支え合いの輪が広がり 笑顔で暮らし続けられる あきしま

を目指して、地域福祉を推進しています！

そのためには

地域のこと、日ごろ感じる生活の課題などを一番よく知っている
地域の皆様のご協力と参加が必要不可欠となります。

あなたの回答が地域福祉をともに進める
1歩となります。市民アンケート調査へ
のご協力をよろしくお願いいたします。



1. あなたご自身や世帯のことについてお聞きます

問1 あなたの性別について（1つだけに○）

1. 男性 2. 女性 3. 左記以外

問2 あなたの年齢（令和4年10月1日現在）について（1つだけに○）

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 18～29歳 | 2. 30～39歳 |
| 3. 40～49歳 | 4. 50～59歳 |
| 5. 60～64歳 | 6. 65～69歳 |
| 7. 70～74歳 | 8. 75歳以上 |

問3 あなたの職業について（1つだけに○）

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 会社員・公務員・団体職員（正規雇用） | 2. 派遣社員・契約社員・嘱託社員 |
| 3. パート・アルバイト・内職 | 4. 自営業及びその家族従業員 |
| 5. 専業主婦・主夫 | 6. 学生 |
| 7. 年金生活者 | 8. 無職 |
| 9. その他（具体的に： | ） |

問4 あなたの世帯構成について（1つだけに○）

1. 単身世帯（1人で住んでいる世帯）
 2. 一世代世帯（夫婦（事実婚を含む）、または兄弟姉妹で住んでいる世帯）
 3. 二世代世帯（夫婦（事実婚を含む）と子どもで住んでいる世帯）
 4. 二世代世帯（ひとり親と子どもで住んでいる世帯）
 5. 三世代世帯（親と子どもと孫で住んでいる世帯）
 6. その他の世帯（具体的に：

）

問5 あなたは、健康だと感じていますか。（1つだけに○）

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 健康だと思う | 2. どちらかといえば健康だと思う |
| 3. あまり健康ではないと思う | 4. 健康ではないと思う |

問6 あなたは、昭島市に何年住んでいますか。（1つだけに○）

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 3年未満 | 2. 3年～5年未満 |
| 3. 5年～10年未満 | 4. 10年～20年未満 |
| 5. 20年以上 | |

問7 あなたは、現在、就学前の子どもを育てていたり、ご家族（同居・別居を問わない）の介護・介助をしていますか。（あてはまるのもすべてに○）

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 就学前の子育てをしている | 2. 家族の介護・介助をしている |
| 3. していない | |

問8 あなたやあなたのご家族の中に、ひきこもりの状態（仕事や学校に行けず、家族以外の人も交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態）の方はいますか。（妊娠中の方や病気の方は除きます。）（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. いる（20歳未満） | 2. いる（20歳以上40歳未満） |
| 3. いる（40歳以上60歳未満） | 4. いる（60歳以上） |
| 5. いない ⇒問11にお進みください | |

→ 問9 問8で「いる（1、2、3、4）」と答えた方にお聞きします。
その方が、ひきこもりの状態になられてから、どのくらい経ちますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 6か月以上1年未満 | 2. 1年以上3年未満 |
| 3. 3年以上5年未満 | 4. 5年以上10年未満 |
| 5. 10年以上20年未満 | 6. 20年以上 |

→ 問10 問8で「いる（1、2、3、4）」と答えた方にお聞きします。
あなたは、ひきこもりの状態にある方やそのご家族に対して、どのような支援が必要だと考えますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1. 当事者・家族の相談先 | 2. 相談窓口・家族会等の情報提供 |
| 3. 当事者の居場所づくり | 4. 社会参加への支援や就労支援 |
| 5. その他（具体的に： | ） |
| 6. わからない | |

2. 日常生活や地域との関わり合いについてお聞きします

問11 あなたが市内を移動する時に、よく利用する交通手段は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 徒歩 | 2. 自転車 |
| 3. バイク | 4. 自家用車（自分で運転する） |
| 5. 自家用車（家族の車に乗せてもらう） | 6. 自家用車（友人の車に乗せてもらう） |
| 7. タクシー | 8. 電車 |
| 9. バス（民間の路線バス） | 10. バス（Aバス） |
| 11. その他（具体的に： | ） |

問12 あなたは、外出したいと思っても、困り事があるために外出を諦めたことがありますか。（1つだけに○）

- | | |
|------------------------|--------------|
| 1. 外出を諦めたことがない（困り事はない） | ⇒問14にお進みください |
| 2. 外出を諦めたことがある | ⇒問13にお進みください |

問13 問12で「2 外出を諦めたことがある」と答えた方にお聞きします。

あなたが、外出を諦めたのはどのような理由ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 目的地までの移動手段がないから
2. 階段などの段差が多く、移動が難しいから
3. ベンチや公園など、一休みできる場所が少ないから
4. 外出のための交通費や入場料等の費用がかかり負担に感じるから
5. 自分にとって心理的に気軽に出かけることができる場所がないから
6. 出かける機会やきっかけが無いから
7. 1人では外出することができず、誰かの手助けが必要になるから
8. その他(具体的に:)

問14 あなたは、ご近所(歩いて行ける程度の範囲)にどの程度の付き合いの人がいますか。
(1つだけに○)

1. 何か困ったときに、なんでも相談し助け合えるような親しい人がいる
2. 会えば、立ち話しや世間話のできる人がいる
3. 世間話などはしないが、あいさつをする程度の人はいる
4. ほとんど近所付き合いはない
5. 近所にどんな人が住んでいるかわからない
6. わからない

問15 あなたは、ご近所との付き合いをどのようにしたいと思いますか。(1つだけに○)

1. もっと広げたい
2. 今のままでよい
3. もっと狭くしたい

問16 あなたは、ご近所との関わりを深めたいと思いますか。(1つだけに○)

1. もっと親しくなりたい
2. 今のままでよい
3. もっと浅くしたい

問17 あなたは、日頃、生活をしている中で、地域の人との関わりにより支えられていると感じることはありますか。(1つだけに○)

1. 大いにある
2. 少しある
3. あまりない
4. 全くない
5. わからない

問18 あなたは、地域の中で安心して生活できていると感じますか。(1つだけに○)

1. 感じている
2. どちらかといえば感じている
3. どちらかといえば感じていない
4. 感じていない
5. わからない

問19 あなたが住んでいる地域は、支援が必要な方(高齢者や障害のある人、子育てをしている人)にとって、安心して生活できる環境だと思いますか。(1つだけに○)

1. そう思う
2. まあ思う
3. あまり思わない
4. 全く思わない
5. わからない

問20 あなたは、ご近所で高齢者や子ども、障害のある人、子育て等で手助けが必要な人がいたらどうしますか。（1つだけに○）

1. 自分でできることを探して手助けをする
2. 近所の人と一緒に頑張って手助けをする
3. 市役所などの行政機関等から協力を頼まれば手助けをする
4. 本人から手助けを求められれば手助けをする
5. 手助けしたいが、なかなかできない
6. 関わりたくないので、手助けしない
7. 他人が手助けをする必要はない
8. その他（具体的に： _____）
9. わからない

問21 あなたは、ご近所との付き合いや関わりで、これからどんなことが大切になると思いますか。（あてはまるもの3つまでに○）

1. 日常のあいさつ等による、人と人とのふれあい
2. 子育てやしつけ等、子どもの問題を一緒に考える仲間づくり
3. 高齢者の見守りや生きがいづくり
4. 健康づくりや介護予防などの場づくり
5. 日常生活で困ったときの助け合い
6. 自治会や地域団体等の活動など、自分たちの地域を大切にする姿勢
7. 防犯活動や災害時の助け合い
8. 病気やけがなど緊急時の助け合い
9. その他（具体的に： _____）
10. 大切なことは特にない

問22 あなたが住んでいる地域には、どのような問題や課題があると感じていますか。（あてはまるものすべてに○）

1. あいさつをしない人が多い
2. 地域で子どもの見守りがなされていない
3. 隣近所との交流が少ない、または交流がない
4. 自治会や地域団体等の地域活動が積極的ではない
5. 地域の中に気軽に集まれる場所が少ない
6. 路上や公園のごみなど、公共空間の管理が行き届いていない
7. 子どもの遊び場やスポーツをする場所が少ない
8. 障害のある人に対する理解が不足している
9. 災害時や緊急時の対応体制が分からない
10. 車や自転車などの交通マナーに問題がある
11. 空き家が増えた
12. 治安が良くない
13. その他（具体的に： _____）
14. わからない
15. 特にない

問23 あなたは、今後、地域の中で起こる問題や課題に対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますか。(1つだけに○)

1. 自分たちの生活に関わることから、住民同士で協力して解決したい
2. 地域のことに熱心な人たちが考えてくれるので、その人たちに任せておきたい
3. 行政（市役所など）と住民が協力して、解決方法を考えていきたい
4. 行政（市役所など）に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい
5. その他（具体的に： _____）
6. わからない

3. 地域での活動（自治会やボランティア、市民活動等）についてお聞きます

※「ボランティア」とは、対価（報酬）を得ることを目的とせず自発的な活動を行うことであり、福祉、環境保護、教育、災害救助等さまざまな分野での活動が行われています。

※「NPO」とは、さまざまな社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない、民間の非営利組織（団体）の総称です。

問24 あなたは、現在、自治会に加入していますか。または加入したことがありますか。(1つだけに○)

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| 1. 加入している | 2. 以前は加入していたが、現在は加入していない |
| 3. 今まで加入したことはない | 4. 地域に自治会がない |

→問25 問24で「3 今まで加入したことはない」と答えた方にお聞きます。
自治会に加入したことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 時間が足りない・忙しいから | 2. 活動に興味がないから |
| 3. 活動内容がわからないから | 4. 活動する仲間がいないから |
| 5. 自分にメリットがないから | 6. 健康に自信がないから・高齢であるから |
| 7. 参加の仕方がわからないから | 8. 無償の活動だから |
| 9. その他（具体的に： _____） | |

問26 あなたは、ボランティア、NPO活動に関心がありますか。(1つだけに○)

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 非常に関心がある | 2. やや関心がある |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり関心がない |
| 5. 関心がない | 6. わからない |

問27 あなたは、ボランティア、NPO活動に対して、どのようなイメージを持っていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 人や社会のために役立つもの
2. 生きがいや満足感・充実感が得られるもの
3. 自分の経験、知識、技能を活かすことができるもの
4. 自発的・自主的なもの
5. 地域や会社などで義務的に参加することが求められるもの
6. 気軽にできるもの
7. いろいろな人と交流できるもの
8. 参加する人の楽しみなど、個人のために行うもの
9. 自分にあまり関係がないもの
10. その他(具体的に:)
11. わからない

問28 あなたは、ボランティア、NPO活動をしていますか。または活動したことがありますか。(1つだけに○)

1. 現在、活動している
 2. 以前は活動していたが、現在は活動していない
 3. 今まで活動したことがない
- } 問30にお進みください

→ 問29 問28で「1 現在、活動している」と答えた方にお聞きします。
どのようなボランティア、NPO活動ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 高齢者に関する活動
2. 障害のある人に関する活動
3. 子育てに関する活動
4. 青少年育成、教育や学習支援に関する活動
5. スポーツ指導に関する活動
6. 自然や環境保護、リサイクルに関する活動
7. 国際交流・国際協力に関する活動
8. 地域の美化、防犯や交通安全に関する活動
9. その他(具体的に:)

4. 福祉に関してご自身やご近所の方が困ったときの対応についてお聞きします

◆あなた自身が困ったときの対応についてお聞きします◆

問30 あなた自身やご家族は、現在、福祉的な支援(福祉サービス)が必要となる困り事に直面していますか。(1つだけに○)

1. 直面していない(困っていない)
 2. 直面している(困っている)
- ⇒ 問32にお進みください

→ 問31 問30で「2 直面している(困っている)」と回答された方にお聞きします。
現在、あなたが直面している福祉的な支援(福祉サービス)が必要となる困り事の内容は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 高齢者や認知症のある人への介護
2. 障害のある人への介護
3. 失業や不安定な雇用による生活困窮
4. 虐待や暴力
5. 依存症(アルコール、ギャンブル等)
6. 子どもの成長や発達
7. 精神的な障害があることによる生きにくさ
8. ひきこもり、孤立
9. その他(具体的に:)

問32 あなたは、あなた自身やご家族に福祉的な支援（福祉サービス）が必要となる困り事が起きた場合、だれに相談などをしますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 家族や友人など身近な人
2. 民生委員・児童委員
3. 市役所（保健福祉センターやアキシマエンス校舎棟を含む）の相談窓口
4. 地域包括支援センターや障害者相談支援センターなどの相談機関
5. 医師、ケアマネージャー、保育士や福祉施設職員などの身近な専門家
6. 新聞やテレビで情報を入手
7. 市のホームページや広報あきしまで情報を入手
8. インターネット（市のホームページ以外）で情報を入手
9. その他（具体的に： _____）
10. どこに相談していいかわからない
11. 相談しない

問33 昭島市には、さまざまな福祉的な支援（福祉サービス）に関する相談窓口があることをご存知ですか。「A：認知度」「B：利用の有無」「C：利用時の満足度」について、それぞれお答えください。（それぞれのあてはまる選択肢の1つに○）

区 分	A：認知度	B：利用の有無	C：利用時の満足度
1 民生委員・児童委員	1. 知っている 2. 知らない	1. 利用した 2. 利用していない	1. 満足した 2. 不満が残った 3. どちらでもない
2 社会福祉協議会 （あいぽっく2階）	1. 知っている 2. 知らない	1. 利用した 2. 利用していない	1. 満足した 2. 不満が残った 3. どちらでもない
3 保健福祉センター 【健康課】 （あいぽっく）	1. 知っている 2. 知らない	1. 利用した 2. 利用していない	1. 満足した 2. 不満が残った 3. どちらでもない
4 教育・発達総合相談窓口 （アキシマエンス校舎棟1階）	1. 知っている 2. 知らない	1. 利用した 2. 利用していない	1. 満足した 2. 不満が残った 3. どちらでもない
5 子ども家庭支援センター （アキシマエンス校舎棟1階）	1. 知っている 2. 知らない	1. 利用した 2. 利用していない	1. 満足した 2. 不満が残った 3. どちらでもない
6 地域包括支援センター （市内5か所）	1. 知っている 2. 知らない	1. 利用した 2. 利用していない	1. 満足した 2. 不満が残った 3. どちらでもない
7 認知症初期相談窓口 （市役所介護福祉課内）	1. 知っている 2. 知らない	1. 利用した 2. 利用していない	1. 満足した 2. 不満が残った 3. どちらでもない
8 障害者相談支援事業所 （あいぽっく2階や虹のセンター25など）	1. 知っている 2. 知らない	1. 利用した 2. 利用していない	1. 満足した 2. 不満が残った 3. どちらでもない
9 昭島市くらし・しごとサポートセンター （昭和町2丁目）	1. 知っている 2. 知らない	1. 利用した 2. 利用していない	1. 満足した 2. 不満が残った 3. どちらでもない

問34 福祉的な支援（福祉サービス）に関する相談をしようとする際に困ったこと、または困りそうなことはなんですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1. 身近に相談できる人がいない | 2. 相談窓口が分からない |
| 3. 誰かに相談することに抵抗を感じる | 4. 相談にかかる費用が心配 |
| 5. 相談後の福祉的支援を受ける費用が心配 | |
| 6. その他（具体的に： | ） |
| 7. 特にない | |

問35 福祉的な支援（福祉サービス）に関する相談窓口について、要望などがありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------------|------------------|
| 1. 1つの窓口でいろいろな相談ができる | 2. 休日や夜間でも相談ができる |
| 3. 予約をしなくても相談ができる | 4. 専門性の高い相談ができる |
| 5. 窓口に行かなくても相談できる | 6. プライバシーが守られている |
| 7. 相談時に子どもや要介護者の面倒をみってくれる | |
| 8. その他（具体的に： | ） |
| 9. 特にない | |

◆ご近所の方の困り事についてお聞きします◆

※ここでお聞きする「**ご近所の方の困り事**」とは、孤立や虐待（子ども、高齢者、障害のある人など）、失業や不安定な雇用等により生活に困窮している状態などをいいます。

問36 あなたは今までに、ご近所の方が困っている事に気づかれたことはありますか。（1つだけに○）

- | | |
|-------|--------------------|
| 1. ある | 2. ない ⇒問38にお進みください |
|-------|--------------------|

→問37 問36で「1 ある」と答えた方にお聞きします。

ご近所の方が困っていることをどのようにして知りましたか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---|---|
| 1. 当事者やその関係者から相談されたから | |
| 2. 当事者やその関係者との立ち話等で困っていることがうかがえたから | |
| 3. 当事者やその関係者の日常生活や行動等に変化があったことが、部外者でも明らかに分かったから | |
| 4. その他（具体的に： | ） |

問38 ご近所の方が困り事を抱えていることがわかった場合、あなたはどうしますか。（あてはまるもの3つまでに○）

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 自分や家族が個人的に手伝いをする | 2. 近隣の人に相談する |
| 3. 自治会の役員に相談する | 4. 民生委員・児童委員に相談する |
| 5. 社会福祉協議会に相談する | 6. 市役所に相談する |
| 7. 交番・警察に相談する | |
| 8. その他（具体的に： | ） |
| 9. 何もしない | |

問39 ご近所の方から手伝いをお願いされた場合、あなたが手伝えると思う範囲について、あてはまるものは何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 日常品の買出し | 2. 家事の手伝い |
| 3. ちょっとした話し相手 | 4. 病院への付き添いや薬の受け取り |
| 5. 病気の時の世話 | 6. 子どもの世話 |
| 7. 介護が必要な高齢者の世話 | 8. 障害のある人の世話 |
| 9. 介助が必要な人の外出時の付き添い | 10. 悩みや不安の相談 |
| 11. 見守り・声掛け・安否確認 | |
| 12. その他(具体的に: |) |
| 13. 手伝わない | |

問40 ご近所の方から手伝いをお願いされた場合、あなたが手伝えると思う頻度について、あてはまるものは何ですか。(1つだけに○)

- | | | |
|--------------|----------|-------------|
| 1. 週6～7日 | 2. 週4～5日 | 3. 週3～4日 |
| 4. 週2～3日 | 5. 週1～2日 | 6. 1か月に1～4回 |
| 7. その他(具体的に: | |) |
| 8. ほとんど手伝わない | | |

5. 福祉に関する制度や事業等についてお聞きます

問41 あなたは、福祉サービスに関する情報をどの程度入手できていると感じていますか。(1つだけに○)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 十分に入手できている | 2. ある程度入手できている |
| 3. あまり入手できていない | 4. ほとんど入手できていない |
| 5. 入手する必要がある | 6. わからない |

問42 あなたは、福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1. 市役所の窓口や広報あきしま | 2. 市のホームページ |
| 3. 社会福祉協議会の窓口や情報誌 | 4. 民生委員・児童委員 |
| 5. 介護保険・障害福祉サービスなどの相談機関 | 6. 医療機関 |
| 7. 福祉サービス事業所・福祉施設 | 8. 家族・親族 |
| 9. インターネット(市ホームページを除く) | 10. 地域の回覧板 |
| 11. 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ | 12. 近所・友人・知り合い |
| 13. その他(具体的に: |) |
| 14. 入手先がわからない | 15. 情報を入手する必要がある |

問43 あなたは、民生委員・児童委員の役割を知っていますか。(1つだけに○)

- | | |
|------------|--------------|
| 1. よく知っている | 2. ある程度知っている |
| 3. あまり知らない | 4. まったく知らない |

※「民生委員・児童委員」とは、民生委員法に基づき厚生労働大臣から委嘱され、市民の皆さんが地域で安心して暮らしていくために相談に応じたり、公的な関係機関等へのつなぎ役となる地域の奉仕者です。

問44 あなたが住んでいる地区を担当している民生委員・児童委員を知っていますか。
(1つだけに○)

1. 活動内容も地区担当者も知っている
2. 職名は聞いたことがあり活動内容も知っているが、地区担当者は知らない
3. 職名は聞いたことがあるが、活動内容までは知らない
4. 職名も活動内容も知らない
5. その他(具体的に:)

問45 あなたは、今後、困った時に民生委員・児童委員に相談をしたいと思いますか。
(1つだけに○)

1. 相談をしたい
2. 相談をしたくない
3. わからない

問46 あなたは、昭島市社会福祉協議会について知っていますか。(1つだけに○)

1. 名前も活動内容も知っている
2. 名前だけでなく、活動内容も少し知っている
3. 名前は知っているが、活動内容は知らない
4. 知らない

※「社会福祉協議会」とは、市民の皆さんが互いに支え合い、安心して地域で暮らすことができるよう、自治会や民生委員・児童委員、福祉施設・団体、ボランティア団体、事業所や市などの参加と協力のもと、地域福祉の向上と推進を目的として、さまざまな活動をしている社会福祉法人です。

問47 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つだけに○)

1. 名称も内容も知っている
 2. 名称を聞いたことはあるが、内容は知らない
 3. 知らない
- } 問49にお進みください

※「成年後見制度」とは、認知症、知的障害、精神障害などの理由で、物事を判断する能力が十分でない方について、本人の権利を守る援助者(成年後見人等)を選び、本人を法律的に支援する制度です。具体的には、本人に代わって財産管理や福祉サービス等の契約を結ぶなどの行為を行います。利用するには、家庭裁判所への申立てが必要です。

→ 問48 問47で「1 名称も内容も知っている」と答えた方にお聞きします。
成年後見制度について、次のことはご存知ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 成年後見制度には、本人の判断能力に応じて「後見」「保佐」「補助」の3つの類型がある
2. 後見人等は、財産管理やサービスの契約などの法律行為を支援する
3. 将来に備えてあらかじめ後見人を選んでおく「任意後見制度」がある
4. 成年後見制度について相談を受ける窓口がある
5. この中に知っていることはない

問49 成年後見制度について思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. 制度がよくわからない | 2. 利用する手続きがよくわからない |
| 3. 利用の手続きが難しい | 4. 費用がどれぐらいかかるかわからない |
| 5. 後見人の信用に不安がある | 6. 相談をどこにしたらいいかわからない |
| 7. その他(具体的に: |) |
| 8. 特にない | |

問50 あなたは、成年後見制度による支援が必要になったときには、成年後見制度を利用したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1. 将来に備えて後見人を選んでおきたい | 2. 必要になれば利用したい |
| 3. 利用したいとは思わない | |
| 4. その他(具体的に: |) |
| 5. わからない | |

問51 あなたは、「ヤングケアラー」という言葉の意味を知っていますか。(1つだけに○)

- | | | |
|----------|----------------------|---------|
| 1. 知っている | 2. 聞いたことはあるが、意味は知らない | 3. 知らない |
|----------|----------------------|---------|

※「ヤングケアラー」とは、本来大人がすると想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている18歳未満の子どものことをいいます。

問52 あなたの世帯、またはあなたの周囲で「ヤングケアラー」と思われる人がいますか。(1つだけに○)

- | | | |
|-------|--------|----------|
| 1. いる | 2. いない | 3. わからない |
|-------|--------|----------|

6. 災害時の対策についてお聞きます

問53 あなたは、日頃から地域の防災訓練に参加していますか。(1つだけに○)

- | | | |
|-----------|------------|----------|
| 1. 参加している | 2. 参加していない | 3. わからない |
|-----------|------------|----------|

問54 あなたは、災害が起こったとき、自分自身やご家族がどこに避難(避難場所など)すればいいか知っていますか。(1つだけに○)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問55 あなたは、災害が発生したときに1人で避難できますか。(1つだけに○)

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1. 1人で避難できる | |
| 2. 1人で避難できない。ただし、家族や近所の人支援してくれる予定だ | |
| 3. 1人で避難できない。また、周りに助けてくれる家族や近所の人はいない | |
| 4. その他(具体的に: |) |

問56 災害が発生したときに、地域の手助け等の支援を必要とするご近所の方のために、あなたが協力してあげられることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 安否確認・声掛け | 2. 安全な場所への避難誘導 |
| 3. 要援護者の家族への連絡 | 4. 一時的な保護 |
| 5. 相談・話し相手 | 6. 応急手当 |
| 7. その他（具体的に： | ） |
| 8. 協力することは難しい、できない | |

問57 災害時に支援を必要とする人への支援対策として、地域でどのような備えをしておくことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 災害時に支援を必要とする人の住んでいる場所や要介護・障害の程度の把握
 2. 災害時に支援を必要とする人への避難支援をする人（避難支援者）の決定
 3. 災害発生時に、避難支援のため避難情報を伝える方法の確認
 4. 地域での日常的な避難支援体制づくり（防災訓練・避難訓練など）
 5. 防災マップや避難支援マップの整備
 6. 自主防災組織の立ち上げ
 7. 災害時に活動することができるボランティアの育成
 8. 高齢者や乳幼児などの支援を必要とする人向けの物資
 9. その他（具体的に：
- ）

問58 あなたやご家族は、自宅以外の場所へ避難しなければならない事態に備えてどのような対策をとっていますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 1. 避難場所の位置を確認している | 2. 家族や知人などと連絡方法を決めている |
| 3. 地域の避難訓練に参加している | 4. 非常食など持ち出し品を用意している |
| 5. 実際に避難場所まで行き、避難経路を確認している | |
| 6. その他（具体的に： | ） |
| 7. 特に何もしていない | |

7. 地域福祉についてお聞きます

問59 これからの地域づくりと住民との関わりについて、あなたの考えに最も近いものはどれですか。（1つだけに○）

1. 住民が地域づくりにできるだけ主体的に関わるべきだと思う
 2. 地域づくりは専門家や専門機関が主体的に行い、住民はその手伝いをするべきだと思う
 3. 市役所などの行政と地域住民などが相互に協力しあっていくべきだと思う
 4. 地域づくりは市役所などの行政が主体的に行うべきであり、地域住民が関わるのは難しいと思う
 5. その他（具体的に：
- ）
-
6. わからない

問60 昭島市の地域福祉に対してどのような印象をお持ちですか。①～⑤について、それぞれお答えください。（それぞれのあてはまる選択肢の1つに○）

区 分	そう思う	まあそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
①子育て家庭が暮らしやすいまち	1	2	3	4	5
②高齢者が暮らしやすいまち	1	2	3	4	5
③障害のある人が暮らしやすいまち	1	2	3	4	5
④地域住民の活動が盛んなまち	1	2	3	4	5
⑤困ったときに隣近所で助け合えるまち	1	2	3	4	5

問61 あなたは、地域福祉に関する施策を効果的に進めていくために、昭島市は今後、どのように取り組むべきだとお考えですか。（あてはまるもの3つまでに○）

1. 民間事業者のノウハウをいかし、質のよいサービスを提供すること
2. 市民に地域福祉の参加を呼びかけたり、参加するための支援をすること
3. 現在、市が行っている施策について、第三者による評価、見直しを行うこと
4. 市民のニーズを詳細に把握する調査を行うこと
5. 職員の教育、研修を充実させること
6. 福祉サービスの手続の方法等を見直し、利用しやすくすること
7. ボランティアや団体等の担い手の育成をすること
8. 社会福祉協議会が行う地域福祉事業を充実すること
9. その他（具体的に： _____）
10. 特にない

問62 地域福祉に関してご意見、ご要望などをご自由にお書きください。

次ページに続きます。

8. 昭島市の福祉に関する取組についてお聞きます

問63 市が取り組んでいる下記の1～14の施策の「A：認知度」「B：関心度」についてお答えください。（それぞれあてはまる選択肢の1つに○）

	分野	主な取組	主な事業内容	A：認知度	B：関心度
1	健康支援・医療体制の充実	健康づくりの推進	・保健福祉センター運営 ・健康教育 ・健康相談	1. 知っている 2. 多少知っている 3. 知らない	1. 関心がある 2. 関心はない 3. どちらでもない
2		保健・予防対策の推進	・がん検診 ・予防接種 ・健康診査、母子健康診査	1. 知っている 2. 多少知っている 3. 知らない	1. 関心がある 2. 関心はない 3. どちらでもない
3		医療体制の整備	・献血運動 ・かかりつけ医（歯科医・薬局）づくり	1. 知っている 2. 多少知っている 3. 知らない	1. 関心がある 2. 関心はない 3. どちらでもない
4	高齢者福祉の充実	介護保険事業	・地域包括支援センターにおける各種事業の運営 ・在宅サービスの提供	1. 知っている 2. 多少知っている 3. 知らない	1. 関心がある 2. 関心はない 3. どちらでもない
5		社会参加への支援	・高齢者福祉センター運営 ・高齢者各種教室 ・敬老大会	1. 知っている 2. 多少知っている 3. 知らない	1. 関心がある 2. 関心はない 3. どちらでもない
6		尊厳ある暮らしへの支援	・高齢者の虐待防止に関する各種取組 ・認知症検診、初期相談窓口	1. 知っている 2. 多少知っている 3. 知らない	1. 関心がある 2. 関心はない 3. どちらでもない
7		高齢者福祉サービスの充実	・食事配食サービス ・シルバーゆうゆう事業 ・紙おむつ購入費助成	1. 知っている 2. 多少知っている 3. 知らない	1. 関心がある 2. 関心はない 3. どちらでもない
8	障害者福祉の充実	保健医療の充実	・自立支援医療費助成 ・心身障害者医療費助成	1. 知っている 2. 多少知っている 3. 知らない	1. 関心がある 2. 関心はない 3. どちらでもない
9		社会的自立への支援	・日常生活支援用具給付 ・移動支援 ・地域活動支援センター	1. 知っている 2. 多少知っている 3. 知らない	1. 関心がある 2. 関心はない 3. どちらでもない
10		自立に向けた基盤の整備	・障害児通所支援サービス ・就労支援 ・障害福祉サービス	1. 知っている 2. 多少知っている 3. 知らない	1. 関心がある 2. 関心はない 3. どちらでもない
11	セーフティネット環境整備	生活支援	・生活保護 ・生活困窮者自立支援事業（相談支援、住居確保給付金）	1. 知っている 2. 多少知っている 3. 知らない	1. 関心がある 2. 関心はない 3. どちらでもない
12	子ども・子育て環境の整備	子育て家庭への支援	・保育園や学童クラブ運営 ・児童手当、医療費助成 ・子育てひろば	1. 知っている 2. 多少知っている 3. 知らない	1. 関心がある 2. 関心はない 3. どちらでもない
13		子どもの健全育成	・児童センター運営 ・放課後子ども教室 ・青少年フェスティバル	1. 知っている 2. 多少知っている 3. 知らない	1. 関心がある 2. 関心はない 3. どちらでもない
14		要支援児童・家庭への支援	・子ども家庭支援センター（相談支援や虐待対応） ・児童発達支援や相談支援	1. 知っている 2. 多少知っている 3. 知らない	1. 関心がある 2. 関心はない 3. どちらでもない

以上でアンケートは終了です。

お忙しいところご協力をいただきありがとうございました。

「昭島市地域福祉計画」策定のための
市民アンケート調査 報告書
令和5年3月発行

編集・発行
〒196-8511 東京都昭島市田中町1丁目17番1号
昭島市 福祉総務課 福祉総務係

